

## uCosminexus Enterprise Search 運用ガイド

解説・手引・操作書

3020-3-H91-40

---

## 前書き

### ■ 対象製品

R-1595S-13 uCosminexus Enterprise Search 08-73 (適用 OS : Windows Server 2003 R2, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012)

### ■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

### ■ 商標類

Active Directory は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Lotus Domino は、IBM Corporation の登録商標です。

Lotus Notes は、IBM Corporation の登録商標です。

Microsoft および SQL Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft, Microsoft SQL Server, Microsoft Word, Windows, および Windows Server は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。

SiteMinder は、CA, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名は、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

### ■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

製品名称	略称
Microsoft(R) Windows(R) XP Home Edition Operating System	Windows XP
Microsoft(R) Windows(R) XP Professional Operating System	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2 Standard Edition	Windows Server(R) 2003 R2

製品名称	略称
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2 Enterprise Edition	Windows Server(R) 2003 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2 Standard Edition (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2003 R2 Enterprise Edition (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Edition	Windows Server 2008
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Edition	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Standard Edition (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 Enterprise Edition (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Standard Edition (x64)	Windows Server 2008 R2
Microsoft(R) Windows Server(R) 2008 R2 Enterprise Edition (x64)	
Microsoft(R) Windows Server(R) 2012 Standard Edition	Windows Server 2012
Microsoft Internet Explorer 7.0	Internet Explorer
Microsoft Internet Explorer 8.0	
Microsoft Internet Explorer 9.0	
Microsoft Internet Explorer 10.0	

## ■ 発行

2013年9月 3020-3-H91-40

## ■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, 2013, Hitachi, Ltd.

All Rights Reserved. Copyright (C) 2011, 2013, Hitachi Solutions, Ltd.

## 変更内容

### 変更内容 (3020-3-H91-40) uCosminexus Enterprise Search 08-73 (適用 OS : Windows Server 2003 R2, Windows Server 2008, Windows Server 2008 R2, Windows Server 2012)

追加・変更内容	変更箇所
WWW クローラーでアクセス権を設定できるようになりました。	5.4.1
サーバー設定に多機能検索画面設定を追加しました。	8.2.5
仮想フォルダー画面を追加しました。	6
クライアントで使用できるブラウザに Internet Explorer 10.0 をサポートしました。	—
情報削除コマンドを追加しました。	9.10

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

## はじめに

このマニュアルは、uCosminexus Enterprise Search の機能について説明したものです。このマニュアルでは、管理画面およびコマンド機能について説明します。また、管理画面およびコマンド機能を使用してシステムを運用する手順についても説明しています。このマニュアルは、管理画面を使用する OS を Windows XP、ブラウザを Internet Explorer 7.0 として作成しています。ご使用の OS、ブラウザにより表記には違いがあります。詳細は、Windows のヘルプをご確認ください。

なお、以降このマニュアルでは uCosminexus Enterprise Search を Enterprise Search と表記します。

### ■ 対象読者

このマニュアルは、Enterprise Search を運用するシステム管理者（以降アドミニストレーター）の方を対象にしています。次の内容を理解されていることを前提としています。

- Windows のコマンド操作、および運用に関する知識
- WWW サーバー、HTML、および RDB に関する知識
- Enterprise Search の GUI 画面の操作
- Notes を収集対象とする場合、Notes に関する知識
- Groupmax を収集対象とする場合、Groupmax に関する知識

### ■ このマニュアルで使用する記号

このマニュアルで使用する記号について次に示します。

記号	意味
「」	画面、フレーム、アイコン、テキストボックスなどの名称を示します。
[]	タブ、ボタンなどの名称を示します。
△	1 文字の半角空白を示します。

### ■ 操作上の注意事項

- ボタン、アイコン、およびリンクをクリックする場合は、ダブルクリックしないでください。
- Web ブラウザーの [戻る] ボタンを使用しないでください。
- 一定の時間を空けて画面操作をした場合、セッション切れによりログイン画面が表示されることがあります。

- Web ブラウザーの [ツール] – [インターネットオプション] – [セキュリティ] タブ – [レベルのカスタマイズ] で, [スクリプトを実行しても安全だとマークされている ActiveX コントロールのスクリプトの実行] と [アクティブスクリプト] を, どちらも [有効にする] に設定してください。なお, IE のバージョンによっては, 文言が異なる場合があります。
- Web ブラウザーに Internet Explorer 9.0 または Internet Explorer 10.0 を使用する場合, [ツール] – [インターネットオプション] – [全般] タブ – [設定] で, タブブラウザの設定を [常に新しいウィンドウでポップアップを開く] に設定してください。
- Web ブラウザーに Internet Explorer 10.0 を使用する場合, [ツール] – [互換表示設定] で, Enterprise Search のアドミニストレーター画面のログイン URL を登録してください。

# 目次

前書き	2
変更内容	4
はじめに	5

## 1 運用を開始する前に 11

1.1	Enterprise Search の概要	12
1.1.1	Enterprise Search の特長	12
1.2	外部システムのアクセス権連携	13

## 2 ログインと画面構成 15

2.1	ログイン	16
2.2	アドミニストレーター画面の構成	17

## 3 ユーザー管理 19

3.1	ユーザー登録	20
3.2	ユーザー一括登録	22
3.2.1	ユーザー一括登録の情報登録ファイルの形式	22
3.2.2	CSV ファイル作成時の注意事項	24
3.2.3	ユーザー一括登録の手順	24
3.3	アカウント	27
3.3.1	アカウント詳細	28
3.4	外部ユーザー情報登録	31
3.4.1	外部ユーザー情報登録用 CSV ファイルの形式	31
3.4.2	外部ユーザー情報登録の実行	33

## 4 RSS 管理 34

4.1	RSS 情報一覧	35
4.2	RSS 情報詳細	37
4.2.1	エントリー数の上限設定	38
4.2.2	エントリー情報一覧	39
4.3	RSS 追加	42
4.3.1	URL を指定した RSS フィードの追加	42
4.3.2	アンテナモードでの Web サイト追加	44
4.4	クローリング停止 RSS	46
4.5	クローリングエラー RSS	47

<b>5</b>	<b>クローラー管理 48</b>
5.1	クローラー管理とは 49
5.2	クローラー一覧 51
5.3	クローラーの追加 53
5.4	クローラー詳細情報の設定 54
5.4.1	クローラー詳細情報の共通設定項目 54
5.4.2	RSS クローラー詳細情報 60
5.4.3	WWW クローラー詳細情報 61
5.4.4	NTFS クローラー詳細情報 63
5.4.5	Notes クローラー詳細情報 65
5.4.6	RDB クローラー詳細情報 66
5.4.7	Groupmax クローラー詳細情報画面 70
5.5	クローラーの共通定義 75
5.5.1	ユーザー認証定義 75
5.5.2	ユーザー認証定義の詳細情報 76
5.5.3	プロキシ定義の設定 78
5.5.4	プロキシ定義の詳細情報 78
5.5.5	Notes 認証定義の設定 80
5.5.6	Notes 認証定義の詳細情報 80
5.5.7	SiteMinder 定義 82
5.5.8	SiteMinder 定義の詳細情報 82
5.5.9	共通定義の更新 84
<b>6</b>	<b>仮想フォルダー管理 85</b>
6.1	仮想フォルダーとは 86
6.2	仮想フォルダー画面 87
6.3	仮想フォルダー作成画面 90
6.4	仮想フォルダー詳細画面 94
6.5	クローラーの仮想フォルダー 97
<b>7</b>	<b>アドミニストレーター管理 99</b>
7.1	管理ユーザー情報 100
<b>8</b>	<b>サーバー情報 102</b>
8.1	サーバー情報 103
8.2	サーバー設定 104
8.2.1	認証設定 104
8.2.2	検索設定 112
8.2.3	Groupmax 検索設定 112
8.2.4	Web サービス設定 114

- 8.2.5 多機能検索画面設定 115
- 8.3 統計情報 117
- 8.3.1 検索統計画面 117
- 8.3.2 クローラー統計画面 119
- 8.3.3 検索インデクス統計画面 121
- 8.3.4 ランキング画面 123

## 9 Enterprise Search のコマンド 126

- 9.1 ユーザー情報の一括登録 127
- 9.1.1 ユーザー情報一括登録コマンド 127
- 9.2 外部ユーザー情報のコマンド 129
- 9.2.1 Active Directory ユーザーグループの関連情報出力コマンド 129
- 9.2.2 Domino Directory ユーザーグループ関連情報出力コマンド 131
- 9.2.3 外部ユーザーグループ情報登録コマンド 133
- 9.2.4 外部ユーザー情報関連付けコマンド 133
- 9.3 全文検索データ連携のコマンド 136
- 9.3.1 全文検索データ連携のコマンド 136
- 9.3.2 全文検索データ再収集のコマンド 137
- 9.4 キーワード候補ファイルの作成 139
- 9.4.1 キーワード候補ファイル作成コマンド 139
- 9.5 統計レポートのコマンド 142
- 9.5.1 ランキング集計コマンド 142
- 9.5.2 クロール統計情報取得コマンド 145
- 9.5.3 登録データ統計情報取得コマンド 145
- 9.5.4 検索インデクス統計情報取得コマンド 146
- 9.5.5 検索統計情報取得コマンド 147
- 9.5.6 統計情報削除コマンド 148
- 9.6 クローラー定義一括登録コマンド 150
- 9.6.1 コマンドの形式 150
- 9.6.2 定義ファイルの形式 151
- 9.6.3 定義ファイルの記述規則 152
- 9.6.4 新規登録（追加）の場合 153
- 9.6.5 更新の場合 154
- 9.7 クローラーの実行・停止コマンド 157
- 9.7.1 クロール実行コマンド 157
- 9.7.2 IWS クロールコマンド 160
- 9.7.3 IWS クロール停止コマンド 163
- 9.8 Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド 165
- 9.8.1 Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド 165

- 9.9 単語情報出力コマンド 167
- 9.9.1 単語情報出力コマンド 167
- 9.10 情報削除コマンド 170
- 9.10.1 ログ情報削除コマンド 170
- 9.10.2 期限切れエントリー定期削除コマンド 171

## 付録 173

- 付録 A このマニュアルの参考情報 174
- 付録 A.1 関連マニュアル 174
- 付録 A.2 このマニュアルでの表記 174
- 付録 A.3 英略語 175
- 付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について 175
- 付録 B 用語解説 176

## 索引 178

# 1

## 運用を開始する前に

Enterprise Search の運用を開始する前に知っておいていただきたいことについて説明しています。

## 1.1 Enterprise Search の概要

---

Enterprise Search の概要について説明しています。

### 1.1.1 Enterprise Search の特長

Enterprise Search は、ファイルサーバーやイントラサイトを含めた社内外のコンテンツを一括して検索できるエンタープライズサーチ製品です。

検索範囲を指定した検索や、日付、コンテンツの種別などで条件を絞り込んだ検索ができるだけでなく、コンテンツのアクセス権に応じた検索結果の表示や、運用中のデータを集計して統計情報として表やグラフで画面に表示することもできます。

Enterprise Search は、次の特長を備えています。

#### (1) 企業内文書の横断的な検索

Enterprise Search は 1 回のキーワードの指定で、企業内のファイルサーバー、イントラネット、グループウェア、リレーショナルデータベースを横断的に検索できます。

#### (2) アクセス権を考慮した検索

Enterprise Search では、Domino Directory や Groupmax などの外部システム独自のユーザー認証情報や、Active Directory のユーザー認証情報を取り込んで、Enterprise Search のユーザーとして同じアクセス権での検索ができます。また、Active Directory 上のコンテンツに対しては Enterprise Search 上でユーザー作成をしないで、Active Directory のユーザー認証情報だけで検索することもできます。

アクセス権を統一することにより、同じクローラーを使用している場合でもユーザーが参照権を持つデータだけが表示されるため、セキュリティ管理が容易になります。

#### ■ 参考

Groupmax の場合は、Enterprise Search から Groupmax を検索するか、Groupmax で Enterprise Search の検索ポートレットを使用して検索するかを選ぶことができます。

## 1.2 外部システムのアクセス権連携

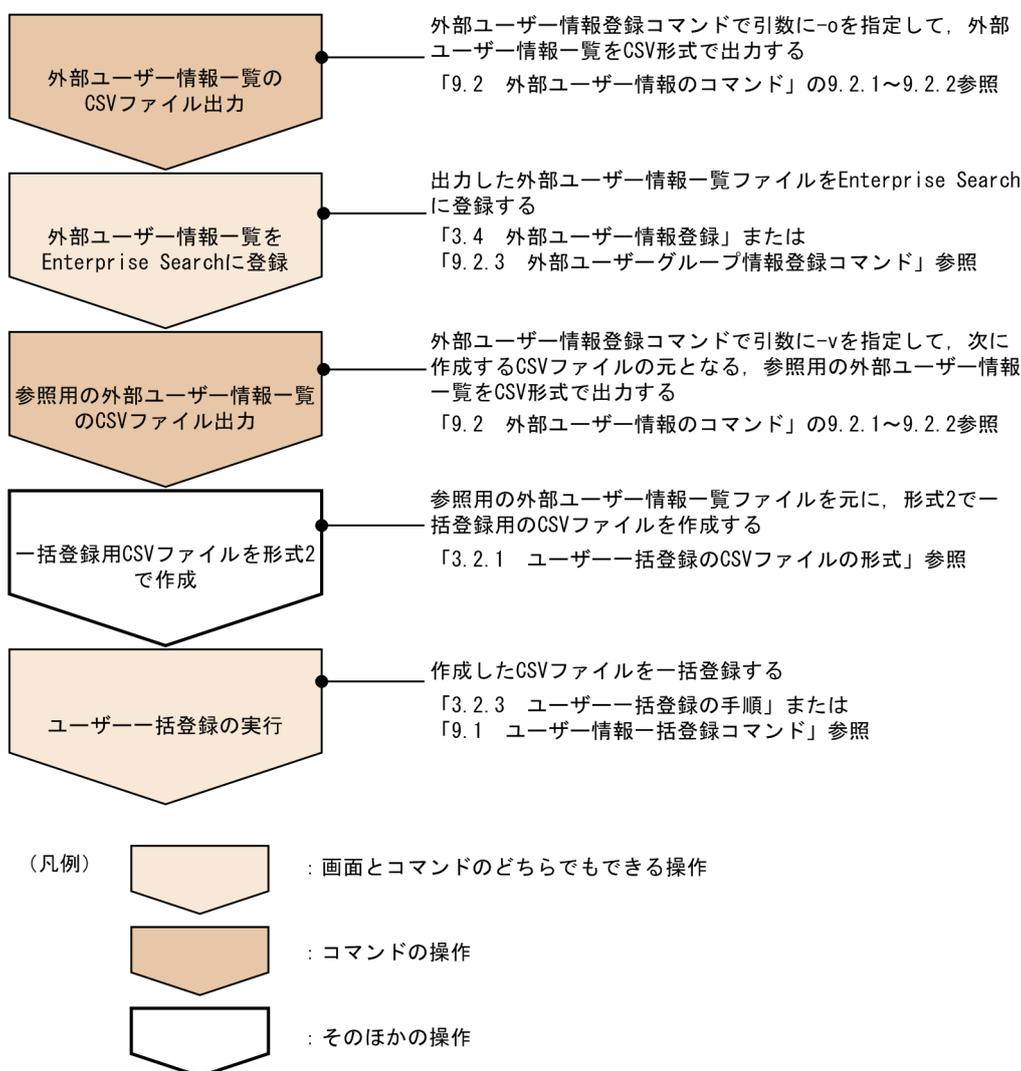
Enterprise Search では、すでに運用中の外部システムのユーザー認証情報を取り込んで、Enterprise Search のユーザーとして同じアクセス権で運用することができます。

アクセス権の取り込みができる外部システムは、Domino Directory のシステム独自のユーザー認証情報、および Active Directory のユーザー認証情報です。

ユーザー認証情報を取り込む手順を、次の図に示します。

なお、Active Directory ユーザー管理オプションを使用する場合は、ここで説明する手順を実行する必要はありません。Active Directory ユーザー管理オプションの詳細については「[8.2.1 認証設定](#)」を参照してください。

図 1-1 ユーザー認証情報の取り込み手順

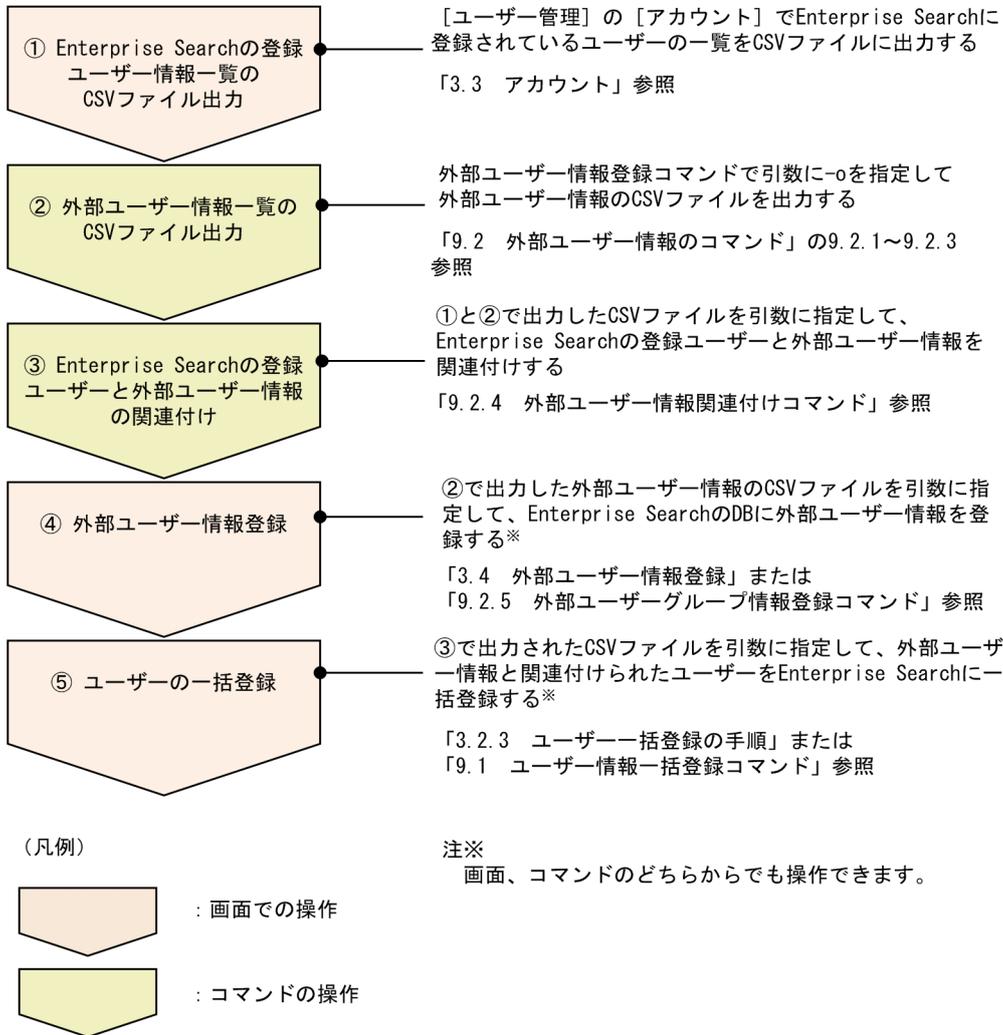


なお、外部システムを複数構成でクローラーに設定する場合は、共通クローラー識別子の設定が必要です。詳細については「[5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目](#)」を参照してください。

また、Groupmax の場合はアドミニストレーター画面での設定が必要となります。詳細については「8.2.3 Groupmax 検索設定」を参照してください。

Enterprise Search のユーザーのログイン ID と外部システムのユーザー ID が一致している場合は、複数の外部システムと連携することができます。複数の外部システムと連携する手順を次に示します。

## 図 1-2 複数の外部ユーザーと連携する手順



ログイン ID が一致している場合、②~④の手順を連携する外部システムの数だけ繰り返してください。Enterprise Search と登録した数だけの外部ユーザー情報を関連付けて、③で CSV ファイルを出力します。最後にユーザー一括登録を一度実行すると、外部システムとの連携が終了します。

# 2

## ログインと画面構成

アドミニストレーターの使用する画面構成について説明します。

## 2.1 ログイン

Enterprise Search の管理画面のログイン URL へアクセスします。URL の例を次に示します。

http://ホスト名\*/iwsearch/admin/loginAdmin.html

注※ ホスト名はサーバーの環境により異なります。

ログイン URL へアクセスすると、次の画面が表示されます。

図 2-1 ログイン画面



アドミニストレーターのログイン ID とパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックすると「トップ画面（アドミニストレーター）」が表示されます。

アドミニストレーターの初期パスワードは次のとおりです。

- ログイン ID : iws
- パスワード : iws-admin

ログイン ID、およびパスワードは、大文字・小文字を区別します。

なお、アドミニストレーターのパスワードは、ログインしたあと変更してください。

詳細については「[7. アドミニストレーター管理](#)」を参照してください。

## 2.2 アドミニストレーター画面の構成

Enterprise Search のアドミニストレーター画面の構成について説明します。

図 2-2 トップ画面



表示される項目について、次の表に示します。

表 2-1 アドミニストレーター画面の表示項目

#	項目名	種類	説明
①	ユーザー管理	ユーザー登録	ユーザーの登録ができます。情報登録ファイルを利用して、複数のユーザーを一括で登録することもできます。
		アカウント	登録されているユーザーを一覧で表示します。 また、登録内容の編集、ユーザーの検索、全ユーザー一覧のダウンロードができます。
		外部ユーザー情報登録	コマンドで出力した CSV 形式の外部ユーザー情報登録ファイルを登録します。
②	RSS 管理	RSS 情報	RSS の情報表示と編集ができます。 また、クローリング停止 RSS、クローリングエラー RSS の確認ができます。
③	クローラー管理	クローラー情報	クローラー情報の表示と編集ができます。
④	仮想フォルダー管理	仮想フォルダー情報	仮想フォルダー情報の表示と編集ができます。 サーバー設定で仮想フォルダー機能を無効にしている場合は、表示されません。
⑤	アドミニストレーター管理	管理ユーザー情報	アドミニストレーターの「ログイン ID」、「パスワード」を変更できます。
⑥	サーバー情報	サーバー情報	サーバーの情報を表示します。
		サーバー設定	サーバーの次の項目を設定できます。

#	項目名	種類	説明
⑥	サーバー情報	サーバー設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ユーザー認証 ユーザー認証に関する設定項目です。</li> <li>• 検索機能 検索機能に関する設定項目です。</li> <li>• Groupmax 検索設定 Groupmax に関する設定項目です。</li> <li>• 多機能検索画面設定 多機能検索画面に関する設定項目です。</li> </ul>
		統計レポート	運用中のデータを統計した結果を、表やグラフで表示します。
⑦	ログアウト		Enterprise Search 管理画面からログアウトします。 [ログアウト] リンクをクリックすると、ログアウト画面が表示されます。

# 3

## ユーザー管理

ユーザーの登録やアクセス権の管理、およびアカウントについて説明します。

なお、Groupmax のユーザー情報の登録は、クローラー詳細情報画面で Groupmax のエクスポートファイルを指定して行うため、ここでの手順は必要ありません。

また、Active Directory ユーザー管理オプションを使用している場合、ユーザー管理のメニューで操作した内容は反映されません。

## 3.1 ユーザー登録

ユーザーを個別に Enterprise Search に登録する画面です。ユーザー管理の [ユーザー登録] リンクをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 3-1 ユーザー登録画面

ユーザー登録画面の項目を次の表に示します。

表 3-1 ユーザー登録画面の項目

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	ログイン ID※1	必須	ユーザーが Enterprise Search にログインするときに使用するログイン ID を入力します。 使用できる文字は半角英数字、- (半角ハイフン)、_ (半角アンダースコア) の記号です。	1～256 文字
②	パスワード/ パスワード (確認)	必須	ユーザーが Enterprise Search にログインするときに使用するパスワードを入力します。使用できる文字は半角英数字と次に示す記号です。 ! " # \$ % & ' ( ) [ ] * + , - . / : ; < = > ? @ [ ¥ ] ^ _ ` {   } ~	1～16 文字
③	名前	必須	ユーザーの名前を入力します。 使用できる文字は、全角、および半角の英数字記号です。	64 文字以内
④	Email	任意	ユーザーの Email アドレスを入力します。	255 文字以内
⑤	部署	任意	ユーザーの所属する部署名を入力します。	64 文字以内

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑤	部署	任意	使用できる文字は、全角および半角の英数字記号です。	64 文字以内
⑥	イメージ URL※2	任意	<p>イメージ画像 (JPEG 形式) が保存されている URL を入力します。登録した画像は、アカウント一覧画面やアカウント詳細画面に、横幅 36pixel 固定で縮小表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入力例：http://enterprise.ne.jp/search/usr_image/uid0001.jpeg</li> </ul>	2,048 文字以内

### 注※1

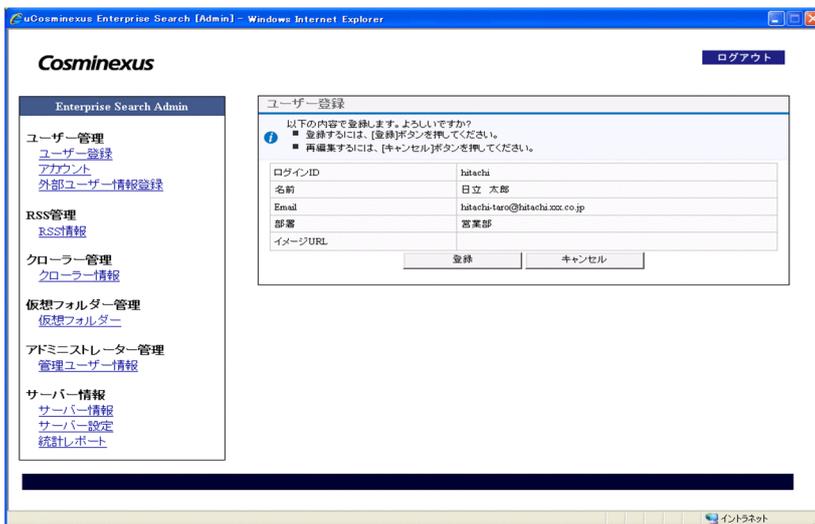
ログイン ID は、大文字・小文字を区別します。このため、同じ文字列の場合でも大文字・小文字で別ユーザーとして作成できます。例えば、「HITACHI」と「hitachi」で別のユーザーとしてログイン ID を作成できます。

### 注※2

- URL に全角文字を指定する場合は、URL エンコードした文字列を指定してください。
- Enterprise Search として、ユーザーのイメージ画像を登録する機能はありません。登録できるのは、ユーザー側で用意された画像に対する URL 情報です。ユーザーの使用するブラウザから参照できる URL を、JPEG 形式のイメージ画像として指定してください。

ユーザーの登録情報を入力し [確認] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

## 図 3-2 ユーザー登録画面 (確認)



入力内容を確認し [登録] ボタンをクリックすると登録が完了します。

訂正する場合は [キャンセル] ボタンをクリックしてください。

## 3.2 ユーザー一括登録

CSV 形式の情報登録ファイルを作成して、複数のユーザーを一括で登録できます。

### 注意事項

ユーザー一括登録コマンドでユーザーを登録する場合は、「3.2.3 ユーザー一括登録の手順」の参照は必要ありません。情報登録ファイルを作成したあと、「9.1 ユーザー情報一括登録コマンド」を参照してください。

### 3.2.1 ユーザー一括登録の情報登録ファイルの形式

ユーザーを一括で登録するための CSV 形式のファイルを、情報登録ファイルといいます。ユーザー情報一括登録コマンドでユーザーを一括登録する場合、外部ユーザーと連携する場合も、この情報登録ファイルを作成する必要があります。

### 注意事項

外部ユーザーと連携する場合は情報登録ファイルを作成する前に、作成する情報登録ファイルの参考ファイルとして、ユーザーグループの関連情報出力コマンドの引数-v で、参考用のファイルを出力しておく必要があります。詳細については「9.2.1 Active Directory ユーザーグループの関連情報出力コマンド」、または「9.2.2 Domino Directory ユーザーグループ関連情報出力コマンド」を参照してください。

情報登録ファイルは、外部ユーザーと連携するかにより形式が異なります。

- 外部ユーザーと連携しない場合：形式 1
- 外部ユーザーと連携する場合：形式 2

情報登録ファイルの形式を次の表に示します。ユーザーごとに改行して記述してください。なお、形式 2 で情報登録ファイルを作成する場合は、コマンドで出力した参考用の CSV ファイルを元にしてください。

表 3-2 ユーザー一括登録の CSV ファイルの形式

書式	内容
形式 1	ログイン ID,パスワード,名前,Email,0,0,0,イメージ URL,部署<改行>
形式 2	レコード種別,ログイン ID,パスワード,名前,Email,0,0,0,イメージ URL,部署[,ユーザー関連,[ユーザー関連]]<改行>

## 注意事項

- データは CSV（カンマ区切り）形式で、文字コードは UTF-8 形式で記述してください。
- 使用できる改行コードは、CR+LF, CR, LF です。
- 0 は予約領域です。固定値として記述してください。

ユーザー一括登録で指定する項目について、次の表に示します。

表 3-3 ユーザー一括登録で指定する項目

項目名	指定規則	説明
レコード種別	形式 1：任意	次のどれかを指定します。
	形式 2：必須	<ul style="list-style-type: none"><li>• *UPDATE（更新） ユーザー情報を追加・更新します。同じ「ログイン ID」が存在する場合は、上書きします。</li><li>• *REMOVE（削除） ユーザー情報を削除します。同じ「ログイン ID」が存在しない場合は何もしません。</li><li>• *ADD（追加） ユーザー情報を追加します。同じ「ログイン ID」が存在する場合は、エラーでお知らせします。</li></ul>
パスワード/パスワード（確認）	形式 1：必須	ユーザーが Enterprise Search にログインするときに使用するパスワードを、1～16 文字で入力します。
	形式 2：必須/任意	パスワードには半角英数字と記号*が使用できます。 形式 2 の場合の指定種別を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• レコード種別が ADD の場合：必須</li><li>• レコード種別が UPDATE の場合：任意</li><li>• レコード種別が REMOVE の場合：パスワードの指定に関係なくデータを削除します。</li><li>• 空文字を指定した場合：パスワードの更新は行いません。</li></ul>
Email	任意	Email アドレスを 255 文字以内で入力します。設定しない場合は空にしてください。項目を区切る、(カンマ) は削除しないでください。
ユーザー関連	形式 1：なし 形式 2：任意	外部ユーザーと連携する場合に指定する項目です。 Active Directory ユーザー、Notes ユーザーなどの外部ユーザー情報を特定するキーを指定します。指定形式を次に示します。 ユーザー関連=外部システムキー,外部ユーザーキー文字列 <ul style="list-style-type: none"><li>• 外部システムキー：「クローラー追加画面」で指定した共通クローラー識別子を、10 文字以内で指定します。設定しない場合は省略できます。</li><li>• 外部ユーザーキー文字列：外部ユーザー情報のキー文字列を、255 文字以内で指定します。</li></ul>

## 注意事項

パスワードに使用できる記号を次に示します。

! " # \$ % & ' ( ) [ ] \* + , - . / : ; < = > ? @ [ ] ^ \_ ` { | } ¥ ~

## 注意事項

「ログイン ID」、「名前」、「イメージ URL」、「部署」の各項目についてはユーザー登録時と同じです。詳細については「[3.1 ユーザー登録](#)」を参照してください。

### 3.2.2 CSV ファイル作成時の注意事項

ユーザー一括登録で使用する CSV ファイルを作成するときの注意事項を次に示します。

- ファイル名には、半角英数字、\_（アンダースコア）、-（ハイフン）、.（ドット）が使用できます。
- 拡張子は「.csv」です。
- 各項目に、（半角カンマ）を使用する場合は、"（半角ダブルクォート）で囲んでください。
- 各項目に"（半角ダブルクォート）を使用する場合は、項目の両端を"で囲んだ上で項目内の"を"'"と二つ並べてください。例えば「"Enterprise Search"ファイル」と指定する場合は、「"'Enterprise Search"'ファイル」と記述してください。
- 設定しない項目には空文字を指定し、項目を区切る、（カンマ）は削除しないでください。
- 登録できるユーザー数の上限は、ライセンス数により違いがあります。
- CSV ファイルの行数の上限は 65,536 行です。
- CSV ファイルの登録時に仕様と異なる CSV 形式で入力した場合は、エラーが出力されます。エラーの箇所を修正したあと、再度登録を実行してください。エラーの場合は、CSV ファイルのデータはすべて未登録となります。

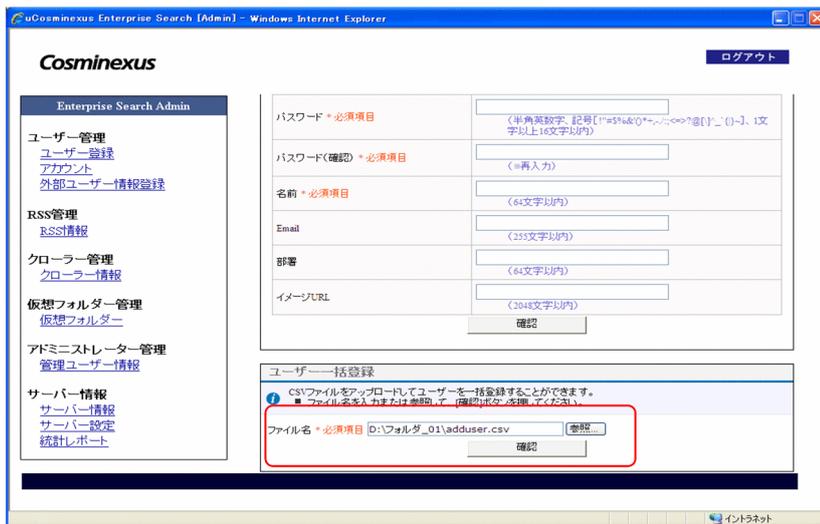
### 3.2.3 ユーザー一括登録の手順

ユーザーの一括登録は、ユーザー情報一括登録コマンドでも実行できます。「[9.1 ユーザー情報一括登録コマンド](#)」を参照してください。コマンドでユーザーを一括登録する場合は、ここでの手順は参照する必要はありません。

この項では、ユーザー登録画面からユーザーを一括登録する手順について説明します。

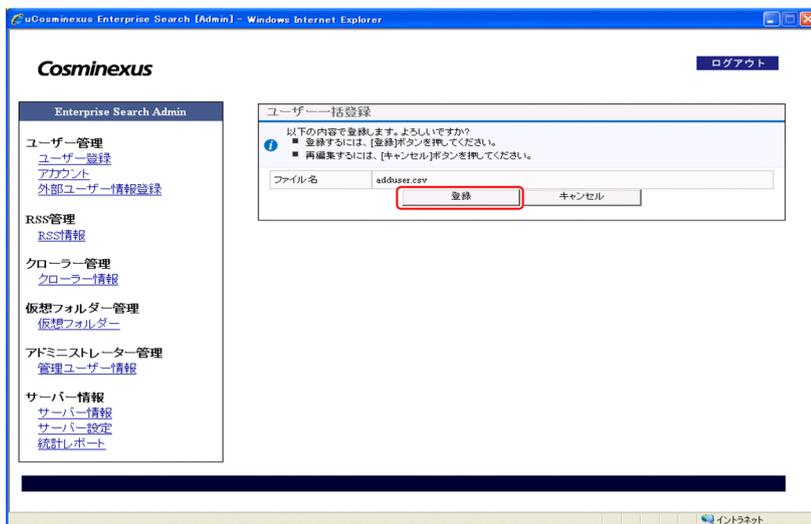
1. ユーザー管理の [ユーザー登録] リンクをクリックして [図 3-1 ユーザー登録画面] を表示します。
2. [参照] ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。一括登録用の CSV ファイルを指定します。直接ファイルパスを入力して、CSV ファイルを指定することもできます。[確認] ボタンをクリックします。

図 3-3 ユーザー一括登録画面 (CSV ファイル選択)



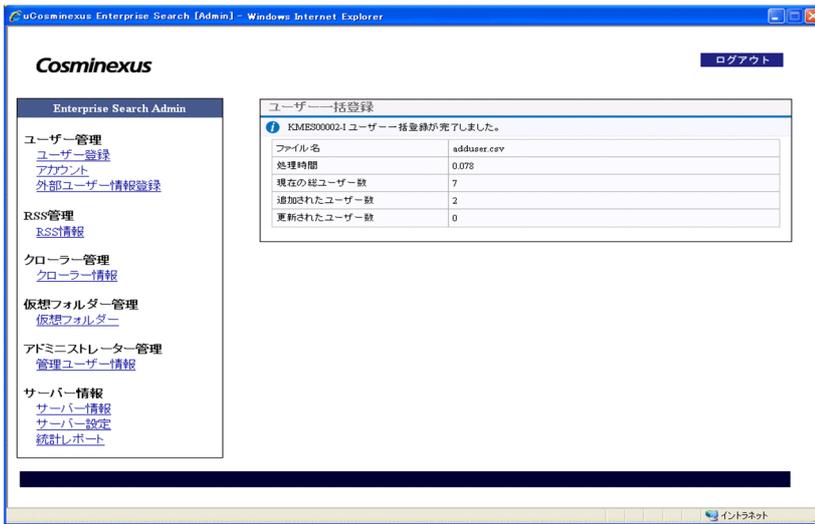
3. 次の画面が表示されます。[登録] ボタンをクリックします。  
修正する場合は [キャンセル] ボタンをクリックします。

図 3-4 ユーザー一括登録画面 (確認)



4. [登録] ボタンをクリックすると次の画面が表示され、ユーザー一括登録が完了します。

図 3-5 ユーザー一括登録画面 (完了)



## 3.3 アカウント

ユーザー管理の [アカウント] リンクをクリックすると、次の画面が表示されます。この画面でユーザーを検索して、ユーザー情報を参照できます。

図 3-6 アカウント一覧画面



アカウント一覧画面の項目を次の表に示します。

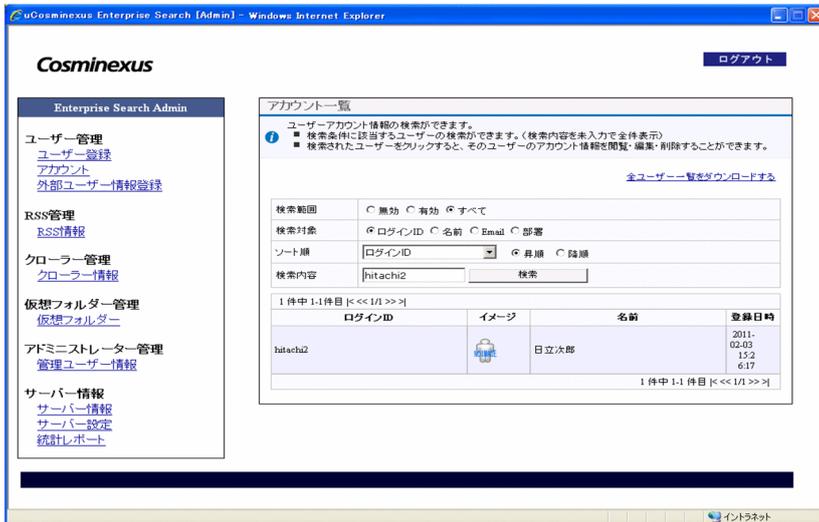
表 3-4 アカウント一覧画面の項目

#	項目名	説明	デフォルト
①	検索範囲	ユーザーの状態を「無効」、「有効」、「すべて」から選択します。 ユーザーの状態については「3.3.1 アカウント詳細」を参照してください。	すべて
②	検索対象	キーワードの対象を「ログイン ID」、「名前」、「Email」、「部署」から選択します。	ログイン ID
③	ソート順	ソートの対象を「ログイン ID」、「登録日時」から選択します。 選択した順序で出力結果を並び替えます。「昇順」、「降順」の設定もできます。	ログイン ID の昇順
④	検索内容	キーワードを入力し [検索] ボタンをクリックすると、検索範囲、検索対象内から該当するユーザーの情報の一覧を表示します。 キーワードを入力しないで、検索範囲に「すべて」を選択して [検索] ボタンをクリックした場合は、登録されているすべてのユーザーが表示されます。	—

#	項目名	説明	デフォルト
⑤	[全ユーザー一覧をダウンロードする] リンク	[全ユーザー一覧をダウンロードする] リンクをクリックすると、ファイルのダウンロードダイアログが表示されます。[保存] ボタンをクリックすると、アカウント一覧ファイルをダウンロードします。	—

検索内容を入力して、検索範囲、検索対象を選択後 [検索] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 3-7 アカunt一覧画面 (検索結果)

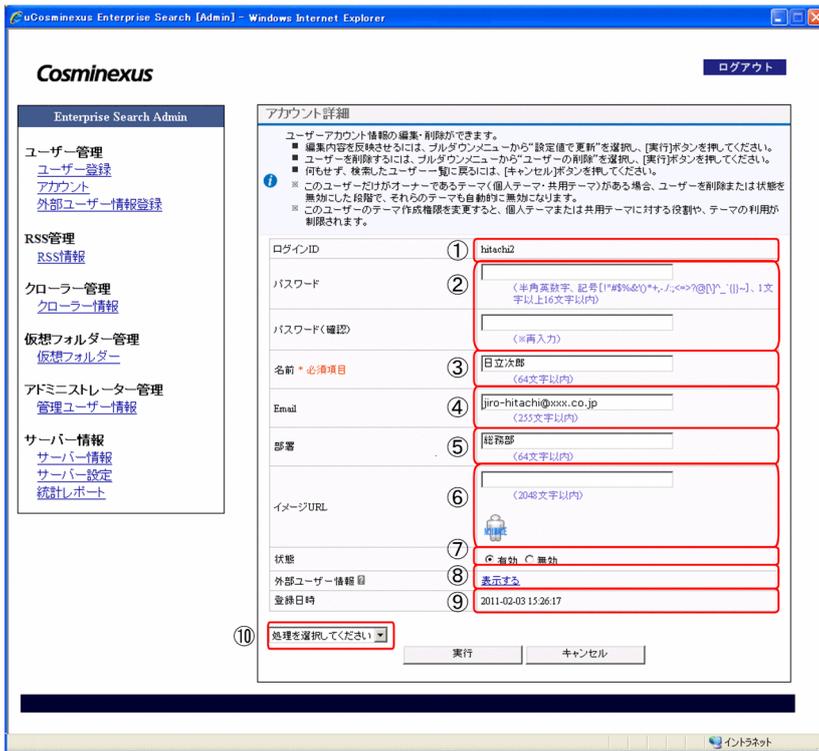


検索結果で表示されたユーザーをクリックすると「アカウント詳細画面」が表示されます。詳細については「3.3.1 アカunt詳細」を参照してください。

### 3.3.1 アカunt詳細

アカウント詳細では、選択したアカウントのユーザー情報の詳細を参照できます。また、必要に応じてユーザー情報の訂正もできます。「アカウント一覧画面」に表示されたユーザーをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 3-8 アカウント詳細画面



アカウント詳細画面の項目を次の表に示します。なお、各項目に入力できる文字、および文字数などの詳細については、「3.1 ユーザー登録」を参照してください。

表 3-5 アカウント詳細画面の項目

#	項目名	説明
①	ログイン ID	ユーザーのログイン ID が表示されます。ログイン ID は変更できません。
②	パスワード/ パスワード (確認)	パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを入力してから [更新] ボタンをクリックします。入力しない場合は、登録されているパスワードは更新されません。
③	名前	ユーザーの名前が表示されます。
④	Email	ユーザーの Email アドレスが表示されます。
⑤	部署	ユーザーの部署名が表示されます。
⑥	イメージ URL	ユーザーのイメージ画像の URL が表示されます。
⑦	状態	ユーザーの状態が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効：ユーザーはログインできます。</li> <li>無効：ユーザーはログインできません。他のユーザーは、このユーザーを検索できません。</li> </ul>
⑧	外部ユーザー 情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>[表示する] リンク：「外部ユーザー情報」欄が表示され、ユーザーがどの外部ユーザーと関連付けられているか確認できます。</li> <li>[隠す] リンク：元の画面に戻ります。</li> </ul>
⑨	登録日時	ユーザーが登録された日時が表示されます。

#	項目名	説明
⑩	[処理を選択してください] プルダウンメニュー	次のどちらかを選択して [実行] ボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"><li>設定値で更新 設定した内容で更新する場合に選択します。</li><li>ユーザーの削除 ユーザーを削除する場合に選択します。</li></ul>

## 3.4 外部ユーザー情報登録

ユーザーグループの関連情報出力コマンドの引数-oで出力した、Active Directory、または Domino Directory のユーザー情報ファイルを、外部ユーザー情報登録画面で Enterprise Search に登録します。なお、画面を使用しないでコマンドで外部ユーザー情報を登録する場合は、「9.2.3 外部ユーザーグループ情報登録コマンド」を参照して、外部ユーザー情報を Enterprise Search に登録してください。

### 注意事項

この節での手順を実行する前に、コマンドの引数-oで Active Directory、または Domino Directory のユーザー情報ファイルを出力しておいてください。詳細については「9.2.1 Active Directory ユーザーグループの関連情報出力コマンド」、または「9.2.2 Domino Directory ユーザーグループ関連情報出力コマンド」を参照してください。

### 3.4.1 外部ユーザー情報登録用 CSV ファイルの形式

ユーザーグループの関連情報出力コマンドの引数-oで出力した外部ユーザー情報登録用の CSV ファイルを、外部ユーザー情報登録画面で登録します。CSV ファイルは次の形式で出力されています。

[レコード種別],[外部システムキー],[外部種別],[キー文字列],[キーバイナリ],[関連キー[関連キー…]][関連キーバイナリ[関連キーバイナリ…]]<改行>

### 注意事項

出力された CSV ファイルを変更する場合、データは CSV（カンマ区切り）形式で、文字コードは UTF-8 形式で記述してください。使用できる改行コードは CR+LF、CR、LF です。

CSV ファイルの出力項目を次の表に示します。

表 3-6 外部ユーザー情報登録用の CSV ファイルの項目

項目名	説明
レコード種別	必ず出力される項目です。 コマンドで出力した CSV ファイルの「レコード種別」は*UPDATE です。 <ul style="list-style-type: none"><li>*UPDATE（更新） 外部ユーザー情報を追加・更新します。同じ「キー文字列」が存在する場合は上書きします。</li><li>*REMOVE（削除） 外部ユーザー情報を削除します。同じ「キー文字列」が存在しない場合は何もしません。</li><li>*ADD（追加）</li></ul>

項目名	説明
レコード種別	外部ユーザー情報を追加します。同じ「キー文字列」が存在する場合は、エラーとなります。
外部システムキー	外部システムキーには、クローラー定義で指定した共通クローラー識別子が表示されています。 クローラー定義での指定を省略した場合は、空文字が表示されます。 この CSV ファイルで共通クローラー識別子を設定する場合は、Enterprise Search上で同一の外部システムと認識するためのキーを、10文字以内で指定してください。 また、省略する場合は空文字を指定し、項目を区切る「,(カンマ)」は削除しないでください。
外部種別	外部ユーザー種別です。必ず出力される項目です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 0: Active Directory ユーザー</li> <li>• 1: Active Directory グループ</li> <li>• 2: Domino Directory ユーザー</li> <li>• 3: Domino Directory グループ</li> </ul>
キー文字列*	外部ユーザー種別ごとのプレフィックスを付加したキー文字列が出力されます。必ず出力される項目です。
キーバイナリ (必須項目)	次の形式で外部ユーザー種別ごとのキーバイナリが出力されます。必ず出力される項目です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Active Directory の場合: SID のバイナリ文字列</li> <li>• Domino Directory の場合: Domino DN 形式</li> </ul>
関連キー	関連するグループのキー文字列が出力されます。
関連キーバイナリ	関連するグループのキー文字列がバイナリ形式で出力されます。

#### 注※

出力されるキー文字列の形式を次の表に示します。

**表 3-7 出力されるキー文字列の形式**

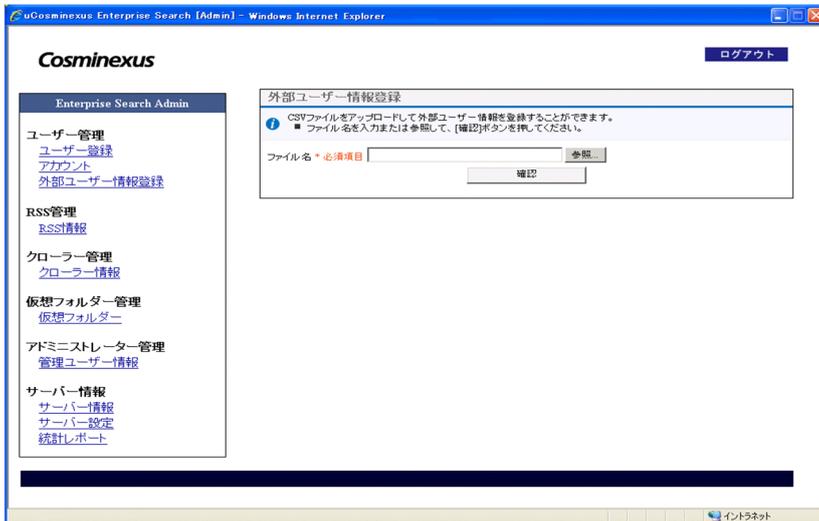
外部ユーザー種別	形式	プレフィックス
Active Directory	LDAP DN 形式、またはログイン ID の独自形式です。グループ情報の場合は LDAP DN 形式となります。ログイン ID の独自形式を次に示します。 ログイン ID の独自形式: "CN"="<ログイン ID>","<LDAP DN 形式>	"NTFS:"
Domino Directory ユーザー	Domino DN	"NOTES:USER:"
Domino Directory グループ	Domino DN	"NOTES:GROUP:"

## 3.4.2 外部ユーザー情報登録の実行

作成した外部ユーザー情報登録用の CSV ファイルを登録します。

ユーザー管理の [外部ユーザー情報登録] リンクをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 3-9 外部ユーザー情報登録画面



[参照] ボタンをクリックすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。作成した CSV ファイルを指定します。直接ファイルパスを入力して、CSV ファイルを指定することもできます。[確認] ボタンをクリックして、登録の確認画面で [登録] ボタンをクリックすると、外部ユーザー情報登録が完了します。

登録手順は、ユーザーの一括登録時と同じです。詳細については「[3.2.3 ユーザー一括登録の手順](#)」を参照してください。

### 注意事項

外部ユーザー情報の登録と、クローリングを同時に実行することはできません。また、コマンドを使用した登録も、クローリングと同時に実行はできません。クローリング実行中には、外部ユーザー情報の登録はしないでください。

# 4

## RSS 管理

Enterprise Search に登録されている RSS の情報の参照や RSS の追加, クローリングの状態確認などについて説明します。

## 4.1 RSS 情報一覧

Enterprise Search に登録している RSS を一覧で表示する画面です。

RSS 管理の [RSS 情報] リンクをクリックすると、Enterprise Search に登録されている RSS が登録しているエントリー数の多い順で、RSS 情報一覧に表示されます。URL やタイトル、RSS IDなどを指定して検索を実行すると、一覧から RSS を絞り込んで表示できます。

図 4-1 RSS 情報一覧画面



RSS 情報一覧画面の項目を次の表に示します。

表 4-1 RSS 情報一覧画面の項目

#	項目名	説明
①	URL またはタイトル	RSS の URL, またはタイトルの一部入力して検索できます。ただし、複数の URL, またはタイトルを入力した検索はできません。
②	RSS ID	RSS ID の一部を入力して検索できます。 RSS ID は RSS の追加時に Enterprise Search が自動的に設定する番号です。
③	[検索] ボタン	指定した検索条件で検索を実行します。
④	エントリーの一覧	Enterprise Search に登録されている RSS フィードの一覧が表示されます。検索を実行した場合は、検索結果が表示されます。 一度に表示される RSS の件数は 10 件までです。クリックすると「RSS 情報詳細画面」が表示され、RSS のエントリー数やクローラーのステータスなどが確認できます。 RSS 情報詳細については「4.2 RSS 情報詳細」を参照してください。

#	項目名	説明
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>• &gt;&gt; リンク</li> <li>• &lt;&lt; リンク</li> <li>• &gt; リンク</li> <li>• &lt; リンク</li> </ul>	<p>10 件以上の RSS フィードが存在する場合に表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• &gt;&gt; リンク 次の 10 件を表示します。</li> <li>• &lt;&lt; リンク 前の 10 件を表示します。</li> <li>• &gt; リンク 最終ページを表示します。</li> <li>• &lt; リンク 最初のページを表示します。</li> </ul>

## ■ 注意事項

RSS は登録されているフィードの数に対応しています。

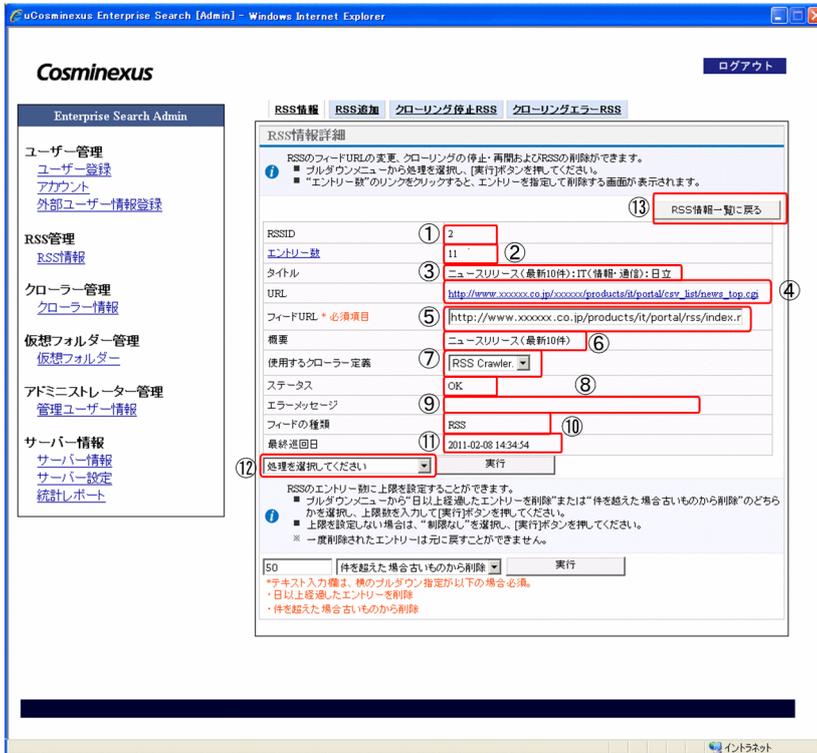
RSS の URL が同一でも、登録されている RSS フィードの URL が異なる場合は、別の RSS として登録されます。

## 4.2 RSS 情報詳細

選択した RSS の詳細情報を確認する画面です。

また、選択した RSS の情報を参照するほかに、RSS の設定の変更、不要となった RSS の削除ができます。

図 4-2 RSS 情報詳細画面



RSS 情報詳細画面の項目を次の表に示します。

表 4-2 RSS 情報詳細画面の表示項目

#	項目名	説明
①	RSS ID	RSS ID を表示します。
②	エントリー数	この RSS のエントリー数を表示します。 [エントリー数] リンクをクリックすると「エントリー情報一覧画面」が表示されます。詳細については「4.2.2 エントリー情報一覧」を参照してください。
③	タイトル	RSS のタイトルを表示します。
④	URL	RSS の URL を表示します。 リンクをクリックすると、新しいウィンドウで RSS が表示されます。
⑤	フィード URL (必須) ※	RSS のフィード URL を表示します。 変更する場合は、新しいフィード URL を入力します。
⑥	概要	RSS の概要を表示します。

#	項目名	説明
⑦	使用するクローラー定義※	⑤に表示されたフィード URL にアクセスする RSS クローラーです。ほかの RSS クローラーに変更する場合は、プルダウンメニューで選択します。
⑧	ステータス	最後にクローリングした際のステータスを表示します。
⑨	エラーメッセージ	最後にクローリングした際に、エラーが発生した場合はメッセージが表示されます。
⑩	フィードの種類	フィードの種類を表示します。 一度クローリングが停止してから再開された場合は、次にクローリングが実行されるまでは、停止前の種類が表示されます。
⑪	最終順回日	最後にクローリングした時間を表示します。
⑫	[処理を選択してください] プルダウンメニュー	次のどれかを選択して [実行] ボタンをクリックします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Feed URL/RSS クローラーの変更 「フィード URL」または「使用するクローラー定義」を変更した場合に選択します。</li> <li>クローリング停止 好ましくない RSS や、エラーが頻繁に発生する RSS などの場合に選択して、クローリングを停止します。 クローリング停止中の場合は、選択するとクローリングを再開します。</li> <li>RSS の削除 RSS 自体を削除したい場合に選択します。RSS を削除すると、RSS 内のすべてのエントリーも削除されます。</li> </ul>
⑬	[RSS 情報一覧に戻る] ボタン	[RSS 情報一覧画面] に戻ります。

#### 注※

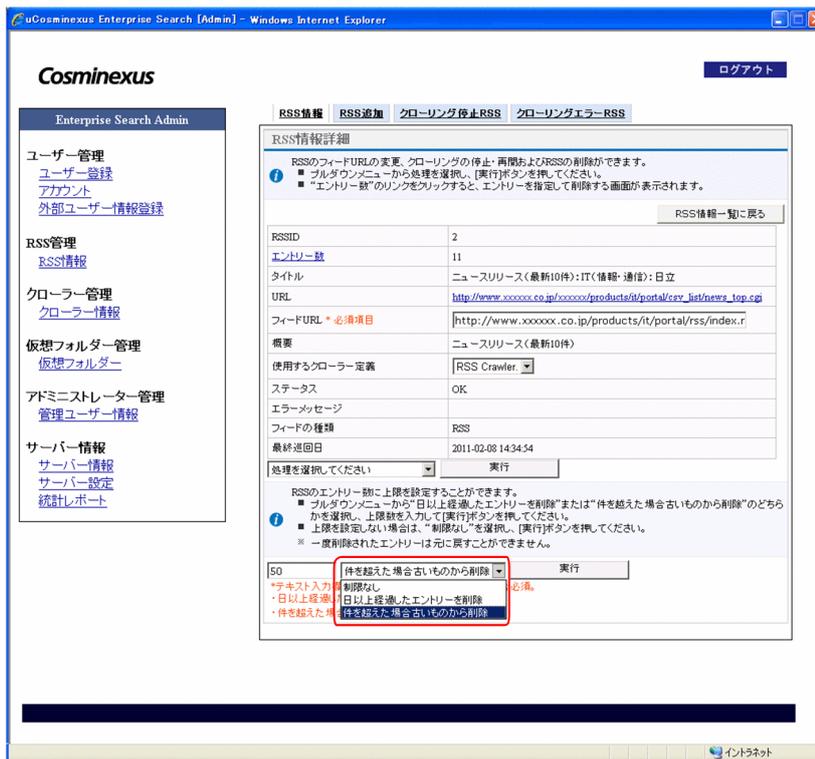
「フィード URL」、または「使用するクローラー定義」を変更した場合には、変更したあとの URL にアクセスできるかどうかを Enterprise Search が確認します。アクセスできない場合は、変更は反映されません。

## 4.2.1 エントリー数の上限設定

エントリー数の上限を設定する画面です。

エントリー数が増えすぎると、データベースの性能が低下します。エントリー数の上限を設定することで Enterprise Search の性能低下を回避できます。なお、設定した制限数を超えたエントリーは、環境設定で設定した「期限切れエントリー定期削除コマンド」のスケジュールで削除されます。スケジュールの設定については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。

図 4-3 RSS 情報詳細画面（エントリー数制限）



制限数を入力して、プルダウンメニューから設定を選択します。

- 制限なし  
エントリー数を制限しません。
- 日以上経過したエントリーを削除  
指定された日付を超えたエントリーを削除します。  
指定できる範囲は1~3,650日です。
- 件を越えた場合古いものから削除  
指定された件数を超えた場合、指定された件数分だけ残して古い順にエントリーを削除します。指定できる範囲は、1~9,999,999です。

## 4.2.2 エントリー情報一覧

RSS 内のエントリーを一覧で確認する画面です。

RSS ID やタイトル、エントリー ID などを指定して検索を実行すると、一覧から絞り込んでエントリーを表示できます。また、選択したエントリーの参照や一覧の並び替えのほかに、RSS 内で不要となったエントリーを削除できます。

## 図 4-4 エントリー情報一覧画面



エントリー情報一覧細画面の項目を次の表に示します。

表 4-3 エントリー情報一覧画面の表示項目

#	項目名	説明
①	RSS ID	RSS の ID を表示します。
②	タイトル	RSS のタイトルを表示します。
③	エントリー数	RSS に登録されているエントリー数を表示します。
④	エントリー ID	エントリー ID を入力して [表示] ボタンをクリックすると、該当するエントリーを絞り込んで一覧に表示します。
⑤	エントリー選択のチェックボックス	エントリーを削除する場合に、チェックボックスを選択します。 「ALL」チェックボックスを選ぶと、画面に表示されたすべてのエントリーのチェックボックスが選択されます。
⑥	エントリーのタイトル一覧	RSS に登録されているエントリーのタイトル名と、登録日時を表示します。 エントリーのリンクをクリックすると、エントリーが表示されます。
⑦	昇順/降順の並び替え	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ [昇順] リンク 日付の古い順にエントリーを並び替えます。</li> <li>・ [降順] リンク 日付の新しい順にエントリーを並び替えます。デフォルトの設定です。</li> </ul>
⑧	[削除] ボタン	チェックボックスで選んだエントリーを削除します。

#	項目名	説明
⑨	[RSS 詳細へ戻る] ボタン	「RSS 情報詳細画面」に戻ります。

## 4.3 RSS 追加

Enterprise Search に RSS を追加する画面です。Enterprise Search では、次のフォーマットに対応しています。

- RSS0.91/1.0/2.0 の 3 バージョン
- Atom0.3/1.0 の 2 バージョン

### 4.3.1 URL を指定した RSS フィードの追加

URL を指定した RSS フィードの追加の手順を説明します。

#### 1. [RSS 追加] タブをクリックします。

次の画面が表示されます。

図 4-5 RSS 追加画面 (URL 指定) 1/2



#### 2. [URL] 欄に追加する RSS の URL を入力します。RSS の URL がわからない場合は、Web サイトの URL を入力します。

指定した RSS、または Web サイトの URL にアクセスする RSS クローラーを選択します。デフォルトでは、インストール時に自動で作成される RSS クローラーが選択されています。

アクセスする RSS クローラーを変更する場合は、プルダウンメニューから選択します。

[選択] ボタンをクリックします。

図 4-6 RSS 追加画面 (URL 指定) 2/2

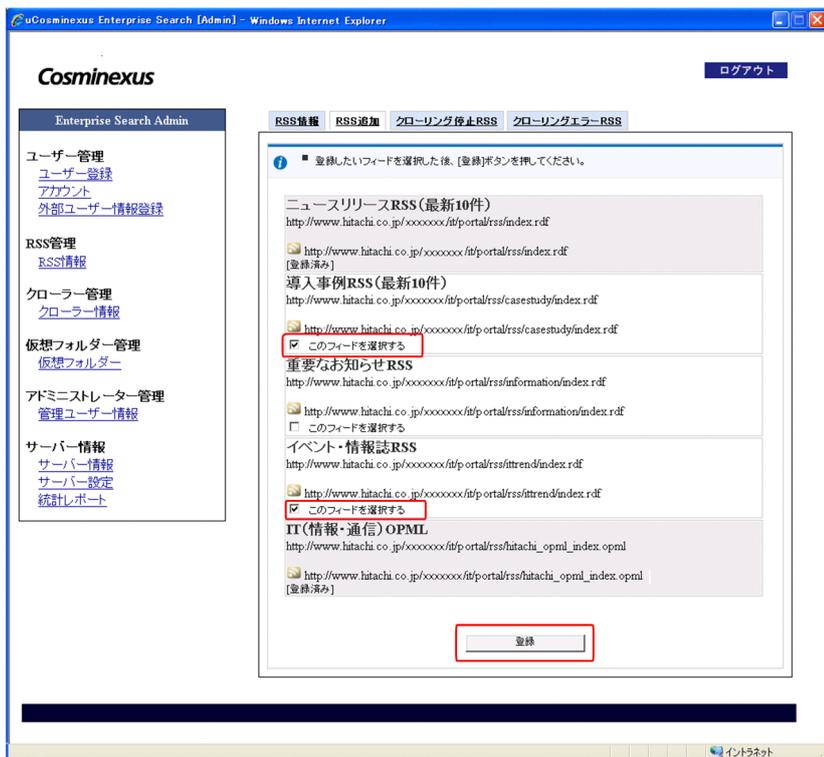


3. 指定した RSS, または Web サイトの URL から導き出された RSS フィードが表示されます。

RSS フィードが複数存在する場合は「このフィードを選択する」チェックボックスが表示されます。追加する RSS フィードのチェックボックスを選択します。

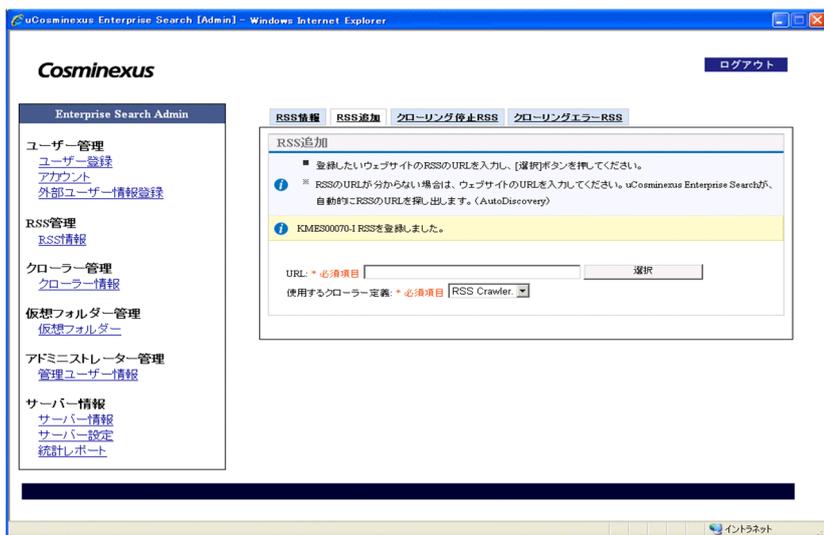
[登録] ボタンをクリックします。

図 4-7 RSS 追加画面 (RSS フィードの選択)



4. 追加した RSS がクロール実行され、登録が完了します。

図 4-8 RSS 追加完了



## 注意事項

指定した RSS がすでに Enterprise Search に登録済みの場合は、エラー画面が表示されます。

## 4.3.2 アンテナモードでの Web サイト追加

RSS に対応していないサイトは、アンテナモードの RSS として登録できます。

- アンテナモード

アンテナモードとは、RSS の代わりに Web サイトの HTML そのものを前回チェック時に保存しておいたものと比較して、その内容が更新されているかどうかで Web サイトが更新されているかどうかを確認する機能です。

RSS に対応していない Web サイトの場合は、この機能を使用して登録します。

- アンテナモードでの取得内容

アンテナモードは Web サイトの HTML 内の文字列だけを取得し、更新チェックを行います。ただし、タグ、JavaScript、画像、スタイルシートなどの外部ファイルはチェックしません。

アンテナモードでの Web サイト追加の手順を説明します。

1. [RSS 追加] タブをクリックします。

「RSS 追加画面」が表示されます。

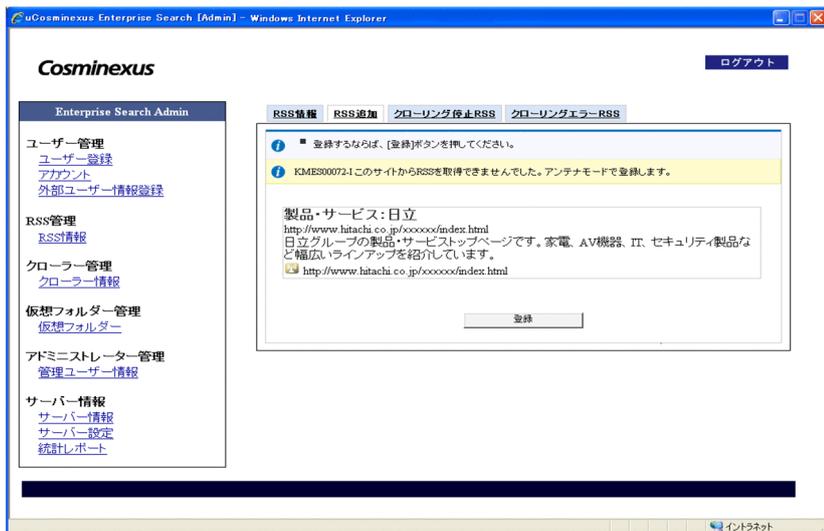
2. [URL] 欄に登録する Web サイトの URL を入力します。

3. 指定した URL にアクセスする RSS クローラーを、プルダウンメニューから指定します。デフォルトでは、インストール時に作成済みの RSS クローラーが選択されています。

4. [選択] ボタンをクリックします。次の画面が表示されます。

[登録] ボタンをクリックします。

図 4-9 RSS 追加画面 (アンテナモード)



5. 追加した Web サイトがクローリング実行され、アンテナモードでの登録が完了します。

図 4-10 RSS 追加画面 (アンテナモード追加完了)

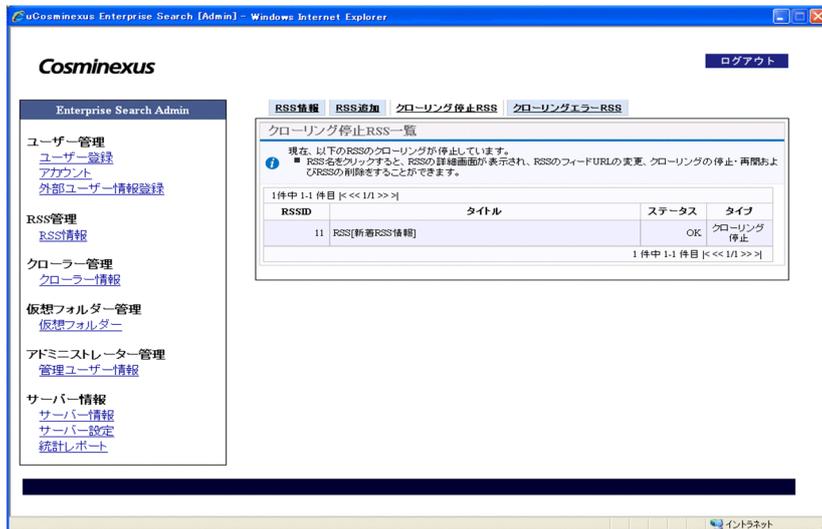


## 4.4 クローリング停止 RSS

クローリング停止中の RSS を一覧で確認する画面です。

RSS 管理の [クローリング停止 RSS] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 4-11 クローリング停止 RSS 一覧画面



現在、Enterprise Search に登録されていて、クローリングされていない RSS の一覧が表示されます。

任意の RSS 名をクリックすると「RSS 情報詳細画面」が表示され、フィード URL の変更、クローリングの開始、RSS の削除ができます。RSS 情報詳細については「4.2 RSS 情報詳細」を参照してください。

## 4.5 クローリングエラー RSS

クローリングエラーが発生している RSS を一覧で確認する画面です。

RSS 管理の [クローリングエラー RSS] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 4-12 クローリングエラー RSS 一覧画面



Enterprise Search が最後にクローリングした際に、エラーが発生した RSS の一覧を表示します。任意の RSS 名をクリックすると、「RSS 情報詳細画面」が表示され、フィード URL の変更、クローリングの停止、RSS の削除などの編集ができます。

# 5

## クローラー管理

クローラーの追加や変更、定義の設定について説明します。

## 5.1 クローラー管理とは

クローラー管理では、クローラーの追加や変更、クローラー共通の定義の設定などができます。クローラー管理で設定できる内容と参照先について、次の表に示します。

表 5-1 クローラー管理で設定できる項目

#	項目	説明	参照先
1	クローラー一覧の表示と検索	クローラー一覧画面でクローラーのタイトルや ID、タイプ、またはステータスを指定した検索ができます。 検索結果からクローラー詳細情報画面を表示して、クローラーの参照、更新、削除ができます。	5.2
2	共通定義のユーザー認証 <sup>※1</sup>	各クローラーで定義する URL やフォルダー、RDB などにアクセスするためのユーザー認証を定義します。 定義したユーザー認証は、次のクローラーで使用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RSS クローラーの Basic 認証</li><li>• WWW クローラーの Basic 認証</li><li>• NTFS クローラーの共有フォルダー認証</li><li>• RDB クローラーの RDB 認証</li><li>• Groupmax クローラーのフォルダー認証</li></ul>	5.5.1, 5.5.2
3	共通定義のプロキシ認証 <sup>※1</sup>	インターネット接続を行う際のプロキシ認証を定義します。定義したプロキシ認証は、次のクローラーで使用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RSS クローラーのプロキシの設定</li><li>• WWW クローラーのプロキシの設定</li></ul>	5.5.3, 5.5.4
4	共通定義の Notes 認証 <sup>※1</sup>	Notes クローラーを使用する場合で、Domino Web サーバーにアクセスする際に認証するユーザーや、使用するユーザー情報のパスを設定します。 この定義は Notes クローラーでだけ使用できます。	5.5.5, 5.5.6
5	共通定義の SiteMinder 認証 <sup>※1</sup>	クローラーで SiteMinder 認証を使用する場合に、SiteMinder の認証サイトの URL や、ユーザー名、パスワードなどを定義します。定義した SiteMinder 認証は、次のクローラーで使用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RSS クローラーの SiteMinder 認証</li><li>• WWW クローラーの SiteMinder 認証</li></ul>	5.5.7, 5.5.8
6	共通定義のクローラーの追加 <sup>※2</sup>	新しくクローラーを追加できます。次のタイプのクローラーを追加できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• RSS (5.4.2)</li><li>• WWW (5.4.3)</li><li>• NTFS (5.4.4)</li><li>• Notes (5.4.5)</li><li>• RDB (5.4.6)</li><li>• Groupmax (5.4.7)</li></ul>	5.3, 5.4.1

#	項目	説明	参照先
6	共通定義のクローラーの追加※2	なお、クローラーを追加する前に、共通定義で必要な認証を定義してください。	5.3, 5.4.1

注※1

- 共通定義ではユーザー認証定義を最初に行ってください。
- 共通定義の各認証定義画面では、定義済み認証の参照・更新・削除ができます。

注※2

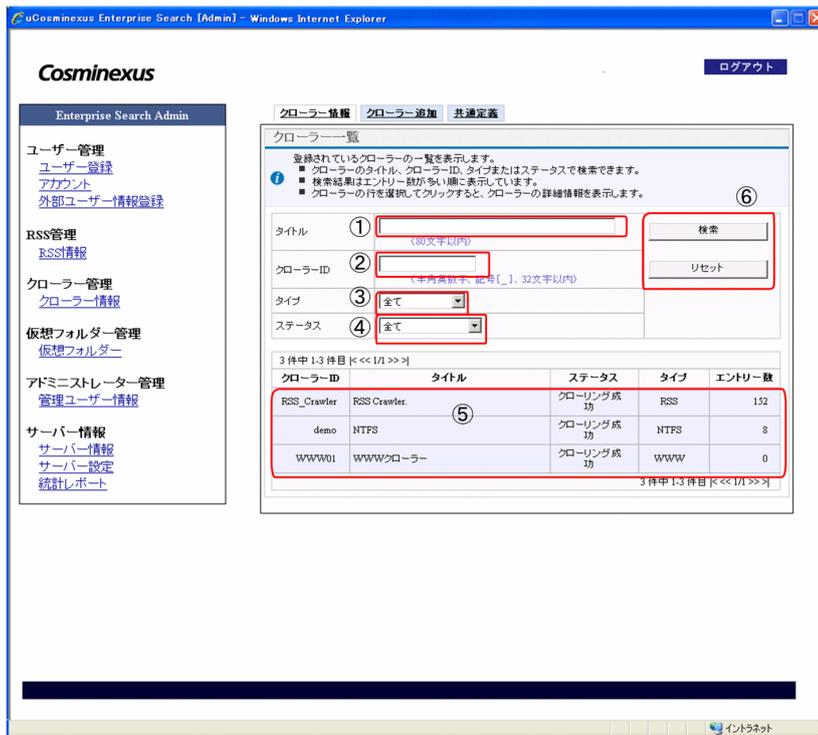
クローラーを追加する前に、共通定義で必要な定義を作成してください。

## 5.2 クローラー一覧

Enterprise Search に登録しているクローラーを一覧で表示する画面です。

クローラー管理の [クローラー情報] リンクをクリックすると、Enterprise Search に登録されているクローラーがクローラー一覧に表示されます。タイトルやクローラー ID、タイプなどを指定して検索を実行すると、一覧からクローラーを絞り込んで表示できます。

図 5-1 クローラー一覧画面



クローラー一覧画面の項目を次の表に示します。

表 5-2 クローラー一覧画面の項目

#	項目名	説明
①	タイトル	クローラーのタイトル、またはタイトルの一部を入力して検索できます。 ただし、複数のタイトルを入力した検索はできません。入力できる文字数は、80 文字以内です。
②	クローラー ID	クローラー ID を入力して検索できます。 入力できる文字数は、半角英数字、_ (半角アンダースコア) で 32 文字以内です。
③	タイプ	検索するクローラーのタイプを、プルダウンメニューから選択します。 指定できるタイプを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全て</li> <li>• RSS</li> <li>• WWW</li> <li>• NTFS</li> <li>• Notes</li> </ul>

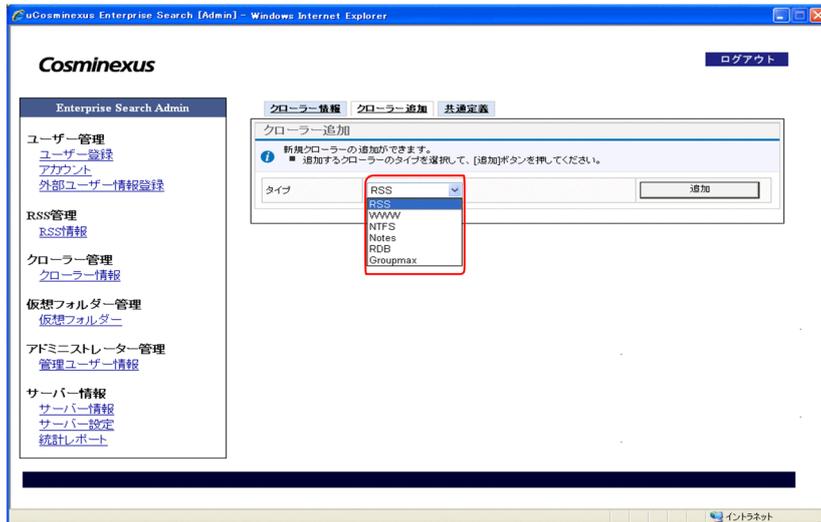
#	項目名	説明
③	タイプ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• RDB</li> <li>• Groupmax</li> </ul> タイプの詳細については「 <a href="#">5.4 クローラー詳細情報の設定</a> 」を参照してください。
④	ステータス	検索するクローラーのステータスを、プルダウンメニューから選択します。 ステータスの種類と意味を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 全て すべてのステータスのクローラーです。</li> <li>• クローリングエラー クローリングに失敗したクローラーです。</li> <li>• クローリング停止 クローリングを停止しているクローラーです。</li> <li>• クローリング未実施 一度もクローリングしていないクローラーです。</li> <li>• クローリング成功 クローリングに成功したクローラーです。</li> <li>• クローリング実施中 クローリング中のクローラーです。</li> <li>• クローリング中断中 クローリングの中断要求があるクローラーです。</li> </ul>
⑤	クローラーの一覧	Enterprise Search に登録されているクローラーの一覧が表示されます。検索を実行した場合は、検索結果が表示されます。 クリックすると「クローラー詳細情報画面」が表示され、クローラーに設定している項目の参照や更新、クローラーの削除ができます。 クローラー詳細情報については、「 <a href="#">5.4 クローラー詳細情報の設定</a> 」を参照してください。
⑥	[検索] ボタン	指定した条件でクローラーを検索します。
	[リセット] ボタン	指定した検索条件をリセットします。

## 5.3 クローラーの追加

クローラーの追加について説明します。

クローラー管理の [クローラー情報] リンクをクリックして、[クローラー追加] タブを選択します。次の画面が表示されます。

図 5-2 クローラー追加画面



追加するクローラーのタイプをプルダウンメニューから選択し [追加] ボタンをクリックすると、選択したタイプの「クローラー詳細情報画面」が表示されます。

「クローラー詳細情報画面」は選択したタイプにより異なります。それぞれのクローラータイプで設定する項目の詳細については、「5.4 クローラー詳細情報の設定」を参照してください。

### 注意事項

クローラーの追加には、共通定義で設定した認証定義やプロキシなどの情報が必要となります。クローラーを追加する前に、共通定義を設定しているかどうかを確認してください。共通定義の詳細については「5.5 クローラーの共通定義」を参照してください。

## 5.4 クローラー詳細情報の設定

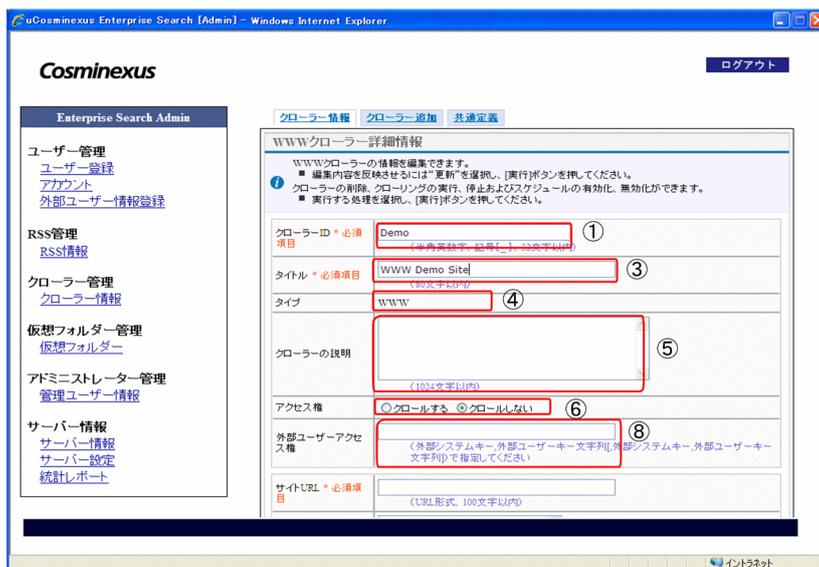
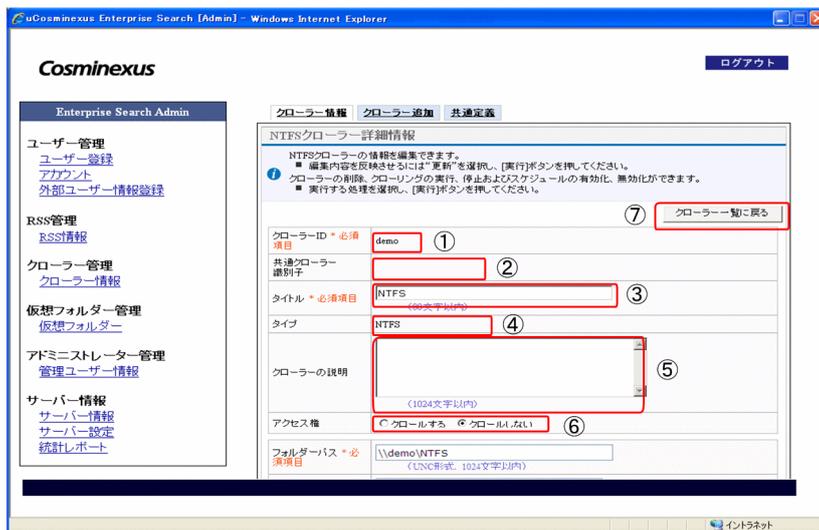
クローラーの詳細情報について説明します。

クローラーの詳細情報画面では、クローラー情報の設定、更新、およびクローラーの削除ができます。なお、クローラーのタイプごとに表示される項目が異なるため、この節では、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してから、各タイプのクローラー詳細情報を参照してください。

### 5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目

各クローラータイプの詳細情報に共通する設定項目について説明します。

図 5-3 クローラー詳細情報画面 (1/2)



クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。なお、クローラーを追加する場合と既存のクローラーの設定を変更する場合で、指定規則が異なる場合があります。

表 5-3 クローラー詳細情報画面の設定項目 (1/2)

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字
①	クローラー ID	追加の場合： 必須	クローラー ID です。 設定済みのクローラー ID の変更はできません。	32 文字以内の半角英数字と_
②	共通クローラー識別子 ※1	追加の場合： 任意	クローラーの共通識別子です。 Enterprise Search では、この識別子が同じクローラーのクローリング先は、同じアクセス権で管理していると認識されます。 指定を省略した場合は、Enterprise Search が任意の値を設定します。 共通クローラー識別子を設定していないクローラーの場合は、更新時に共通クローラー識別子を設定できます。設定済みの共通クローラー識別子の変更はできません。	10 文字以内の半角英数字
③	タイトル	必須	クローラーのタイトルです。	80 文字以内
④	タイプ	—	クローラーのタイプです。追加の場合は、「クローラー追加画面」で選択したタイプが表示されます。	—
⑤	クローラーの説明	任意	クローラーの説明です。	1,024 文字以内
⑥	アクセス権※2※3※4※5 ※6	任意	クローリング先のシステムで、文書に付与されているアクセス権をクロールするかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>クロールする アクセス権をクロールします。デフォルトで選択されます。</li> <li>クロールしない アクセス権をクロールしません。「クロールしない」を選択したクローラーの場合、検索時にはすべてのユーザーに同じ検索結果が表示されます。</li> </ul>	—
⑦	[クローラー一覧に戻る] ボタン	—	[クローラー一覧画面] に戻ります。	—
⑧	外部ユーザーアクセス権※4※5	任意※7	WWW クローラーにアクセス権を付与する場合に、検索を許可する対象のユーザーを指定します。指定形式を次に示します。 外部システムキー,外部ユーザーキー文字列[,外部システムキー,外部ユーザー文字列] 「外部システムキー」と「外部ユーザー文字列」には、外部ユーザーと連携するユーザー情報の登録時に「ユーザー関連」で指定した文字列を指定します。詳細は「3.2.1 ユーザー一括登録の情報登録ファイルの形式」を参照してください。	制限なし

#### 注※1

クローラーのタイプが NTFS, Notes のどちらかの場合に表示される項目です。NTFS, Notes 以外の場合は、空で表示されます。

#### 注※2

クローラーのタイプが NTFS, Notes, Groupmax のどれかの場合に表示される項目です。

#### 注※3

Groupmax クローラーで「クロールしない」を選択した場合、各コンテンツのアクセス権情報は反映されません。また、前回「クロールする」でアクセス権情報を反映している場合は、アクセス権情報が削除されます。

#### 注※4

Enterprise Search の設定ファイル「iwsearch.properties」のプロパティ「wwwCrawler.access.enable」の値に「nouse」が指定されている時のみ表示されません。

#### 注※5

WWW クローラーの場合かつ項目「アクセス権」で「クロールする」を選択した場合、この WWW クローラーにアクセス権を付与します。WWW クローラーにアクセス権を付与すると、項目「外部ユーザーアクセス権」で指定されたユーザーだけが、このクローラーで収集した Web ページを検索することができます。

項目「外部ユーザーアクセス権」に指定するユーザーは、あらかじめ外部ユーザーと連携するユーザー情報として登録する必要があります。また、この外部ユーザーは、ActiveDirectory にだけ対応しています。ユーザー情報の登録方法は、「[3.2 ユーザー一括登録](#)」を参照してください。

一方、WWW クローラーの場合かつ項目「アクセス権」で「クロールしない」を選択した場合は、すべてのユーザーがこのクローラーで収集した Web ページを検索することができます。

#### 注※6

WWW クローラーの場合、項目「アクセス権」の設定によりクロールを実行するコマンドが異なります。

- 「クロールする」を選択した場合
- IWSCrawler.bat を使用します。「[9.7.1 クロール実行コマンド](#)」を参照してください。
- 「クロールしない」を選択した場合
- IWScrawler.exe を使用します。「[9.7.2 IWS クロールコマンド](#)」を参照してください。

#### 注※7

WWW クローラーの場合かつ項目「アクセス権」で「クロールする」を選択した場合、この項目の指定は「必須」となります。

図 5-4 クローラー詳細情報画面 (2/2)

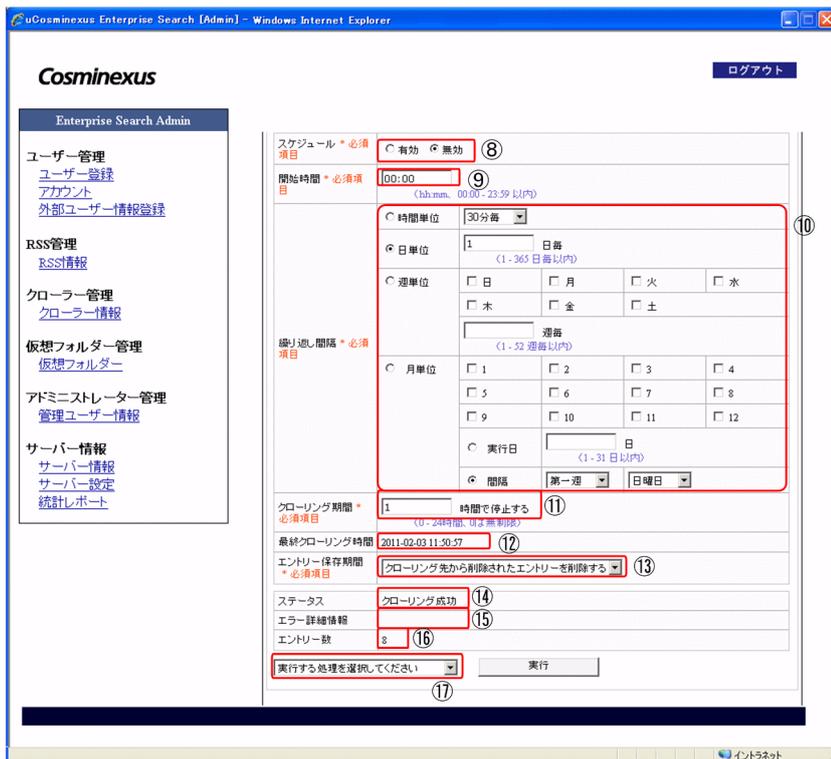


表 5-4 クローラー詳細情報画面の設定項目 (2/2)

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑧	スケジュール	必須	クローリングのスケジュールを有効とするかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効：設定したスケジュールを有効とします。</li> <li>無効：設定したスケジュールを無効とします。</li> </ul> 無効を選択した場合、次に有効を選択するまで設定したスケジュールは実行されません。	—
⑨	開始期間	必須	開始時間を「hh:MM」形式、または「hhMM」形式で入力します。hhには0～23、MMには00～59までが指定できます。	5文字以内
⑩	繰り返し間隔	必須	このクローラーを繰り返し実行する間隔を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>時間単位 プルダウンメニューで「30分毎」、「1時間毎」、「6時間毎」、「12時間毎」から指定します。</li> <li>日単位 1～365の範囲で入力します。</li> <li>週単位 実行する曜日のチェックボックスをクリックし、選択した曜日を何週間ごとに実行するかを、1～52の範囲で「週毎」の欄に入力します。</li> <li>月単位</li> </ul>	日単位：3文字以内 週単位：2文字以内 月単位：2文字以内

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑩	繰り返し間隔	必須	<p>実行する月のチェックボックスをクリックします。</p> <p>「実行日」を選択した場合は、選択した月の何日に実行するかを、1～31の範囲で入力します。</p> <p>「間隔」を選択した場合は、選択した月の第何週の何曜日に実行するかを、プルダウンメニューで指定します。</p>	月単位：2文字以内
⑪	クローリング期間	必須	<p>クローリング開始から何時間で停止するかの制限時間を、0～24時間の範囲で指定します。</p> <p>0を指定した場合は、制限時間なしと判断されます。</p>	2文字以内
⑫	最終クローリング時間	任意	<p>現在クローリング中の場合も含み、最後にクローリングを開始した日時が yyyy/mm/dd hh:MM:ss 形式で表示されます。</p>	—
⑬	エントリー保存期間	必須	<p>文書の保存期間の範囲を、プルダウンメニューで指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>制限なし 保存期間を無制限とします。</li> <li>クローリング先から削除されたエントリーを削除する クローリング時に見つからなかったエントリーを削除します。</li> </ul>	—
⑭	ステータス	—	<p>ステータスの状態を表示します。表示するステータスを以下に示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クローリングエラー クローリングに失敗したクローラーです。</li> <li>クローリング停止 クローリングを停止しているクローラーです。</li> <li>クローリング未実施 一度もクローリングしていないクローラーです。</li> <li>クローリング成功 クローリングに成功したクローラーです。</li> <li>クローリング実施中 クローリング中のクローラーです。</li> <li>クローリング中断中 クローリングの中断要求があるクローラーです。</li> </ul>	—
⑮	エラー詳細情報	—	<p>ステータスが「クローリングエラー」の場合、詳細情報が表示されます。</p>	—
⑯	エントリー数	—	<p>クローリング済みの「エントリー数」を表示します。</p>	—
⑰	「実行する処理を選択してください」プルダウンメニュー※	—	<p>[実行] ボタンをクリックすると、プルダウンメニューで選択した操作を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>更新</li> </ul>	—

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑰	「実行する処理を選択してください」プルダウンメニュー※	—	<p>設定した内容をチェックしたあと、更新します。更新に成功すると「更新完了」のメッセージが表示されます。</p> <p>削除済みのクローラーを更新した場合は、[クローラー情報] タブに「削除済み」のメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 元に戻す 設定した内容をクリアして、初期表示画面に戻します。</li> <li>• クローリングの開始 クローリング中ではない場合に、クローリングを開始します。</li> <li>• クローリングの停止 クローリング中の場合に、クローリングを停止します。</li> <li>• リセット クローラーのステータスを「クローリング成功」に変更します。</li> <li>• 削除 クローラー定義を削除します。[実行] ボタンをクリックすると削除を確認する画面を表示したあと、[クローラー情報] タブに削除結果が表示されます。</li> </ul>	—

#### 注※

- クローラーのタイプが Groupmax の場合、[実行] ボタンでのクローリングの実行はできません。指定されたスケジュールに基づいて Groupmax クローラーで定義した内容でクローリングが実行されます。ただちにクローリングを実行したい場合は、クローリング実行コマンドを使用してください。詳細については「[9.7.1 クローリング実行コマンド](#)」を参照してください。
- インストール時に Enterprise Search が定義した RSS クローラーの場合、「削除」メニューは表示されません。
- クローリング実施中、または中断中の場合は「更新」、「クローリングの開始」、「削除」は実行できません。また、追加されていないクローラーに対して「更新」以外のメニューは選択できません。

#### 注意事項

- クローリングと外部ユーザー情報の登録は、同時に実行できません。
- クローリングと期限切れエントリーの定期削除コマンドは、同時に実行できません。
- 同じ ID のクローラーで、同時にクローリングはできません。
- クローリングと全文検索データ連携コマンド (XmlExtCooperation.bat)、および全文検索データ再収集コマンド (XmlExtRecollection.bat) を同時に実行しないでください。

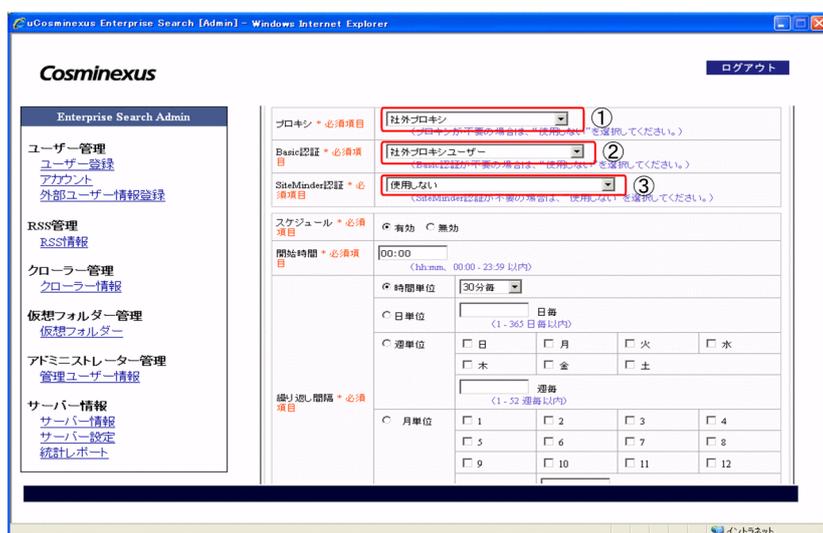
い。同時に実行した場合、データベースアクセスエラーが発生、またはデータの整合性が取れなくなることがあります。

## 5.4.2 RSS クローラー詳細情報

RSS 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。RSS クローラーはサイトのクローリング動作を管理します。他のクローラーと共通の設定については、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してください。

RSS クローラーは Enterprise Search のインストール時にあらかじめ一つ定義されています。このクローラーの削除はできないため、「RSS クローラー情報詳細画面」でインストール時に定義されている RSS クローラーを表示している場合は、実行する処理のプルダウンメニューに「削除」は表示されません。「クローラー追加画面」で新たに追加した RSS クローラーの削除はできます。

図 5-5 RSS クローラー詳細情報画面



RSS クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-5 RSS クローラー詳細情報画面の項目

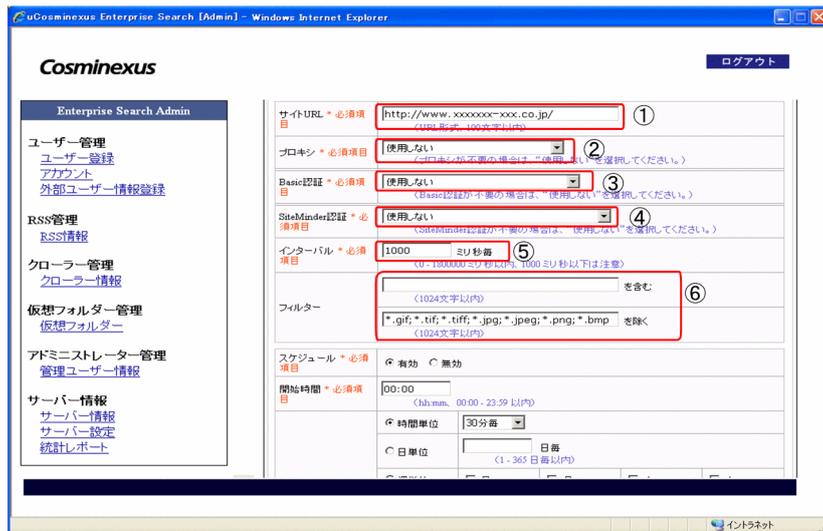
#	項目名	指定規則	説明
①	プロキシ	必須	共通定義で登録したプロキシ定義のタイトルがプルダウンメニューに表示されます。利用するプロキシを選択します。
②	Basic 認証	必須	共通定義で登録したユーザー認証定義のタイトルがプルダウンメニューに表示されます。利用するユーザー認証を選択します。
③	SiteMinder 認証	必須	共通定義で登録した SiteMinder 認証のタイトルがプルダウンメニューに表示されます。利用する SiteMinder 認証を選択します。

設定したプロキシ、Basic 認証、および SiteMinder 認証は、RSS クローラーに関連付けられた RSS フィードのクローリング時に適用されます。プロキシ、Basic 認証、および SiteMinder 認証の詳細については「5.5 クローラーの共通定義」を参照してください。

### 5.4.3 WWW クローラー詳細情報

WWW 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。他のクローラーと共通の設定については、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してください。

図 5-6 WWW クローラー詳細情報画面



WWW クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-6 WWW クローラー詳細情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明
①	サイト URL	必須	サイトの URL を入力します。 入力できる文字数は 100 文字以内です。URL と認識できない文字を入力した場合はエラーとなります。
②	プロキシ	必須	共通定義で登録したプロキシ定義のタイトルが、プルダウンメニューに表示されます。利用するプロキシを選択します。
③	Basic 認証	必須	共通定義で登録したユーザー認証定義のタイトルが、プルダウンメニューに表示されます。利用するユーザー認証を選択します。
④	SiteMinder 認証	必須	共通定義で登録した SiteMinder 定義のタイトルが、プルダウンメニューに表示されます。利用する SiteMinder 認証を選択します。
⑤	インターバル	必須	サイトへアクセスする間隔を 0~1,800,000 ミリ秒の範囲で入力します。 入力できる文字数は、半角数字で 7 文字以内です。デフォルトでは、1,000 ミリ秒が設定されています。 指定できる範囲以外の文字を入力した場合はエラーとなります。

#	項目名	指定規則	説明
⑥	フィルター※1※2	任意	<p>クローリングを行う URL のフィルター式を入力します。入力できる文字数は 1,024 文字以内です。</p> <p>「を含む」にはクローリング対象を含むフィルター式を、「を除く」には、クローリング対象から除くフィルター式を指定できます。フィルター式の正当性はチェックされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「を含む」 フィルター式にマッチする URL のクローリングを実行します。</li> <li>「を除く」 フィルター式にマッチする URL のクローリングを実行しません。 「*.gif;*.tif;*.tiff;*.jpg;*.jpeg;*.png;*.bmp」がデフォルトで設定されています。</li> </ul> <p>「を除く」、「を含む」の両方を指定した場合、「を除く」で指定された条件にマッチしない URL のうち、「を含む」で指定された条件にマッチする URL のクローリングを実行します。</p> <p>なお、フィルターにより制限された URL へは、アクセスを行いません。</p>

#### 注※1

正規化されたあとの URL のフィルター式の意味を、次の表に示します。

**表 5-7 正規化されたあとの URL のフィルター式の意味**

フィルター定義	意味
* (ワイルドカード)	任意の文字 0 文字以上として扱われます。
? (ワイルドカード)	任意の文字 1 文字として扱われます。
任意のシングルバイト文字	大文字と小文字は、同一文字として扱われます。
任意のマルチバイト文字 (UTF-8)	そのまま比較します。
;(セミコロン)	セパレーターです。 このセパレーターで複数のフィルターを指定できます。

#### 注※2

フィルター式に何も指定しない場合は、次の表のとおりとなります。

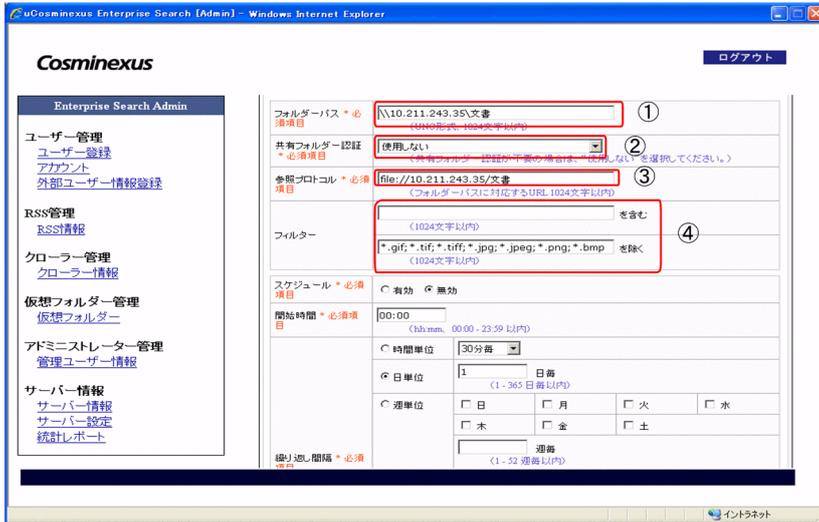
**表 5-8 フィルター式に何も指定しない場合**

フィルター種類	デフォルト	備考
クローリング対象を含むフィルター式	なし	—
クローリング対象から除くフィルター式	*.gif;*.tif;*.tiff;*.jpg;*.jpeg;*.png;*.bmp	既定の画像ファイル

## 5.4.4 NTFS クローラー詳細情報

NTFS 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。他のクローラーと共通の設定については、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してください。

図 5-7 NTFS クローラー詳細情報画面



NTFS クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-9 NTFS クローラー詳細情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明
①	フォルダーパス	必須	クローリングするフォルダーパスを入力します。 入力できる文字は UNC 形式で 1,024 文字※4 以内です。UNC 形式と認識できない場合はエラーとなります。
②	共有フォルダー認証	必須	共通定義で登録したユーザー認証定義のタイトルが、ユーザー認証 ID の昇順でプルダウンメニューに表示されます。「共有フォルダー認証」に利用するユーザー認証定義を選択します。 利用しない場合は「使用しない」を選択します。 なお、共有フォルダーの認証制限を適用する場合は、複数のクローラーで同一の共有フォルダーを対象とし、使用する共有フォルダー認証定義、フィルターを切り替えてください。
③	参照プロトコル※1	必須	参照プロトコルのフォーマット式を入力します。入力できる文字数は 1,024 文字以内です。参照プロトコルのフォーマット式に記載できる URL スキーマを次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• http</li> <li>• https</li> <li>• file</li> </ul> 「フォルダーパス」で指定したパスを「参照プロトコル」で指定した文字列に置き換えることで、Web サーバー経由やローカルファイルにアクセスする URL を作成します。作成する URL は基底部の置き換えとセパレーターの変換 (「¥」を「/」に変換) を行います。

#	項目名	指定規則	説明
④	フィルター※2※3	任意	<p>クローリングしないファイルパスのフィルター式を入力します。入力できる文字数は1,024文字以内です。</p> <p>「を含む」にはクローリング対象を含むフィルター式を、「を除く」には、クローリング対象から除くフィルター式を指定できます。フィルター式の正当性はチェックされません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「を含む」 フィルター式にマッチするファイルパスのクローリングを実行します。</li> <li>「を除く」 フィルター式にマッチするファイルパスのクローリングを実行しません。</li> </ul> <p>「を除く」、「を含む」の両方を指定した場合、「を除く」で指定された条件にマッチしないファイルパスのうち、「を含む」で指定された条件にマッチするファイルパスのクローリングを実行します。</p> <p>なお、フィルターによりクローリングするエントリから除かれたファイルへは、アクセスを行いません。</p>

#### 注※1

参照プロトコルで指定した URL スキーマが http, https の場合は、URL 正規化を行います。置き換えの例を次の表に示します。

**表 5-10 置き換えの例**

置き換え前の参照プロトコル	置き換え後の参照 URL
http://12.34.56.78/web/local/	http://12.34.56.78/web/local/target.doc
file://12.34.56.78/共用/フォルダー/	file://12.34.56.78/共用/フォルダー/under/target.doc

#### 注※2

フィルターは次の表に示す内容で、部分文字列マッチを確認します。

**表 5-11 部分文字列マッチの内容**

フィルター定義	意味
* (ワイルドカード)	任意の文字 0 文字以上として扱われます。
? (ワイルドカード)	任意の文字 1 文字として扱われます。
任意のシングルバイト文字	大文字と小文字は、同一文字として扱われます。
任意のマルチバイト文字 (UTF-8)	そのまま比較します。
;(セミコロン)	セパレーターです。 このセパレーターで複数のフィルターを指定できます。

#### 注※3

フィルター式に何も指定しない場合は、次の表のとおりとなります。

表 5-12 フィルター式に何も指定しない場合

フィルター種類	デフォルト	備考
クローリング対象に含むフィルター式	なし	—
クローリング対象から除くフィルター式	*.gif;*.tif;*.tiff;*.jpg;*.jpeg;*.png;*.bmp	既定の画像ファイル

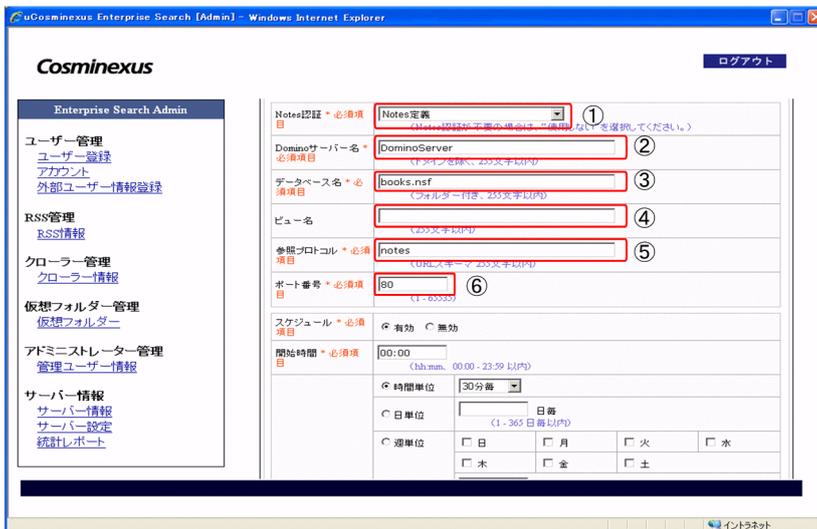
注※4

システム定義として設定可能な上限値です。実際の収集では、収集先システムの制限を受けます。  
Windows ファイルシステムの場合、収集可能なファイル名の長さは 259 バイト以下に制限されます。

## 5.4.5 Notes クローラー詳細情報

Notes 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。他のクローラーと共通の設定については、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してください。

図 5-8 Notes クローラー詳細情報画面



Notes クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-13 Notes クローラー詳細情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	Notes 認証	必須	共通定義で登録した Notes 認証定義のタイトルが、Notes 認証 ID の昇順でプルダウンメニューに表示されます。利用する Notes 認証を選択します。Notes の認証制限を適用する場合は、複数のクローラーで同一の Notes DB を対象とし、使用する Notes 認証定義、ビューを切り替えてください。	—
②	Domino サーバー名	必須	クローリングするデータベースを持つ Domino サーバー名を入力します。	255 文字以内

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
③	データベース名	必須	クローリングする Notes DB のデータベース名を入力します。	255 文字以内
④	ビュー名	任意	アクセス条件として指定する Notes DB のビュー名を入力します。	255 文字以内
⑤	参照プロトコル*	必須	参照プロトコルのフォーマット式を入力します。 Domino Web サーバー経由によるアクセス、および Notes クライアントによるアクセス (Notes URL プロトコル) による URL を作成できます。	255 文字以内
⑥	ポート番号	必須	Domino Web サーバーで使用する参照プロトコルのポート番号を入力します。半角数字以外を入力した場合、および 1~65,535 の範囲以外の値を入力した場合はエラーとなります。	5 文字以内

注※

参照プロトコルによる URL 作成の例を次の表に示します。

**表 5-14 参照プロトコルによる URL 作成**

参照プロトコル	作成する URL
http	Domino サーバーと同じサーバーに構築される Domino Web サーバー用の URL を作成します。 ポート番号には「ポート番号」で指定された番号を適用します。
https	Domino サーバーと同じサーバーに構築される Domino Web サーバー用の URL を作成します。 ポート番号には「ポート番号」で指定された番号を適用します。 URL スキーマは https です。
notes	Notes クライアント経由用の Notes URL プロトコルの URL を作成します。
上記以外の任意文字列	Notes クライアント経由用の Notes URL プロトコルの URL を作成します。 URL スキーマを指定の任意文字列とします。

## 5.4.6 RDB クローラー詳細情報

RDB 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。他のクローラーと共通の設定については、「[5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目](#)」を参照してください。

## 図 5-9 RDB クローラー詳細情報画面

RDB クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-15 RDB クローラー詳細情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	対象データベース	必須	収集対象の RDB をプルダウンメニューから選択します。 表示する RDB を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• HiRDB</li> <li>• Oracle</li> <li>• SQL Server</li> </ul> ここで選択した RDB と、そのほかの項目で指定した OLE DB プロバイダーの種類が不一致の場合、クローリングエラーとなります。	—
②	接続文字列	必須	クローリングを実行する RDB に対する OLE DB 接続文字列を入力します。OLE DB 接続文字列は、クローリングを実行する RDB ごとに異なります。それぞれの RDB の情報を確認してください。 また、ユーザー名は「%UID%」、パスワードは「%PWD%」に置き換えてください。	1,024 文字以内
③	RDB 認証 <sup>*1</sup>	必須	共通定義で登録したユーザー認証定義のタイトルが、RDB 認証 ID の昇順でプルダウンメニューに表示されます。RDB 認証に使用するユーザー認証定義を選択します。 利用しない場合は「使用しない」を選択してください。	—
④	表名 <sup>*2</sup>	必須	クローリングする表名を入力します。	255 文字以内
⑤	ユニークキーのカラム名 <sup>*2*3</sup>	必須	クローリングする表のレコードを指定する場合に、ユニークキーの列名を入力します。	255 文字以内
⑥	更新日時のカラム名 <sup>*2*3</sup>	任意	更新日時のカラム名を入力できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 日時データが 1970/01/01 00:00:00～2038/01/19 03:14:07 (UTC：世界標準時) の範囲内の場合、その日時を更新日時とします。</li> </ul>	255 文字以内

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑥	更新日時のカラム名※2※3	任意	<ul style="list-style-type: none"> <li>日時データが 0100/01/01 00:00:00～1969/12/31 23:59:59 (UTC), または 2038/01/19 03:14:08～9999/12/31 23:59:59 (UTC) の範囲内の場合、現在日時を更新日時とします。</li> <li>日時データが 0099/12/31 23:59:59 (UTC) 以前、または 10000/01/01 00:00:00 (UTC) 以降の場合は、動作は保証しません。</li> </ul>	255 文字以内
⑦	タイトルのカラム名※2※3	任意	タイトルのカラム名を入力できます。	255 文字以内
⑧	本文のカラム名※2※3	任意	本文のカラム名を入力できます。	255 文字以内
⑨	参照 URL のカラム名※2※3	任意	Web ブラウザーのアクセスに使用する URL のカラム名が入力できます。	255 文字以内
⑩	ファイル名のカラム名※1※2※3	任意	ファイル名のカラム名が入力できます。	255 文字以内

#### 注※1

RDB の認証制限を適用する場合には、複数のクローラーで同一の RDB テーブルを指定して、使用する RDB 認証定義を切り替えてください。

#### 注※2

カラム名の大文字、小文字を区別する場合はダブルクォート (") で囲んでください。なお、カラム名に半角空白、全角空白、半角セミコロン (;) は入力できません。

#### 注※3

指定できるカラムの型は、OLE DB プロバイダーごとに異なります。指定できる型を次の表に示します。なお、指定時に型のチェックは行われません。

**表 5-16 OLE DB プロバイダーによる指定できる型の差異**

カラム名	Oracle Provider for OLE DB を使用して Oracle Database の文書をクローリング	OLE DB Provider for SQL Server を使用して SQL Server の文書をクローリング	HiRDB OLE DB プロバイダーを使用して HiRDB の文書をクローリング
ユニークキー	文字列型, 数値型	文字列型, 数値型	文字列型, 数値型
更新日時	日付型	日付型	日付型
タイトル	文字列型	文字列型	文字列型
本文	文字列型, バイナリ型	文字列型, バイナリ型	文字列型
参照 URL	文字列型	文字列型	文字列型
ファイル	文字列型	文字列型	文字列型

Enterprise Search が対応している各 RDB のデータ型を次の表に示します。

表 5-17 Oracle Provider for OLE DB の場合

データ型	内容
文字列型	CHAR, CLOB, VARCHAR
数値型	BINARY_FLOAT, BINARY_DOUBLE, FLOAT, NUMBER
日付型	DATE, TIMESTAMP
バイナリ型	BFILE, BLOB, RAW, LONG RAW

表 5-18 OLE DB Provider for SQL Server の場合

データ型	内容
文字列型	char, varchar, text
数値型	numeric, decimal, tinyint, smallint, int, real, float
日付型	smalldatetime, datetime
バイナリ型	binary, varbinary

表 5-19 HiRDB OLE DB プロバイダーの場合

データ型	内容
文字列型	CHAR, MCHAR, NCHAR, VARCHAR, MVARCHAR, NVARCHAR
数値型	DECIMAL, SMALLINT, INTEGER, REAL, SMALLFLT, FLOAT, DOUBLE PRECISION
日付型	DATE, TIME, TIMESTAMP

## 注意事項

- クローリングは 1 トランザクションで行われます。そのため、対象となる文書数が多大な場合に RDB サーバーとの接続がタイムアウトし、クローリングに失敗する場合があります。このような場合は、RDB サーバーのトランザクションタイムアウトの値を、クローリング期間で設定した値よりも大きい値に設定してください。
- RDB サーバーが SQL Server、および HiRDB の場合、クローリング中は対象のテーブル、またはビューをロックします。Oracle Database の場合は、クローリング中でもロックはされません。SQL Server、および HiRDB のロックの方法を次に示します。

SQL Server の場合：対象のテーブル、またはビューをintent 共有でロックします。

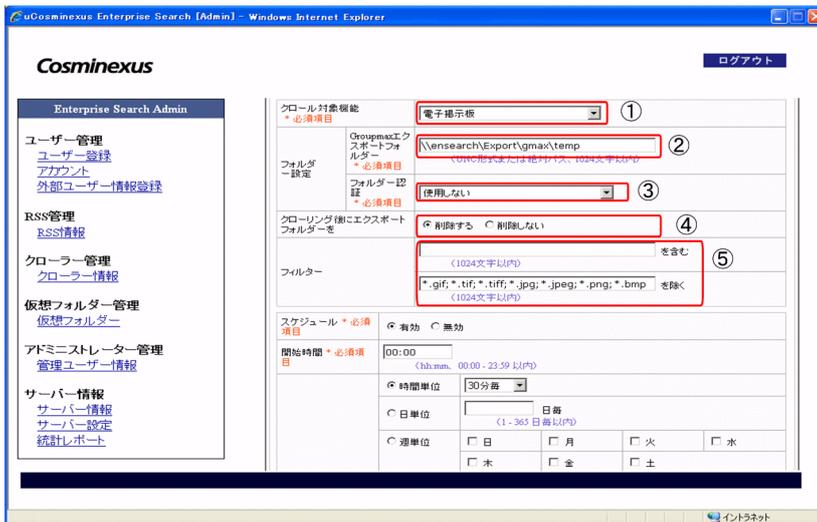
HiRDB の場合：対象のテーブル、またはビューを共有モードでロックします。

他のアプリケーションなどから更新・挿入が行われる可能性のあるテーブル、またはビューをクローリングする場合は、他のアプリケーションへの影響が最小限となる時間にクローリングを行うスケジューリングにしてください。

## 5.4.7 Groupmax クローラー詳細情報画面

Groupmax 固有のクローラー情報の詳細情報について説明します。他のクローラーと共通の設定については、「5.4.1 クローラー詳細情報の共通設定項目」を参照してください。

図 5-10 Groupmax クローラー詳細情報画面



Groupmax クローラー詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-20 Groupmax クローラー詳細情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明
①	クローリング対象機能	必須	<p>クローリングする Groupmax の機能を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>電子掲示板 電子掲示板に投稿された記事をクローリングする場合に指定します。Enterprise Search では電子掲示板上の一つの記事を一つのエントリーとして扱います。添付ファイルを持つ記事の場合は、添付ファイルも含めて一つのエントリーとします。</li> <li>電子会議室 電子会議室の発言をクローリングする場合に指定します。Enterprise Search では電子会議室での一つの発言を一つのエントリーとして扱います。添付ファイルを持つ発言の場合は、添付ファイルも含めて一つのエントリーとします。</li> <li>ファイル共有 ファイル共有に格納されたファイルをクローリングする場合に指定します。Enterprise Search では一つのファイルを一つのエントリーとして扱います。ファイルが Groupmax メールファイル(*.mlf)であり、メールファイルに添付ファイルが存在する場合は、添付ファイルのタイトルだけを含めて、一つのエントリーとします。</li> </ul> <p>クローリング対象ファイルの設定については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。</p>

#	項目名	指定規則	説明
①	クローリング対象機能	必須	Groupmax クローラーの登録が完了したあとに、クローリング対象機能の変更はできません。
②	Groupmax エクスポートフォルダー※1	必須	Groupmax の電子掲示板/電子会議室/ファイル共有の内容ファイルがエクスポートされるフォルダーのパスを、UNC 形式、または絶対パス形式で指定してください。 指定できる文字数は 1,024 文字※4 までです。
③	フォルダー認証	必須	共通定義で登録したユーザー認証定義のタイトルが、ユーザー認証 ID の昇順でプルダウンメニューに表示されます。 「フォルダー認証」に利用するユーザー認証定義を選択します。 利用しない場合は「使用しない」を選択します。
④	クローリング後にエクスポートフォルダーを削除するかの指定	必須	Groupmax クローラーの登録が完了したあとに「Groupmax エクスポートフォルダー」で指定したフォルダーに格納されている、電子掲示板/電子会議室/ファイル共有の内容ファイルを削除するかどうかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>削除する 指定したファイルを削除します。デフォルトの設定です。</li> <li>削除しない 指定したファイルを削除しません。</li> </ul>
⑤	フィルター※2※3	任意	電子掲示板、または電子会議室の添付ファイルのファイル名に対するフィルター式を入力します。なお、クローリング対象機能にファイル共有を指定した場合は、この項目は表示されません。 入力できる文字数は 1,024 文字以内です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「を含む」 クローリングする添付ファイルのファイル名を含むフィルター式を指定します。 「を含む」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングする添付ファイルのファイル名に含めます。</li> <li>「を除く」 クローリングする添付ファイルのファイル名から除くフィルター式を指定します。 「を除く」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングする添付ファイルのファイル名から除きます。</li> </ul> 「を除く」、「を含む」の両方を指定した場合、「を除く」で指定された条件にマッチしない添付ファイルのファイル名のうち、「を含む」で指定された条件にマッチする添付ファイルのファイル名に対してクローリングを行います。 フィルターによりクローリングする添付ファイルのファイル名から除かれたファイルへは、アクセスを行いません。

#### 注※1

- Groupmax からエクスポートされたファイルが正しくない場合は、クローリングエラーとなります。
- 「Groupmax エクスポートフォルダー」の指定先に複数のファイルが存在する場合、Enterprise Search はファイル名の日付が昇順のファイルからクローリングを実行します。

## 注※2

フィルターは次の表に示す内容で、部分文字列マッチを確認します。

**表 5-21 部分文字列マッチの内容**

フィルター定義	意味
* (ワイルドカード)	任意の文字 0 文字以上として扱われます。
? (ワイルドカード)	任意の文字 1 文字として扱われます。
任意のシングルバイト文字	大文字と小文字は、同一文字として扱われます。
任意のマルチバイト文字 (UTF-8)	そのまま比較します。
; (セミコロン)	セパレーターです。このセパレーターで複数のフィルターを指定できます。

## 注※3

フィルター式に何も指定しない場合は、次の表のとおりとなります。

**表 5-22 フィルター式に何も指定しない場合**

フィルター種類	デフォルト	備考
クローリングする添付ファイルのファイル名を含むフィルター式	なし	—
クローリングする添付ファイルのファイル名から除くフィルター式	*.gif;*.tif;*.tiff;*.jpg;*.jpeg;*.png;*.bmp	既定の画像ファイル

## 注※4

システム定義として設定可能な上限値です。実際の収集では、収集先システムの制限を受けます。Windows ファイルシステムの場合、収集可能なファイル名の長さは 259 バイト以下に制限されます。

### 注意事項

- Enterprise Search は指定先の Groupmax エクスポートフォルダーのファイルから Groupmax のユーザーのアクセス権や必要なデータを取得しています。ファイルのエクスポートを定期的に行わない場合、Groupmax 上でのアクセス権と Enterprise Search で表示する内容が一致しないおそれがあります。Groupmax からのファイルのエクスポートは定期的に行う運用を推奨します。
- クロール実行コマンド (IWSCrawler.bat) で -d (登録済みデータの削除) を指定し、かつ「エントリー保存期間」に「クローリング先から削除されたエントリーを削除する」を指定している場合、Enterprise Search はクローリングを実行するごとに「Groupmax エクスポートフォルダー」で指定したフォルダーのファイルを確認し、会議室の参照期限、発言の有効期限が過ぎた電子会議室、記事の提示期限が過ぎた電子掲示板、および前回までに収集したファイル共有のデータで未更新のデータを削除します。なお、ファイル共有のデータはコマンドでの削除を推奨します。詳細については「9.8 Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド」を参照してください。

## (1) Groupmax のエクスポートコマンド使用時の注意

Groupmax のエクスポート機能で、エクスポートコマンドを使用する際の注意事項について説明します。

なお、Groupmax のエクスポート機能の詳細についてはマニュアル「Collaboration - Forum システム管理者ガイド」、および「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

- Enterprise Search は、クローリングの実行時に指定された Groupmax エクスポートフォルダー内のすべてのファイルを登録します。-startdate オプション（開始日付の指定）を指定すると、前回エクスポートコマンドを実行した時間から追加、更新されたデータだけが出力されるため、クローリング時間の短縮ができます。  
-startdate オプションを指定する運用を推奨します。
- -c オプション（文字コードセット）には UTF-8 を指定してください。UTF-8 以外の文字コードを指定した場合は、エクスポートしてもファイルを認識できません。
- 次の場合はアクセス権情報の判定ができないため、登録がスキップされます。
  - アクセス権一覧ファイルに存在しない掲示板 ID を持つ記事データ
  - アクセス権一覧ファイルに存在しないロール ID を持つ発言データ
  - 会議室一覧ファイルに存在しない会議室 ID を持つ発言データ
  - アクセス権一覧ファイルに存在しない OIID を持つコンテンツデータ
- 一度でも登録がスキップされた場合は、次に示す動作となります。
  - クローリング後にエクスポートフォルダーを削除するかの指定が「削除する」の場合でも、エクスポートフォルダーの削除は実施しません。
  - **クロール実行コマンド (IWSCrawler.bat)** で -d（登録済みデータの削除）を指定し、かつ「エンタリー保存期間」に「クローリング先から削除されたエンタリーを削除する」を指定した場合でも、エンタリーの削除は実施されません。
- 電子掲示板のデータをエクスポートする場合
  - 記事一覧とアクセス権一覧ファイルを同じディレクトリに出力するように、-d オプション（出力先ディレクトリパス）を指定してください。
  - -bid オプション（掲示板 ID）、-nid オプション（記事 ID）は指定しないでください。
- 電子会議室のデータをエクスポートする場合
  - 発言一覧と会議室一覧ファイル、およびアクセス権一覧ファイルを同じディレクトリに出力するように、-d オプション（出力先ディレクトリパス）を指定してください。
  - -fid オプション（会議室 ID）、-opnid オプション（発言 ID）は指定しないでください。
  - 記事一覧、発言一覧の URL を出力する場合は、-e url オプションを指定してください。
- ファイル共有のデータをエクスポートする場合
  - コンテンツデータ一覧とアクセス権一覧ファイルを同じディレクトリに出力するように、-d オプション（出力先ディレクトリパス）を指定してください。

- ファイル共有のグループフォルダーのデータをエクスポートする場合
  - ファイルの所有者や運用者のアクセス権で検索に正しくヒットするためには、そのファイルより上位のフォルダーのアクセス権で明示的に、所有者や運用者のアクセス権が設定されている必要があります。

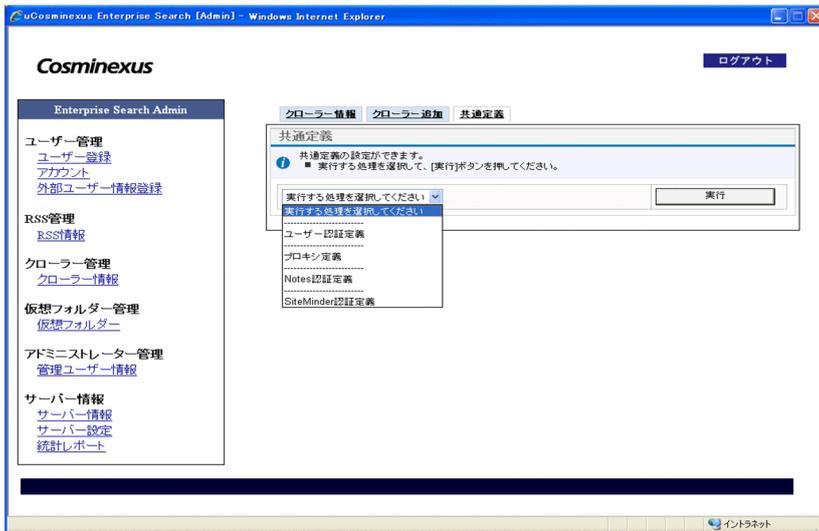
ファイル共有のグループフォルダーに関するアクセス制御の詳細については、Collaboration - File Sharing のマニュアルを参照してください。

## 5.5 クローラーの共通定義

クローラー管理の [クローラー管理] リンクをクリックして、[共通定義] タブを選択します。「共通定義画面」が表示されます。

共通定義では、クローラーの詳細情報画面で設定する「ユーザー認証定義」、「プロキシ定義」、「Notes 認証定義」、「SiteMinder 定義」のプルダウンメニューで表示される項目を定義します。共通定義では「ユーザー認証定義」を最初に実行します。

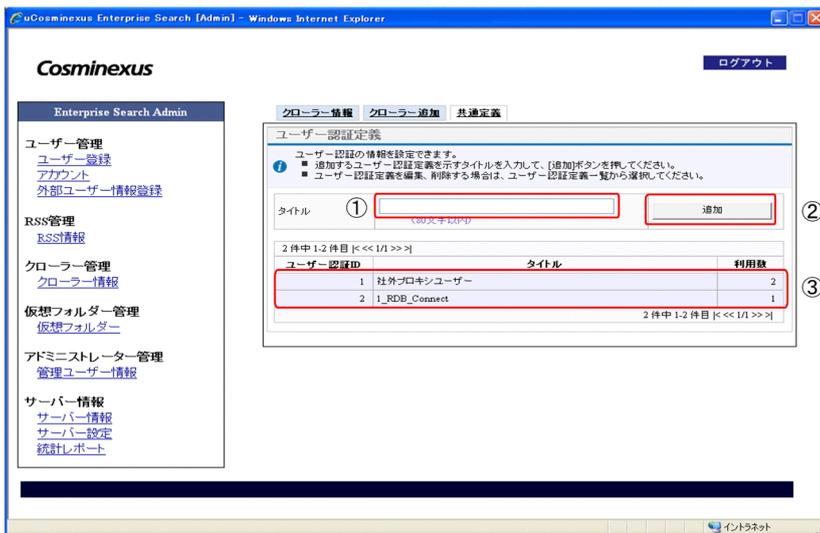
図 5-11 共通定義画面



### 5.5.1 ユーザー認証定義

ユーザー認証定義について説明します。「共通定義画面」でプルダウンメニューで「ユーザー認証定義」を選択し [実行] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 5-12 ユーザー認証定義画面



ユーザー認証定義画面の項目を次の表に示します。

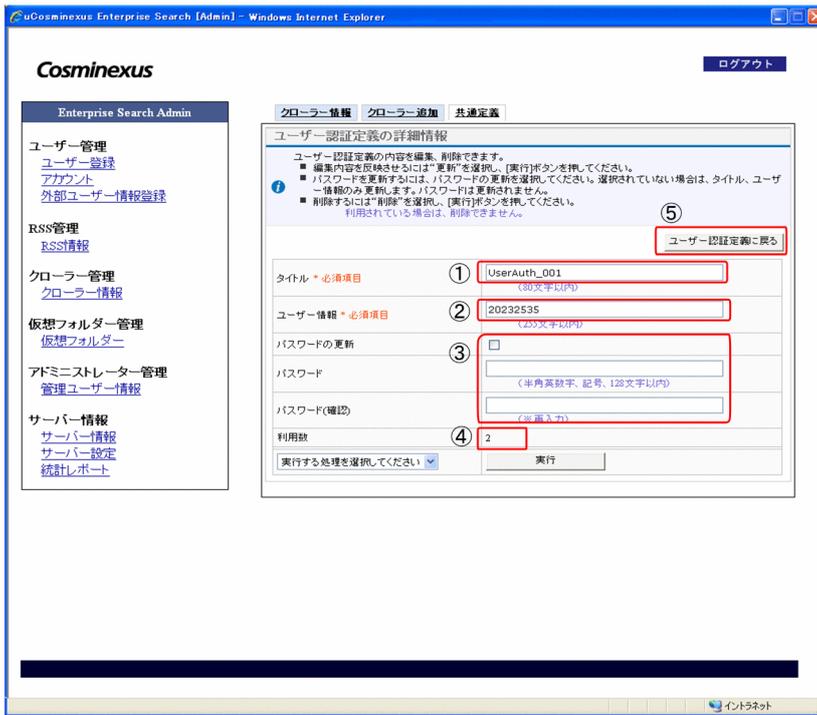
表 5-23 ユーザー認証定義画面の項目

#	項目名	説明
①	タイトル	新しくユーザー認証定義を追加する場合に入力します。 入力できる文字数は、80文字以内です。 何も入力しないで [追加] ボタンをクリックした場合、他のユーザー認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。
②	[追加] ボタン	クリックすると、ユーザー認証定義のタイトルが追加されます。
③	ユーザー認証定義の一覧	定義内容を設定、または更新したい行をクリックすると、「ユーザー認証定義の詳細情報画面」が表示され、ユーザー認証定義の内容を設定または更新できます。 ユーザー認証定義の詳細情報については「5.5.2 ユーザー認証定義の詳細情報」を参照してください。

## 5.5.2 ユーザー認証定義の詳細情報

ユーザー認証定義を追加・更新する場合、次の画面で設定します。

図 5-13 ユーザー認証定義の詳細情報画面



ユーザー認証定義の詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-24 ユーザー認証定義の詳細情報画面の項目

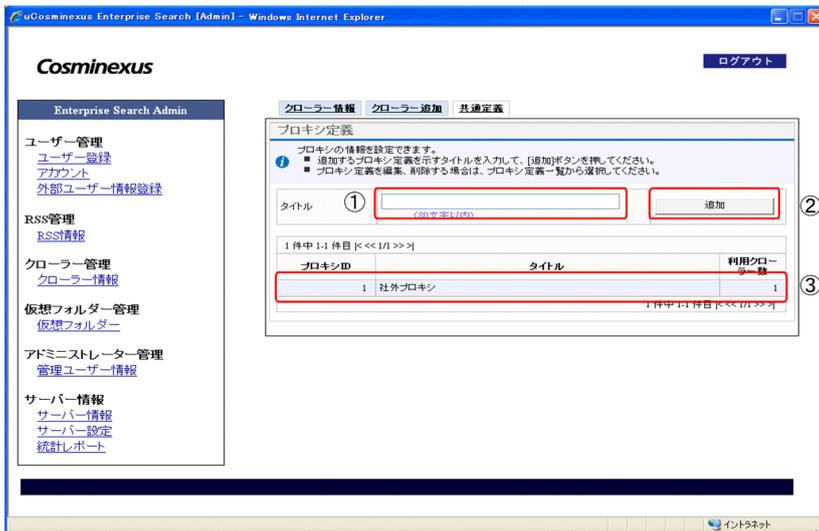
#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	タイトル	必須	タイトルを更新する場合に入力します。 他のユーザー認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。	80 文字以内
②	ユーザー情報	必須	ユーザー認証に使用するユーザーを入力します。	255 文字以内
③	パスワードの更新	任意	ユーザー認証に使用するユーザーのパスワードを更新する場合に「パスワードの更新」チェックボックスを選んで、「パスワード」と「パスワード (確認)」に新しいパスワードを入力します。 「パスワードの更新」チェックボックスを選んでいない場合は、新しいパスワードを入力しても更新されません。 半角英数字以外を入力した場合はエラーとなります。	128 文字以内
④	利用数	—	このユーザー認証定義を利用しているクローラーと、プロキシ認証の合計が表示されます。	—
⑤	[ユーザー認証定義に戻る] ボタン	—	クリックすると「ユーザー認証定義画面」に戻ります。	—

設定した定義の更新については、「5.5.9 共通定義の更新」を参照してください。

## 5.5.3 プロキシ定義の設定

プロキシ定義の設定について説明します。「共通定義画面」でプロキシ定義を選択し「実行」ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 5-14 プロキシ定義画面



プロキシ定義画面の項目を次の表に示します。

表 5-25 プロキシ定義画面の項目

#	項目名	説明
①	タイトル	新しくプロキシ定義を追加する場合に入力します。 入力できる文字数は、80文字以内です。 何も入力しない場合、他のプロキシ定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。
②	[追加] ボタン	クリックすると、設定したタイトルでプロキシ定義が追加されます。
③	プロキシ認証定義の一覧	クリックすると「プロキシ定義の詳細情報画面」が表示され、プロキシ定義の内容の設定、または更新ができます。 プロキシ定義の詳細情報については「5.5.4 プロキシ定義の詳細情報」を参照してください。

## 5.5.4 プロキシ定義の詳細情報

プロキシ定義を追加、更新する場合、次の画面で設定します。

図 5-15 プロキシ定義の詳細情報画面



プロキシ定義の詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-26 プロキシ定義の詳細情報画面の項目

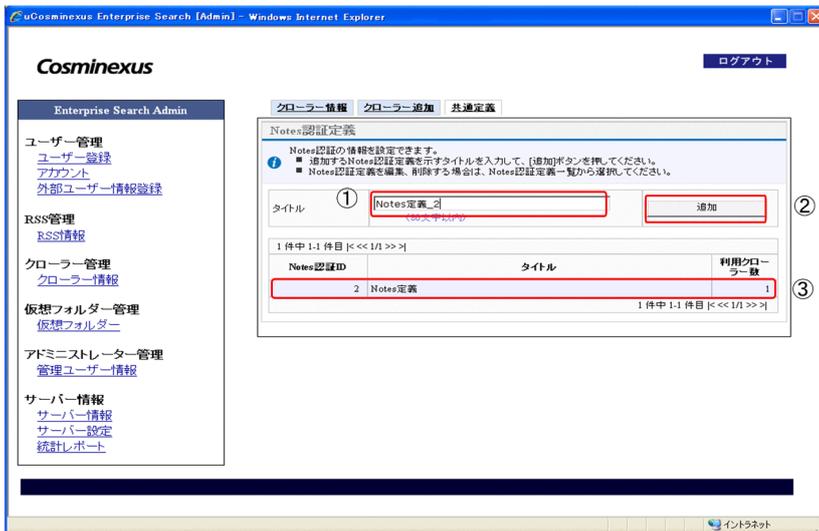
#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	タイトル	必須	タイトルを更新する場合に入力します。 他のプロキシ認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。	80 文字以内
②	アドレス	必須	利用するプロキシサーバーのアドレスを入力します。 半角英数字以外を入力した場合はエラーとなります。	512 文字以内
③	ポート番号	必須	利用するプロキシサーバーのポート番号を入力します。 半角数字以外を入力した場合、1～65,535 の範囲以外の値を入力した場合はエラーとなります。	5 文字以内
④	ユーザー認証	必須	共通定義で登録済みのユーザー認証が、一覧で表示されます。利用するユーザー認証をプルダウンメニューから選択します。 ユーザー認証が必要ない場合は「使用しない」を選択してください。	—
⑤	利用クローラー数	—	利用しているクローラー数が表示されます。 利用数が 0 の場合、削除を実行できます。	—
⑥	[プロキシ定義に戻る] ボタン	—	クリックすると「プロキシ定義画面」に戻ります。	—

設定した定義の更新については、「5.5.9 共通定義の更新」を参照してください。

## 5.5.5 Notes 認証定義の設定

Notes 認証定義の設定について説明します。「共通定義画面」で Notes 定義を選択し、「実行」ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 5-16 Notes 認証定義画面



Notes 認証定義画面の項目を次の表に示します。

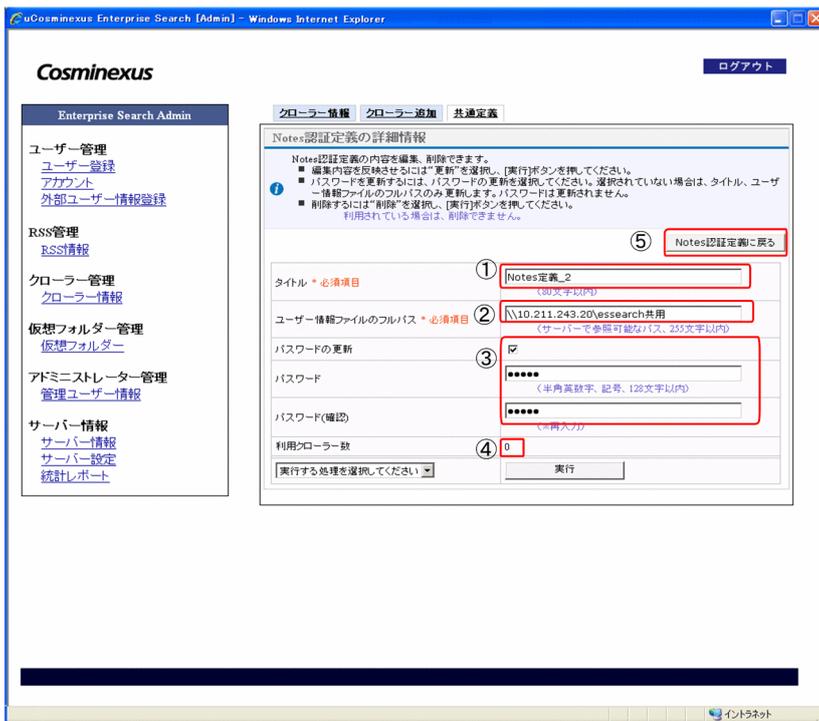
表 5-27 Notes 認証定義画面の項目

#	項目名	説明
①	タイトル	新しく Notes 認証定義を追加する場合に入力します。 入力できる文字数は、80 文字以内です。 何も入力しない場合、他の Notes 認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。
②	[追加] ボタン	クリックすると、設定したタイトルで Notes 認証定義が追加されます。
③	Notes 認証定義の一覧	クリックすると「Notes 認証定義の詳細情報画面」が表示され、Notes 認証定義の内容を設定または更新できます。 Notes 認証定義の詳細情報については、「5.5.6 Notes 認証定義の詳細情報」を参照してください。

## 5.5.6 Notes 認証定義の詳細情報

Notes 認証定義を追加、更新する場合、次の画面で設定します。

図 5-17 Notes 認証定義の詳細情報画面



Notes 認証の詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-28 Notes 認証定義の詳細情報画面の項目

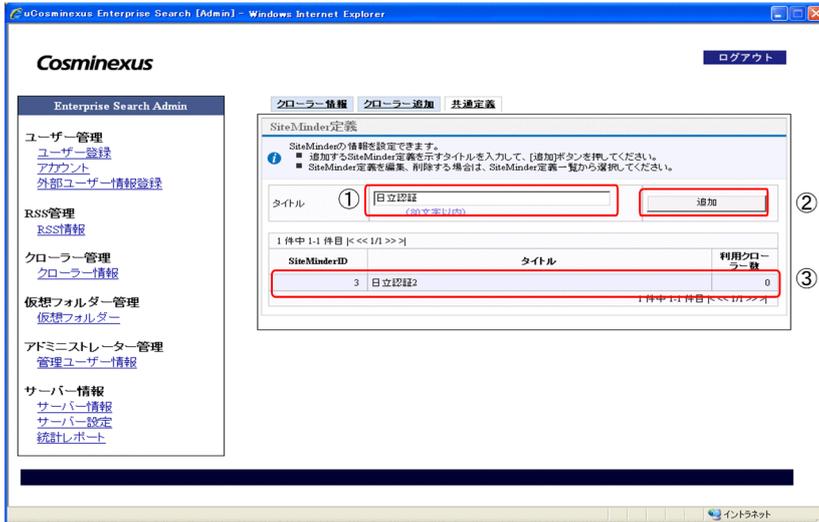
#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	タイトル	必須	タイトルを更新する場合に入力します。 他の Notes 認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。	80 文字以内
②	ユーザー情報ファイルのフルパス	必須	Notes で認証する「ユーザー情報ファイルのフルパス」を入力します。	255 文字以内
③	パスワードの更新	任意	Notes 認証に使用するユーザーのパスワードを更新する場合に「パスワードの更新」チェックボックスを選んで、「パスワード」と「パスワード（確認）」に新しいパスワードを入力します。 「パスワードの更新」チェックボックスをを選んでいない場合は、新しいパスワードを入力しても更新されません。 半角英数字以外を入力した場合はエラーとなります。	128 文字以内
④	利用クローラー数	—	利用しているクローラー数が表示されます。 利用数が 0 の場合、削除を実行できます。	—
⑤	[Notes 認証定義に戻る] ボタン	—	クリックすると「Notes 認証定義画面」に戻ります。	—

設定した定義の更新については、「5.5.9 共通定義の更新」を参照してください。

## 5.5.7 SiteMinder 定義

SiteMinder 定義の設定について説明します。「共通定義画面」で SiteMinder 定義を選択し [実行] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 5-18 SiteMinder 定義画面



SiteMinder 定義画面の項目を次の表に示します。

表 5-29 SiteMinder 定義画面の項目

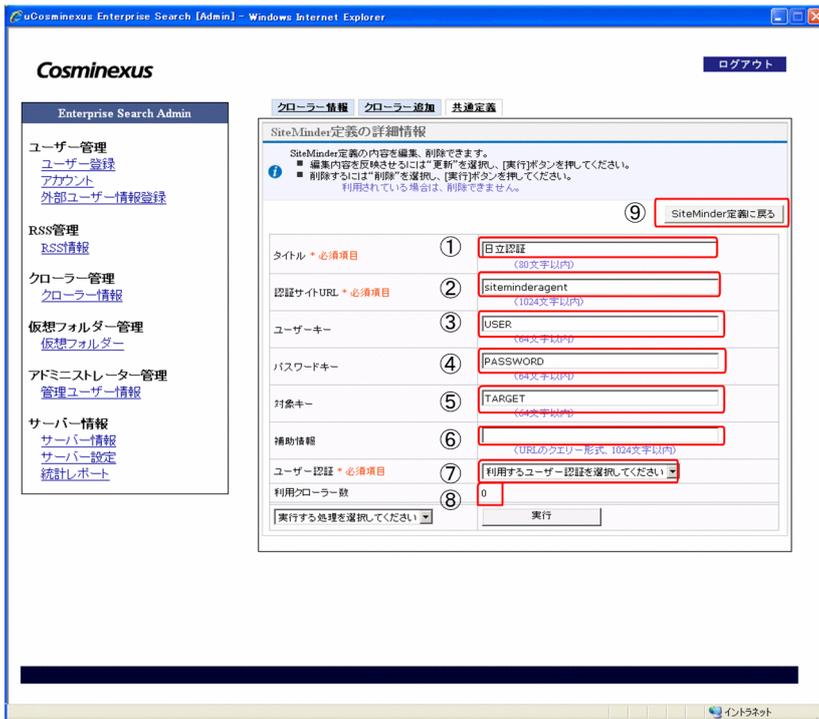
#	項目名	説明
①	タイトル	新しく SiteMinder 定義を追加する場合に入力します。 入力できる文字数は、80 文字以内です。 何も入力しない場合、他の SiteMinder 定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。
②	[追加] ボタン	クリックすると、SiteMinder 定義のタイトルが追加されます。
③	SiteMinder 定義の一覧	クリックすると「SiteMinder 定義の詳細情報画面」が表示され、SiteMinder 定義の内容を設定または更新できます。 SiteMinder 定義の詳細情報については、「5.5.8 SiteMinder 定義の詳細情報」を参照してください。

## 5.5.8 SiteMinder 定義の詳細情報

SiteMinder 定義を追加、更新する場合、次の画面で SiteMinder の情報を指定します。

なお、Enterprise Search での SiteMinder の認証方式は、HTML フォーム認証です。

## 図 5-19 SiteMinder 定義の詳細情報画面



SiteMinder 定義の詳細情報画面の項目を次の表に示します。

表 5-30 SiteMinder 定義の詳細情報情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
①	タイトル	必須	タイトルを更新する場合に入力します。 他の SiteMinder 認証定義で使用されているタイトルを入力した場合はエラーとなります。	80 文字以内
②	認証サイト URL	必須	SiteMinder の認証サイトの URL を指定します。 URL スキーマ、ホスト名は不要です。 例えば、SiteMinder の HTML フォーム認証として用意された URL が「https://siteminderpolicy/siteminderagent/formsja/login.fcc」の場合、指定値は「/siteminderagent/formsja/login.fcc」となります。	1,024 文字以内
③	ユーザーキー	任意	ユーザー名を対応させるキーを指定します。 HTML フォームのユーザーを特定する情報を指定するパラメーター名を指定してください。 標準ではユーザー名やユーザー ID が使用され、パラメーター名に USER が使用されます。	64 文字以内
④	パスワードキー	任意	パスワードを対応させるキーを指定します。 HTML フォームのユーザーの認証情報を指定するパラメーター名を指定してください。 標準ではパスワードが使用され、パラメーター名に PASSWORD が使用されます。	64 文字以内

#	項目名	指定規則	説明	入力できる文字数
⑤	対象キー	任意	元のページ情報に対応させるキーを指定します。 SiteMinder 認証が発生した URL を指定するパラメーター名を指定してください。 標準ではパラメーター名に TARGET が使用され、hidden 情報で付加されます。	64 文字以内
⑥	補助情報*	任意	上記以外に HTML フォーム中に固定の hidden 情報がある場合は、必要に応じて URL のクエリー形式で指定してください。	1,024 文字以内
⑦	ユーザー認証	必須	共通定義で登録済みのユーザー認証定義が、一覧で表示されます。	—
⑧	利用クローラー数	—	利用しているクローラー数が表示されます。 利用数が 0 の場合、削除を実行できます。	—
⑨	[SiteMinder 認証定義に戻る] ボタン	—	クリックすると「SiteMinder 定義画面」に戻ります。	—

## 注※

補助情報として次の hidden 情報がある場合の例を示します。

```
<input type="hidden" name="SMENC" value="UTF-8" />
<input type="hidden" name="SMLOCALE" value="JP-jp" />
<input type="hidden" name="SMAUTHREASON" value="0" />
```

## 指定値

```
SMENC=UTF-8&SMLOCALE&JP-jp&SMAUTHREASON=0
```

設定した定義の更新については、「[5.5.9 共通定義の更新](#)」を参照してください。

## 5.5.9 共通定義の更新

「[5.5.2 ユーザー認証定義の詳細情報](#)」, 「[5.5.4 プロキシ定義の詳細情報](#)」, 「[5.5.6 Notes 認証定義の詳細情報](#)」, 「[5.5.8 SiteMinder 定義の詳細情報](#)」の各詳細情報画面で項目を設定したあと [更新] ボタンをクリックすると、設定した内容で定義を更新します。

- 更新：設定した内容をチェックしたあと更新します。  
更新に成功した場合は、「更新完了」のメッセージが表示されます。削除済みの定義を更新した場合は、各定義画面が表示され「削除済み」のメッセージを表示します。
- 削除：定義を削除します。  
利用数が 0 以外の場合は削除できません。削除を確認する画面を表示したあと、各定義画面で削除結果を表示します。

# 6

## 仮想フォルダー管理

仮想フォルダーの追加や変更、定義の設定について説明します。

## 6.1 仮想フォルダーとは

仮想フォルダー機能とは、検索結果を分類できるような検索条件を仮想フォルダーとして登録し、検索に使用することによって容易に検索結果を絞り込むことができる機能です。階層的に管理でき、ユーザーはシステム管理者が作成した仮想フォルダーとユーザー自身が作成した仮想フォルダーを使用できます。

アドミニストレーター画面では、システム管理者が作成した仮想フォルダーの編集ができます。また、仮想フォルダーの設定は、アドミニストレーター画面のサーバー設定の多機能検索画面で設定できます。

仮想フォルダーには以下の定義があります。

**表 6-1 仮想フォルダーの共通定義**

定義名	定義内容
検索用フォルダー	検索条件を持ち、検索結果の絞り込みができる仮想フォルダー
分類用フォルダー	検索条件を持たず、仮想フォルダーの分類に使用する仮想フォルダー

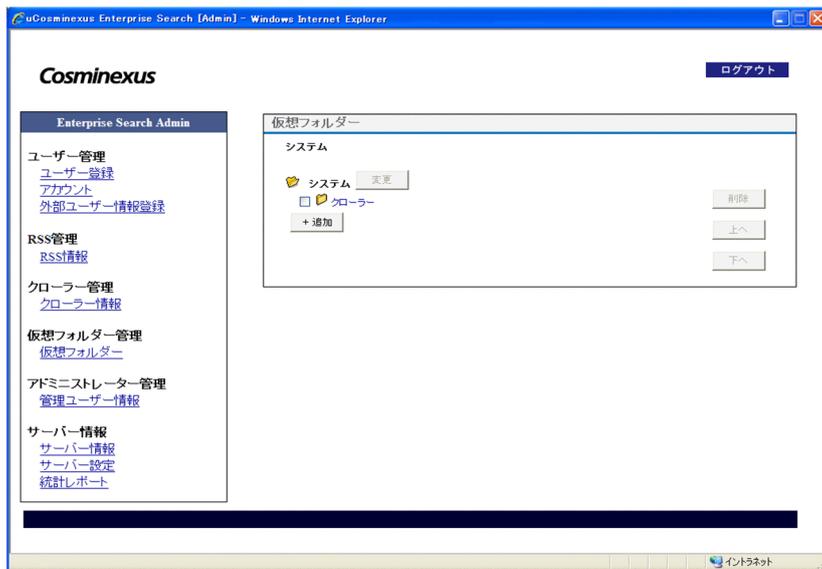
## 6.2 仮想フォルダー画面

Enterprise Search に登録している仮想フォルダーを表示する画面です。

仮想フォルダー管理の [仮想フォルダー] リンクをクリックすると、最上位フォルダー「システム」を開いた状態で次の画面が表示されます。

以降、開いている仮想フォルダーを「カレントフォルダー」、カレントフォルダーの直下にある仮想フォルダーを「サブフォルダー」と表記します。

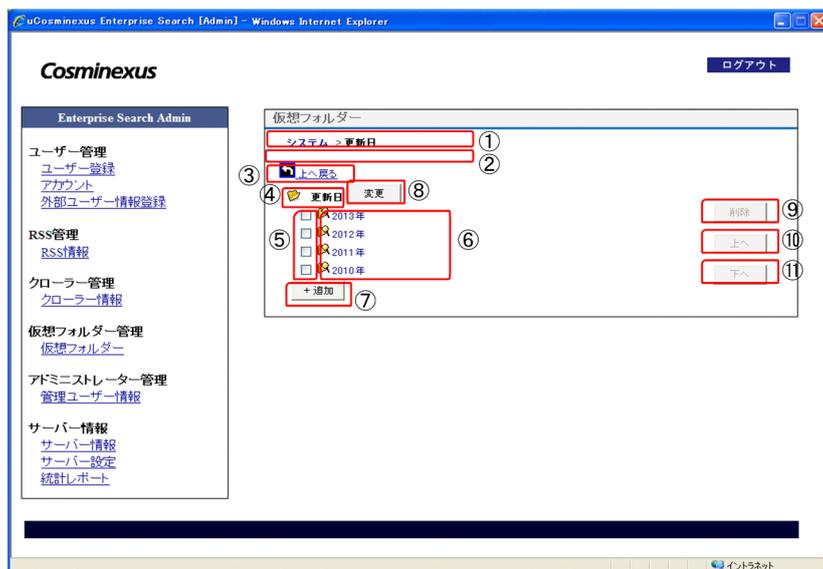
図 6-1 仮想フォルダー画面（最上位フォルダーを開いた状態）



環境構築時、最上位仮想フォルダー「システム」の直下に「クローラー」が作成されています。仮想フォルダー「クローラー」については、「6.5 クローラーの仮想フォルダー」を参照してください。

仮想フォルダーを作成して、カレントフォルダーが最上位フォルダーではない仮想フォルダー画面を次に示します。

図 6-2 仮想フォルダー画面（最上位フォルダー以外を開いた状態）



仮想フォルダー画面の項目について、次の表に示します。

表 6-2 仮想フォルダー画面の項目

#	項目名	説明
①	パンくずリスト	最上位の仮想フォルダーからカレントフォルダーまでを半角空白+「>」区切りで表示します。カレントフォルダー以外の仮想フォルダー名はリンクになります。クリックすると、クリックした仮想フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。
②	メッセージ欄	操作を実行した際のエラー、またはワーニングなどのメッセージを表示する欄です。別の操作を実行すると、表示されていたメッセージはクリアされます。
③	[上へ戻る] リンク	カレントフォルダーの1つ上位の仮想フォルダーに遷移します。クリックすると、カレントフォルダーの上位にある仮想フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。最上位フォルダーがカレントディレクトリの場合は、アイコンは表示されません。
④	カレントフォルダーアイコン／カレントフォルダー名	カレントフォルダーアイコンとカレントフォルダー名が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>検索用フォルダーの場合、が表示されます。</li> <li>分類用フォルダーの場合、が表示されます。</li> </ul>
⑤	選択チェックボックス	削除、または表示順の変更をするフォルダーを選択します。デフォルトはすべて未選択状態になります。
⑥	サブフォルダーアイコン／サブフォルダー名	サブフォルダーアイコンとサブフォルダー名が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>検索用フォルダーの場合、が表示されます。</li> <li>分類用フォルダーの場合、が表示されます。</li> </ul> <p>サブフォルダーアイコン、またはサブフォルダー名をクリックすると、クリックしたサブフォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。</p>
⑦	[+追加] ボタン	カレントフォルダーの下位に、新規で仮想フォルダーを作成します。クリックすると、仮想フォルダー作成画面に遷移します。なお、新規で作成した仮想フォルダーは、サブフォルダーのいちばん下の位置に配置されます。

#	項目名	説明
⑦	[+追加] ボタン	<p>以下の場合、クリック時にメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想フォルダーのネストが、virtualFolder.nest.count プロパティで指定した最大作成ネスト数を越える場合</li> <li>カレントフォルダーにあるサブフォルダーの数が、virtualFolder.nest.under.count プロパティで指定した仮想フォルダー直下に作成できる仮想フォルダー数を越える場合</li> </ul>
⑧	[変更] ボタン	<p>カレントフォルダー情報を更新します。クリックすると、仮想フォルダー詳細画面に遷移します。最上位フォルダーがカレントフォルダーの場合は、ボタンが非活性化されます。</p>
⑨	[削除] ボタン	<p>選択しているサブフォルダーを削除します。削除した場合は、削除した仮想フォルダーの下位にある仮想フォルダーも削除されます。</p> <p>選択しているサブフォルダーが1つもない場合は、ボタンが非活性化されます。</p>
⑩	[上へ] ボタン	<p>サブフォルダーの表示順を1つ上に移動するボタンです。選択しているサブフォルダーの表示順を1つ上の位置に移動します。選択したサブフォルダーの表示順がいちばん上の場合、順番は更新されません。</p> <p>選択が以下の場合、「上へ」ボタンは非活性化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サブフォルダーが1つも選択されていない場合</li> <li>サブフォルダーを2つ以上選択している場合</li> </ul>
⑪	[下へ] ボタン	<p>サブフォルダーの順序を1つ下に移動するボタンです。選択しているサブフォルダーの表示順を1つ下の位置に移動します。選択したサブフォルダーの表示順がいちばん下の場合、順番は更新されません。</p> <p>選択が以下の場合、「下へ」ボタンは非活性化されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>サブフォルダーが1つも選択されていない場合</li> <li>サブフォルダーを2つ以上選択している場合</li> </ul>

## 6.3 仮想フォルダー作成画面

仮想フォルダーの作成について説明します。

仮想フォルダー作成画面は、仮想フォルダー名や検索条件などの情報を入力して、新規に仮想フォルダーを作成する画面です。仮想フォルダー画面で「新規」ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 6-3 仮想フォルダー作成画面

図 6-4 仮想フォルダー作成画面（検索条件部）

仮想フォルダー作成画面の項目を次の表に示します。

表 6-3 仮想フォルダー作成画面の項目

#	項目名	指定規則	説明
①	メッセージ欄	—	操作実行時のエラー，またはワーニングなどのメッセージを表示する欄です。別の操作を実行すると，表示されていたメッセージはクリアされます。
②	[仮想フォルダー画面に戻る] ボタン	—	仮想フォルダー画面で [新規] ボタンをクリックした時の仮想フォルダー画面に遷移します。*1
③	仮想フォルダー名	必須	仮想フォルダー名を入力します。指定できる文字数は，30 文字です。
④	仮想フォルダー作成パス	—	最上位の仮想フォルダーから [新規] ボタンをクリックしたカレントフォルダーまでを，半角空白 + 「>」 区切りでパス表示します。
⑤	説明	任意	仮想フォルダーに関する説明を入力します。指定できる文字数は，1024 文字です。
⑥	仮想フォルダータイプ	必須	仮想フォルダーのタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>検索用フォルダー 検索条件を持ち，検索結果の絞り込みができる仮想フォルダー</li> <li>分類用フォルダー 検索条件を持たず，仮想フォルダーの分類に使用する仮想フォルダー</li> </ul>
⑦	上位検索条件の引き継ぎ	必須	上位の仮想フォルダーの検索条件を引き継ぐのかが選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>引き継ぐ (デフォルト)</li> <li>引き継がない</li> </ul> <p>引き継ぐを選択した場合は，上位の仮想フォルダー検索条件を引き継ぎます。また，さらに上位の仮想フォルダーも引き継ぐを設定している場合は，さらに上位の検索条件も引き継ぎます。</p> <p>仮想フォルダータイプに「分類用フォルダー」を選択している場合は，「引き継がない」が非活性化されます。</p>
⑧	検索条件部	—	仮想フォルダーに設定する検索条件を入力します。 仮想フォルダータイプに「検索用フォルダー」が選択されている場合だけ表示されます。
⑨	[元に戻す] ボタン	—	仮想フォルダー作成画面を最初に表示した状態に戻します。*2
⑩	[作成] ボタン	—	仮想フォルダー作成画面で設定した内容で，仮想フォルダーを新規作成します。作成後，作成する仮想フォルダーの上位をカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。*2*3
⑪	キーワード*4	⑥が検索用フォルダーの場合：任意	次のどれか，またはすべてを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>をすべて含む 指定したすべてのキーワードを文書中に含む文書を検索対象とします。</li> <li>のいずれかを含む 指定した複数のキーワードのうち，どれかを文書中に含む文書を検索対象とします。</li> <li>を含まない 指定したキーワードを文書中に含まない文書を検索対象とします。</li> </ul>
⑫	ファイル形式	⑥が検索用フォル	検索対象とするファイル形式を選択します。どれも選択しない場合，検索結果は 0 件となります。選択できるファイル形式を次に示します。

#	項目名	指定規則	説明
⑫	ファイル形式	データの 場合： 任意	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定なし（デフォルト）</li> <li>html, htm</li> <li>pdf</li> <li>doc, docx</li> <li>xls, xlsx</li> <li>ppt, pptx</li> </ul>
⑬	ユーザー	⑥が検索 用フォル ダーの 場合： 任意	ユーザーを3人まで指定して検索できます。指定できる文字数は、24文字です。検索対象となるユーザー名は、検索対象のファイルが持つデータによって異なります。例えば、office 文書の場合は文書のプロパティ、Groupmax 内の文書の場合は、発言者名、投稿者名などが検索の対象になります。
⑭	ファイル名	⑥が検索 用フォル ダーの 場合： 任意	ファイル名を指定して検索する場合に指定します。指定できる文字数は、48文字です。なお、ファイル名にタブ、および全角および半角の空白が含まれている場合は、これらの文字を無視して検索を実行します。
⑮	日付	⑥が検索 用フォル ダーの 場合： 必須	<p>検索対象とする文書を、日付を指定して絞り込む場合に選択します。日付を指定する場合は、プルダウンメニューで指定します。なお、指定した日付が存在しない日付の場合、存在する日付に変更します。例えば、4月31日と指定した場合は、4月30日に変更します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>指定なし（デフォルト）</li> <li>年, 月, 日 年には Enterprise Search のサーバーに設定された年の前後 10 年を指定できます。デフォルトでは、Enterprise Search のサーバーに設定された年月の同月 1 日が表示されています。</li> <li>最新 検索日時と検索日時の 1 日前の範囲を対象にします。</li> <li>今月 検索日時の月の範囲を対象にします。</li> </ul> <p>日付を指定した場合、指定した日付を起点とした検索範囲を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>の前後 1 ヶ月 年月日に指定した日付の前後 1 ヶ月</li> <li>より以前の日 年月日に指定した日付より以前の日</li> <li>より以降の日 年月日に指定した日付より以降の日</li> <li>から 日付指定のプルダウンメニューが表示され、いつまでを検索の対象日付とするかを指定できます。指定できる年月日の条件は同じです。</li> </ul> <p>☉ 指定 2010 年 01 月 01 日 から 2010 年 12 月 31 日</p> <p>最初に指定した日付より、過去の日付を指定した場合はメッセージが表示されます。</p>

#	項目名	指定規則	説明
⑯	検索範囲	⑥が検索用フォルダーの場合：任意	<p>検索対象とする範囲のフォルダーを選択します。デフォルトではすべてが選択されています。また、表示するフィールドがないフィールドタイプも表示されます。</p> <p> アイコンをクリックすると下位のフォルダーが表示され、詳細な検索範囲を指定できます。※5</p> <p>上位フォルダーを選択すると、下位フォルダーもすべて選択されます。また、上位フォルダーの選択を外すと、下位フォルダーの選択もすべて外れます。</p>
⑰	検索範囲アドレス設定	⑥が検索用フォルダーの場合：任意	<p>検索範囲をアドレスで指定する検索条件です。指定できる文字数は、256文字です。</p>

#### 注※1

仮想フォルダー画面で表示するカレントフォルダーがない場合は、最上位フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。

#### 注※2

作成する仮想フォルダーの上位が削除されている場合は、最上位フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。また、表示された画面でメッセージが表示されます。

#### 注※3

同一階層に同じ仮想フォルダー名が存在する場合は登録は行われず、[作成] ボタンクリック時の入力内容が反映された仮想フォルダー作成画面に戻ります。また、戻った画面でエラーメッセージが表示されます。

#### 注※4

キーワードを指定するときの注意事項を、次に示します。

- 一つのキーワードに指定できる文字の長さは、64文字までです。
- 一度に指定できるキーワードは10個までです。10個を超えるキーワードを指定した場合は、10個までが検索対象と判断されます。

#### 注※5

登録してあるフィールドはすべて表示されます。ここでフィールドを選択した仮想フォルダーをユーザーが検索結果の絞り込みに利用したとしても、ユーザーのアクセス権に従って検索を実行します。

## 6.4 仮想フォルダー詳細画面

仮想フォルダーの詳細画面について説明します。

仮想フォルダー詳細画面では、登録している仮想フォルダーの情報の表示、更新ができます。仮想フォルダー画面で [更新] ボタンをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 6-5 仮想フォルダー詳細画面

仮想フォルダー詳細

① 仮想フォルダー名 (30文字まで) \* 必須項目 ② 仮想フォルダー画面に戻る

仮想フォルダー作成パス システム > 更新日 ③ ④

説明 ⑤

仮想フォルダータイプ  検索用フォルダー  分類用フォルダー ⑥

上位検索条件の引き継ぎ  引き継ぐ  引き継がない ⑦

キーワード ⑧ 複数のキーワードを入れる場合はスペースで区切ってください。  
    
 すべてを含む  のいずれかを含む  を含まない

ファイル形式  指定なし  html.htm  pdf  doc, docx  xls,.xlsx  ppt, pptx

ユーザー 3件まで指定することができます。例: "日立太郎" "日立花子" など

ファイル名 例: "index" "提案資料" など

日付  指定なし  指定 2010 年 01 月 01 日 から 2010 年 12 月 31 日

検索範囲 検索範囲に含まれたい項目にチェックをつけてください。チェックされた項目は下位すべてが検索範囲になります。

- WWW(0件)
- NTFS(20件)
- RDB(10件)
- Notes(0件)
- RSS(0件)

検索範囲アドレス指定 "hitachi.co.jp" "file-server\*" などのURLのドメインやファイルサーバーのパスを入力してください。

⑨ 元に戻す ⑩ 更新

図 6-6 仮想フォルダー詳細画面 (検索条件部)

キーワード 複数のキーワードを入れる場合はスペースで区切ってください。  
    
 すべてを含む  のいずれかを含む  を含まない ⑪

ファイル形式  指定なし  html.htm  pdf  doc, docx  xls,.xlsx  ppt, pptx ⑫

ユーザー 3件まで指定することができます。例: "日立太郎" "日立花子" など ⑬

ファイル名 例: "index" "提案資料" など ⑭

日付  指定なし  指定 2013 年 09 月 01 日 の前後1ヶ月 ⑮

検索範囲 検索範囲に含まれたい項目にチェックをつけてください。チェックされた項目は下位すべてが検索範囲になります。

- WWW(0件)
- NTFS(20件)
- RDB(10件)
- Notes(0件)
- RSS(0件)

検索範囲アドレス指定 hitachi.co.jp "file-server\*" などのURLのドメインやファイルサーバーのパスを入力してください。 ⑰

仮想フォルダー詳細画面の項目を次の表に示します。

表 6-4 仮想フォルダー詳細画面の項目

#	項目名	説明
①	メッセージ欄	操作実行時のエラー，またはワーニングなどのメッセージを表示する欄です。別の操作を実行すると，表示しているメッセージはクリアされます。
②	[仮想フォルダー画面に戻る] ボタン	「更新」ボタンをクリックした仮想フォルダーをカレントフォルダーとした，仮想フォルダー画面に遷移します。 仮想フォルダー画面で表示するカレントフォルダーがない場合は，最上位フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。
③	仮想フォルダー名	仮想フォルダー名が入力されます。 指定できる文字数は，30 文字です。
④	仮想フォルダー作成パス	最上位フォルダーから「更新」ボタンをクリックした時のカレントフォルダーの上位までを半角空白+「>」区切りで表示します。
⑤	説明	仮想フォルダーに関する説明が表示します。指定できる文字数は，1024 文字です。
⑥	仮想フォルダータイプ	仮想フォルダーのタイプを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 検索用フォルダー</li> <li>• 分類用フォルダー</li> </ul>
⑦	上位検索条件の引き継ぎ	上位の仮想フォルダーの検索条件を引き継ぐのかを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 引き継ぐ</li> <li>• 引き継がない</li> </ul>
⑧	検索条件部	仮想フォルダーに設定する検索条件を入力します。 仮想フォルダータイプに「検索用フォルダー」が選択されている場合だけ表示されます。
⑨	[元に戻す] ボタン	クリックすると，仮想フォルダー詳細画面を初期表示した状態に戻します。*1
⑩	[更新] ボタン	クリックすると，仮想フォルダー詳細画面で入力した内容で仮想フォルダーを更新します。更新完了後，更新した仮想フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。*1*2
⑪	キーワード*3	次のどれか，またはすべてを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• をすべて含む 指定したすべてのキーワードを文書中に含む文書を検索対象とします。</li> <li>• のいずれかを含む 指定した複数のキーワードのうち，どれかを文書中に含む文書を検索対象とします。</li> <li>• を含まない 指定したキーワードを文書中に含まない文書を検索対象とします。</li> </ul>
⑫	ファイル形式*4	検索対象とするファイル形式を選択します。どれも選択しない場合，検索結果は 0 件となります。
⑬	ユーザー	ユーザーを 3 人まで指定して検索できます。指定できる文字数は，24 文字です。 検索対象となるユーザー名は，検索対象のファイルが持つデータにより異なります。例えば，office 文書の場合は文書のプロパティ，Groupmax 内の文書の場合は，発言者名，投稿者名などが検索の対象になります。

#	項目名	説明
⑭	ファイル名	ファイル名を指定して検索する場合に指定します。指定できる文字数は、48文字です。なお、ファイル名にタブ、および全角および半角の空白が含まれている場合は、これらの文字を無視して検索を実行します。
⑮	日付※4	検索対象とする文書を、日付を指定して絞り込む場合に選択します。
⑯	検索範囲※4	検索対象とする範囲のフォルダーを選択します。
⑰	検索範囲アドレス設定	検索範囲をアドレスで指定する検索条件です。指定できる文字数は、256文字です。

#### 注※1

更新する仮想フォルダーの上位が削除されている、または更新する仮想フォルダーが削除されている場合は、最上位フォルダーをカレントフォルダーとした仮想フォルダー画面に遷移します。また、表示された画面でエラーメッセージが表示されます。

#### 注※2

同一階層に同じ仮想フォルダー名が存在する場合、更新は行われず、仮想フォルダー詳細画面に戻ります。また、戻った画面でエラーメッセージが表示されます。

#### 注※3

キーワードを指定するときの注意事項を、次に示します。

- 一つのキーワードに指定できる文字の長さは、64文字までです。
- 一度に指定できるキーワードは10個までです。10個を超えるキーワードを指定した場合は、10個までが検索対象と判断されます。

#### 注※4

指定できる条件は、仮想フォルダー作成画面と同じです。詳細は「[6.3 仮想フォルダー作成画面](#)」を参照してください。

## 6.5 クローラーの仮想フォルダー

仮想フォルダー「クローラー」について説明します。

「クローラー」は、環境構築時に最上位仮想フォルダー「システム」の直下に作成されます。また、他の仮想フォルダー同様に削除、および更新が可能となります。

図 6-7 クローラーの仮想フォルダー



表 6-5 クローラーの仮想フォルダー項目

#	項目名	説明
①	クローラーの仮想フォルダー	仮想フォルダー情報は以下となります。 <ul style="list-style-type: none"><li>仮想フォルダー名 クローラー</li><li>仮想フォルダー作成パス システム</li><li>説明 クローラー種別の分類用フォルダーです。</li><li>仮想フォルダータイプ 分類用フォルダー</li><li>上位検索条件の引き継ぎ 引き継ぐ</li></ul>
②	クローラータイプの仮想フォルダー一覧	初期登録時は、以下のような表示順で仮想フォルダーが作成されています。 <ul style="list-style-type: none"><li>WWW</li><li>NTFS</li><li>Notes</li><li>RDB</li><li>RSS</li><li>Groupmax</li></ul> また、各仮想フォルダー情報は以下になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>仮想フォルダー名 タイプ</li><li>仮想フォルダー作成パス システム &gt; クローラー</li><li>説明</li></ul>

#	項目名	説明
②	クローラータイプの仮想フォルダ一覧	<p>「タイプ」の仮想フォルダです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>仮想フォルダタイプ 検索用フォルダ</li> <li>上位検索条件の引き継ぎ 引き継がない</li> <li>ファイル形式 指定なし</li> <li>日付 指定なし</li> <li>検索範囲 各クローラータイプを選択</li> </ul>

# 7

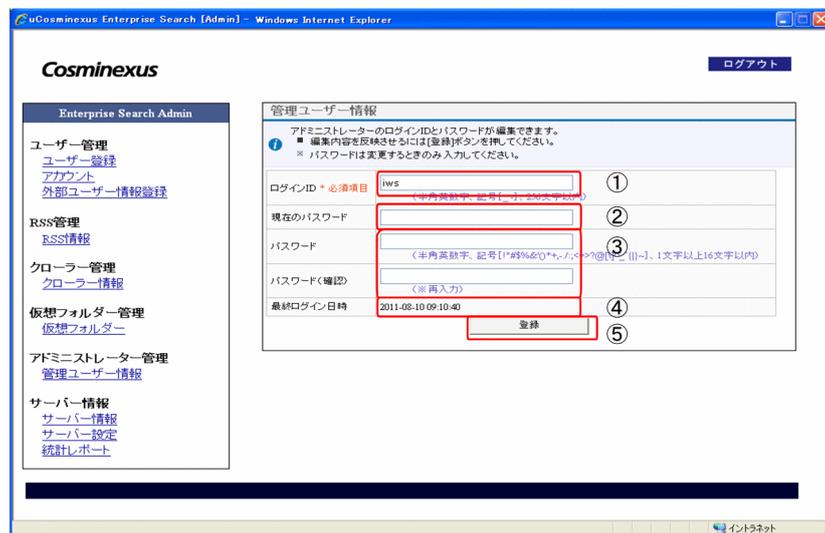
## アドミニストレーター管理

Enterprise Search を管理するアドミニストレーターの設定について説明します。

## 7.1 管理ユーザー情報

「管理ユーザー情報画面」では、アドミニストレーターのアカウント名、パスワードの参照、および変更ができます。アドミニストレーター管理の「管理ユーザー情報」リンクをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 7-1 管理ユーザー情報画面



管理ユーザー情報画面の項目を次の表に示します。

表 7-1 管理ユーザー情報画面の項目

#	項目名	指定規則	説明
①	ログイン ID*	必須	現在のログイン ID が表示されます。変更する場合は、新しいログイン ID を 1~256 文字以内で入力します。 使用できる文字は半角英数字、- (半角ハイフン)、_ (半角アンダースコア) の記号です。
②	現在のパスワード	任意	パスワードを変更する場合に、現在のパスワードを入力します。
③	パスワード/パスワード (確認)	任意	パスワードを変更する場合に、新しいパスワードを 1~16 文字以内で入力します。使用できる文字は半角英数字、および次の記号です。 [ ! " # \$ % & ' ( ) * + , - / : ; < = > ? @ [ ¥ ] ^ _ ` {   } ~ ]
④	最終ログイン日時	-	アドミニストレーターが、最後にログインした日時を表示します。
⑤	[登録] ボタン	-	クリックすると、設定した内容で更新されます。

### 注※

アドミニストレーターを複数登録することはできません。

アドミニストレーターのログイン ID は、管理ユーザー情報画面で表示される 1 種類のみです。

アドミニストレーターのログイン ID は、大文字・小文字を区別します。このため、同じ文字列の場合で大文字・小文字のみを変更する場合（例えば「HITACHI」と「hitachi」）でも、更新後のログイン ID は異なります。

# 8

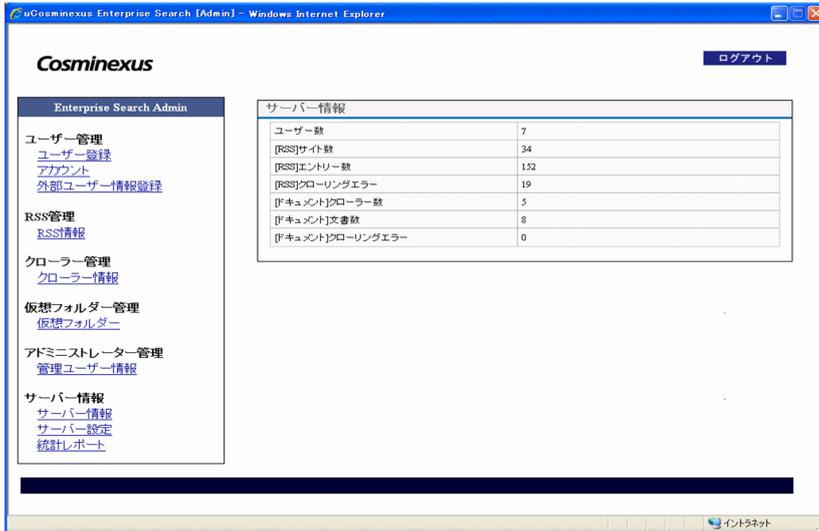
## サーバー情報

サーバー情報の確認方法，サーバーの設定方法について説明します。

## 8.1 サーバー情報

サーバー情報では Enterprise Search のサーバーの情報を参照できます。[サーバー情報] リンクをクリックすると次の画面が表示されます。

図 8-1 サーバー情報画面



- ユーザー数  
Enterprise Search に登録しているユーザー数を表示します。
- [RSS]サイト数  
Enterprise Search に登録しているサイト数を表示します。
- [RSS]エントリー数  
Enterprise Search に登録しているサイトのエントリー数を表示します。
- [RSS]クローリングエラー  
クローリングエラーのサイト数を表示します。
- [ドキュメント]クローラー数  
Enterprise Search に登録している RSS クローラー以外のクローラー数を表示します。
- [ドキュメント]文書数  
Enterprise Search に登録している RSS フィード以外のエントリー数を表示します。
- [ドキュメント]クローリングエラー  
RSS フィード以外でクローリングエラーのフィード数を表示します。

## 8.2 サーバー設定

サーバー設定では、Enterprise Search のサーバーに関する項目を設定できます。設定できる内容と参照先について、次の表に示します。

表 8-1 サーバー設定で設定できる項目

#	設定項目	説明	参照先
1	Enterprise Search のユーザー認証の設定	Enterprise Search でのユーザーの認証要否と、認証方式を設定します。次の指定ができます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ユーザーの認証要否 必要、任意、不要のどれかを選びます。</li><li>• ユーザーの認証方式<ul style="list-style-type: none"><li>・独自方式：Enterprise Search のユーザー情報を使用します。</li><li>・LDAP 認証：LDAP、または Active Directory のユーザー情報を使用します。</li></ul></li></ul>	8.2.1(1), (2)
2	LDAP タイプの指定	1 で LDAP 認証を指定した場合に、LDAP タイプを選びます。次のどちらかを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>• LDAP</li><li>• Active Directory</li></ul>	8.2.1(3)
3	Active Directory ユーザー管理オプションの設定	2 で Active Directory を指定した場合で、Active Directory ユーザー管理オプションを使用するときに、設定します。	8.2.1(4)
4	検索結果画面に表示する HIT 件数の設定	ユーザーの検索結果画面に表示する HIT 件数を設定します。	8.2.2
5	サジェスト機能に関する設定	サジェスト機能を使用する場合に、サーバーから読み込むサジェスト候補の数や、検索画面に表示するサジェスト候補の数を設定します。	8.2.2
6	Enterprise Search から Groupmax 内の文書を検索する設定	Enterprise Search から Groupmax 内の文書を検索する場合に設定します。 Groupmax 統合検索ポートレットから、Enterprise Search 内を検索する場合は、ここでの設定は必要ありません。	8.2.3
7	Groupmax 統合検索ポートレットの認証の設定	Groupmax 統合検索ポートレットを使用する場合の認証方式を設定します。「独自で認証する」を選びます。 Enterprise Search から Groupmax 内の文書を検索する場合は、ここでの設定は必要ありません。	8.2.4
8	多機能検索に関する設定	多機能検索画面に表示する機能を設定します。	8.2.5

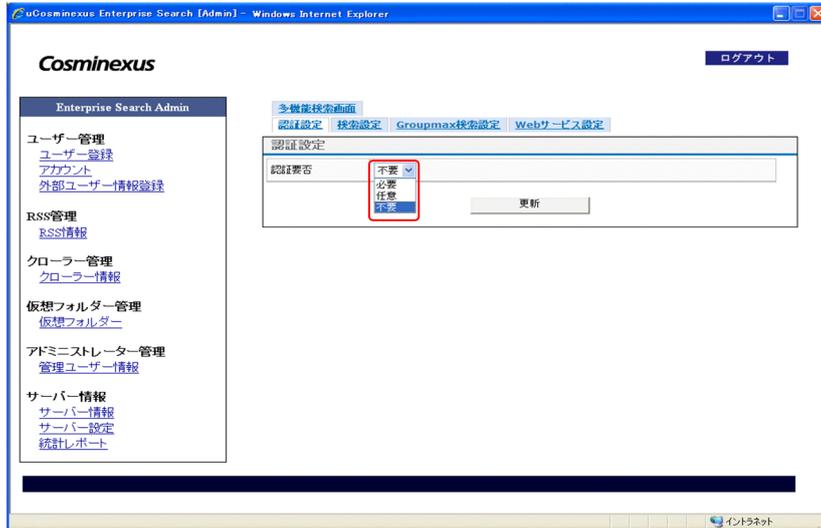
### 8.2.1 認証設定

認証設定では、ユーザー認証に関する項目を設定できます。

## (1) 認証要否の指定

[認証設定] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。検索画面、および Web サービスで認証が必要かどうかを、プルダウンメニューから指定します。

図 8-2 認証設定 (認証要否)



設定する項目を次の表に示します。

表 8-2 認証要否の設定項目

項目	説明	デフォルト値
認証要否※	<ul style="list-style-type: none"><li>必要 ユーザーが未認証でログイン画面以外を表示しようとする時、ログイン画面が表示されます。</li><li>任意 ユーザーが未認証でログイン画面を表示しようとする時、ログイン画面が表示されます。ログイン画面以外を表示しようとした場合は、該当する画面を表示します。</li><li>不要 ユーザーが未認証でログイン画面を表示しようとする時、ホーム画面（初期画面、検索結果画面など）が表示されます。ログイン画面以外を表示しようとした場合は、該当する画面を表示します。</li></ul>	必要

注※

- 認証要否の設定はアドミニストレーター画面には反映されません。
- Groupmax クローラーで収集した内容を検索する場合は、認証要否の設定に「必須」、または「任意」を指定してください。

認証要否に [不要] を指定した場合は [更新] ボタンをクリックして、認証設定を終了します。[必要]、または [任意] を指定した場合は、認証方法の設定項目が表示されます。

## ポイント

認証可否の設定は、次のような運用を想定して指定してください。

- 必要

特定のユーザーが利用する場合で、ユーザーのアクセス権に応じたデータの検索結果を提供するシステムするとき

例：社員向けの全社ファイルサーバー

- 任意

アクセス権を設定されているデータと設定されていないデータが混在している場合で、特定のユーザーはアクセス権を設定されていないデータとユーザーのアクセス権に応じたデータを検索し、不特定のユーザーはアクセス権を設定されていないデータだけを検索するとき

例：大学で教授（特定のユーザー）だけが参照できる文書と、教授と学生（不特定のユーザー）の両方が参照できる大学のイントラネットを一括で検索するシステム

- 不要

アクセス権を設定されていないデータだけが登録されている場合で、不特定多数のユーザーが検索するシステムするとき

例：一般 Web サイトの検索、公的な文書を対象とした検索など

認証方法の設定により、アクセス権を反映した検索の対象となる文書は異なります。認証方法の設定と検索結果に表示される文書の関係について、次の表に示します。

表 8-3 認証方法の設定と検索結果に表示される文書

認証可否	認証方式*	検索対象にアクセス権を設定された文書が含まれる場合の検索結果	検索対象にアクセス権を設定された文書が含まれない場合の検索結果
不要	—	アクセス権を設定されていない文書	すべての文書
必要/任意	<ul style="list-style-type: none"><li>• 独自認証</li><li>• LDAP 認証</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• アクセス権を設定されていない文書</li><li>• Enterprise Search ユーザーに関連付けられたアクセス権で参照できる文書</li></ul>	すべての文書

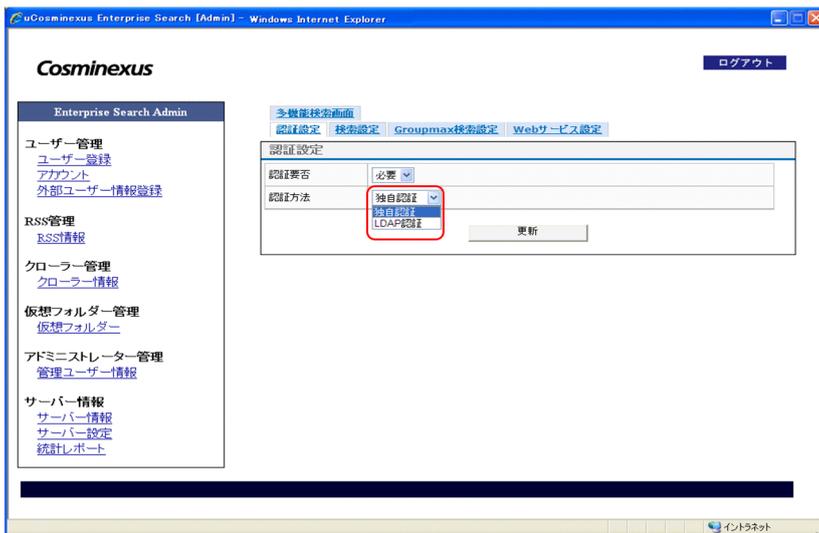
注※

認証方式については、「7.2.1(2) 認証方式の設定」を参照してください。

## (2) 認証方式の設定

認証可否に [必要]、または [任意] を指定した場合は、認証方式をプルダウンメニューから指定します。なお、指定した認証方式によりアクセス権を対象とした検索の結果が異なります。

## 図 8-3 認証設定 (認証方法)



設定する項目を次の表に示します。

表 8-4 認証方法の設定方法

項目	説明	デフォルト値
認証方法	<ul style="list-style-type: none"><li>独自認証 Enterprise Search のユーザー情報を使用する場合に指定します。</li><li>LDAP 認証 LDAP 認証を使用する場合に指定します。</li></ul>	独自認証

[独自認証] を指定した場合は [更新] ボタンをクリックして、認証設定を終了します。

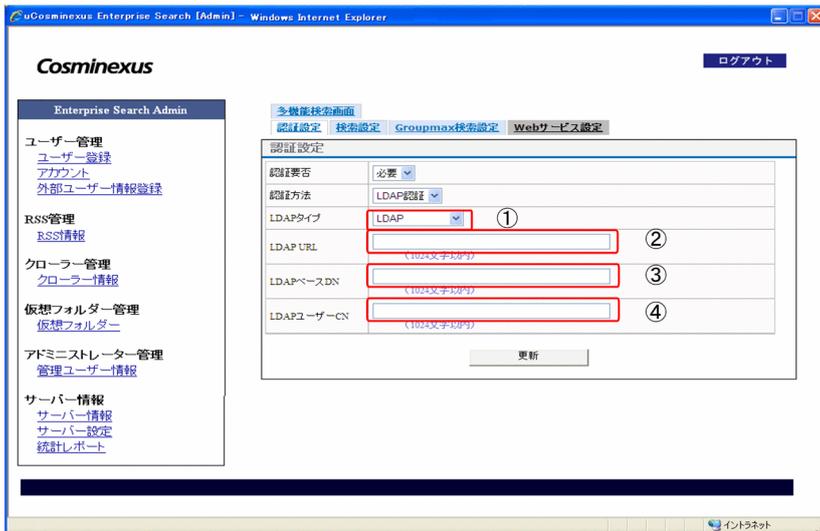
### (3) LDAP 認証の設定

認証方式で [LDAP 認証] を指定した場合は、LDAP タイプの設定項目が表示されます。次のどちらかの LDAP タイプを指定します。

- LDAP : LDAP タイプが LDAP の場合に指定します。デフォルトの設定です。
- Active Directory : LDAP タイプが Active Directory の場合に指定します。

LDAP 認証で LDAP タイプに LDAP を指定した場合は、次の画面が表示されます。

図 8-4 認証設定 (LDAP 認証で LDAP タイプが LDAP)



設定する項目を次の表に示します。

表 8-5 認証設定 (LDAP 認証で LDAP タイプが LDAP)

#	項目	説明	入力できる文字数
①	LDAP タイプ	LDAP を指定します。	—
②	LDAP URL	認証する LDAP の URL を指定します。 指定例：ldap://localhost:1389	1,024 文字以内
③	LDAP ベース DN	認証する LDAP のベース DN を指定します。	1,024 文字以内
④	ユーザー CN	認証に使用するユーザー ID が格納されている CN 名を指定します。	1,024 文字以内

LDAP 認証で LDAP タイプに LDAP を指定した場合は、[更新] ボタンをクリックして、認証設定を終了します。

LDAP 認証で LDAP タイプに Active Directory を指定した場合は、次の画面が表示されます。

## 図 8-5 認証サービス設定 (LDAP 認証で LDAP タイプが Active Directory)



設定する項目を次の表に示します。

表 8-6 認証設定 (LDAP 認証で LDAP タイプが Active Directory)

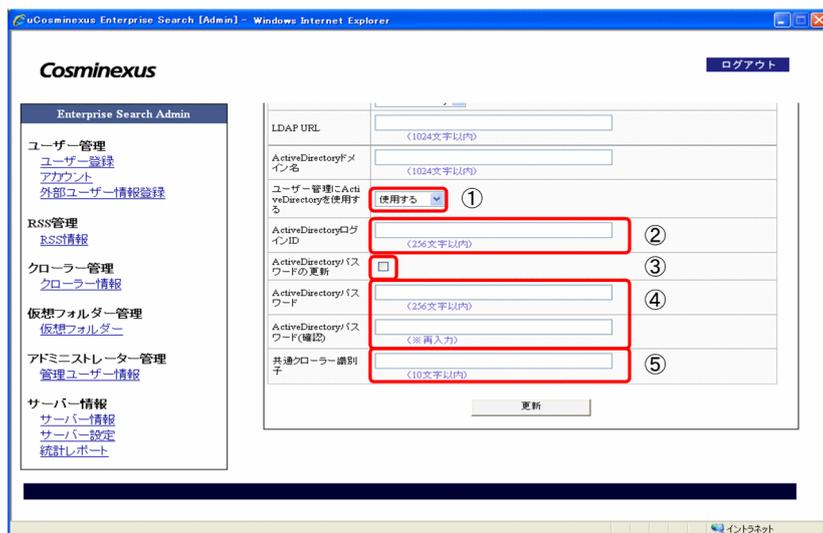
#	項目	説明	入力できる文字数
①	LDAP タイプ	Active Directory を指定します。	—
②	LDAP URL	認証する LDAP の URL を指定します。指定例を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• ldap://localhost:1389</li> </ul>	1,024 文字以内
③	Active Directory ドメイン名	認証する Active Directory のドメイン名を指定します。	1,024 文字以内
④	ユーザー管理に Active Directory を使用する	Active Directory ユーザー管理オプションです。 Enterprise Search のユーザー認証を使用しないで、ユーザー管理を Active Directory に任せる場合に指定します。 次のどちらかを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 使用する：Active Directory ユーザー管理オプションを使用します。デフォルトの設定です。Enterprise Search 上の動作が変更になります。</li> <li>• 使用しない：Active Directory ユーザー管理オプションを使用しません。</li> </ul>	—

Active Directory ユーザー管理オプションで「使用しない」を指定した場合は、[更新] ボタンをクリックして、認証設定を終了します。

### (4) Active Directory ユーザー管理オプションの設定

LDAP 認証に Active Directory を指定した場合で、Active Directory ユーザー管理オプションを「使用する」設定としたときは、次の画面が表示されます。

## 図 8-6 Active Directory ユーザー管理オプション



設定する項目を次の表に示します。

表 8-7 Active Directory ユーザー管理オプション

#	項目	説明	入力できる文字数
①	ユーザー管理に Active Directory を使用する	[使用する] を指定します。	—
②	Active Directory ログイン ID	ログインユーザーのアクセス権情報を取得するために、Active Directory にアクセスするユーザーのログイン ID を指定します。接続先の Active Directory で、ユーザー情報を抽出できる権限を持つユーザーのログイン ID を指定してください。 なお、指定時にドメイン名は不要です。ログイン ID だけを指定します。ログイン ID の指定がない場合、ログイン時にエラーとなります。	256 文字以内
③	Active Directory パスワードの更新	②で指定したユーザーのパスワードを設定する場合、および更新する場合に、チェックボックスを選択します。 選択していない場合、[更新] ボタンをクリックしても入力したパスワードは更新されません。	—
④	Active Directory パスワード/ Active Directory パスワード (確認)	[Active Directory ログイン ID] で指定したログインユーザーのパスワードを指定します。パスワードの指定がない場合、ログイン時にエラーとなります。	256 文字以内
⑤	共通クローラー識別子 ※6	ログインユーザーのアクセス権情報を取得するために使用する、共通クローラー識別子を指定します。 指定できる共通クローラー識別子は一つだけです。	—

## 注意事項

Active Directory ユーザー管理オプションを使用する場合の Enterprise Search の動作について説明します。

- NTFS クローラーで収集した文書に対して、アクセス権を反映した検索ができます。また、アクセス権が設定されていない文書の検索もできます。  
なお、Active Directory ユーザー管理オプションでは、一つの Active Directory で管理されたユーザー情報に対応しています。このため、異なる共通クローラー識別子を持つ複数の NTFS クローラーが収集した文書を、同時に検索対象とすることはできません。
- Groupmax 上のユーザー名と、Active Directory 上のユーザー名を一致させている場合は、Groupmax クローラーで収集した文書に対して、アクセス権を反映した検索ができます。
- Notes クローラーで収集した文書に対して、アクセス権を反映した検索はできなくなります。
- 管理画面のユーザー管理での操作は、画面上では動作しますが利用はできません。
- ユーザー情報一括登録コマンド、外部ユーザー情報のコマンドの実行はできますが、実行結果の利用はできません。
- 検索画面の設定画面は表示されません。

## 注意事項

Active Directory ユーザー管理オプションの設定を「使用しない」から「使用する」に切り替えた場合の注意事項を次に示します。

- Enterprise Search 上で登録済みのユーザーのうち、Active Directory 上に存在しないユーザーは、Enterprise Search にログインできなくなります。
- Enterprise Search に登録された外部ユーザー情報、およびユーザーと外部ユーザー情報の関連付けの設定が無効となります。  
Active Directory 上でのユーザー、または所属するグループのアクセス権を使用して検索を行うため、Enterprise Search 上のユーザー情報と Active Directory のユーザー情報が一致していない場合は、検索結果が異なる場合があります。

## 注意事項

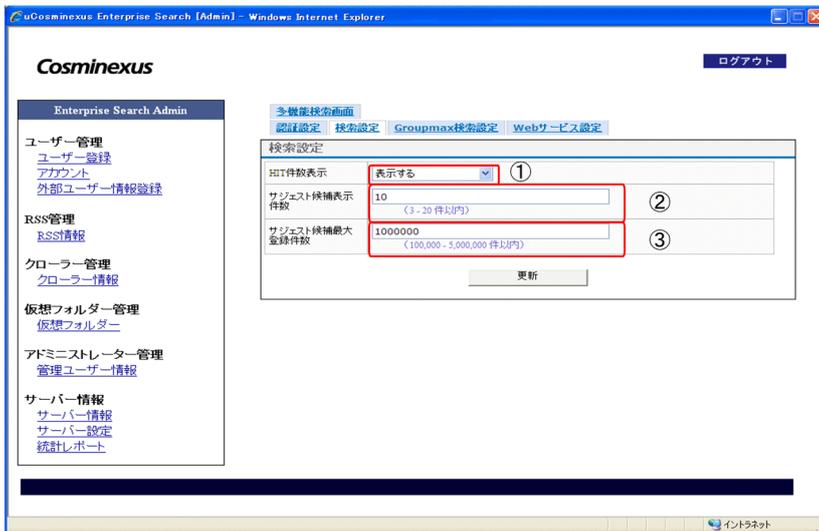
Active Directory ユーザー管理オプションの設定を「使用する」から「使用しない」に切り替えた場合の注意事項を次に示します。

- Enterprise Search 上にユーザーを作成していない場合、ログインできなくなります。
- アクセス権を反映した検索を行うためには、ユーザー認証情報を取り込む必要があります。詳細については「[1.2 外部システムのアクセス権連携](#)」を参照してください。

## 8.2.2 検索設定

検索設定では、検索結果画面に関する項目を設定できます。[検索設定] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 8-7 検索設定



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-8 検索設定の設定項目

#	項目	説明	デフォルト値
①	HIT 件数表示	HIT 件数を検索結果に表示するかどうかをプルダウンメニューから指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>表示する HIT したすべての件数を表示します。</li><li>10,000 件まで表示する 10,000 件までの HIT 件数はすべて表示します。10,000 件を越える HIT 件数は、10,000 件以上と表示されます。</li></ul>	表示する
②	サジェスト候補表示件数	サジェスト候補の表示時にサーバーから取得する候補の数を、3~20 の範囲で指定します。	10
③	サジェスト候補最大登録件数	サーバーを初期化した場合に、キーワード候補ファイルから読み込む候補の数の最大数を 100,000~5,000,000 の範囲で指定します。	1,000,000

## 8.2.3 Groupmax 検索設定

Groupmax 検索設定は、Enterprise Search 内で Groupmax 内の検索結果を表示する場合に設定します。[Groupmax 検索設定] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

## 図 8-8 Groupmax 検索設定



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-9 Groupmax 検索設定の設定項目

#	項目	説明	入力できる文字数
①	Collaboration Web Service URL	Groupmax の Web サービスを利用して、アクセス権情報を反映した検索結果を表示する場合に、アクセス権情報取得サービスの呼び出し用 URL を指定します。 URL を次に示します。 http://ホスト名 <sup>※1</sup> /ClbSoapApp <sup>※2</sup> /services/ClbInformationProviderService	2,048 文字以内
②	ログイン ID <sup>※3</sup>	アクセス権情報取得サービスへログインするログイン ID を指定します。	256 文字以内
③	パスワードの更新	パスワードを更新する場合に、チェックボックスを選択します。選択していない場合、[更新] ボタンをクリックしても入力したパスワードは更新されません。	—
④	パスワード/ パスワード (確認) <sup>※3</sup>	アクセス権情報取得サービスへログインするログイン ID のパスワードを更新する場合に、新しいパスワードを入力します。	—

### 注※1

アクセス権情報取得 Web サービスをセットアップしたホスト名を指定します。

### 注※2

アクセス権情報取得 Web サービスをセットアップした際に指定したアプリケーション名を指定します。

### 注※3

Groupmax の「Web サービスプロパティファイル」に指定したユーザー ID とパスワードを指定してください。Web サービスプロパティファイルの詳細については、マニュアル「Collaboration- Forum

システム管理者ガイド」, および「Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド」を参照してください。

## 8.2.4 Web サービス設定

Web サービス設定では、Web サービスの認証に関する項目を設定できます。[Web サービス設定] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。Web サービスの認証方法を、プルダウンメニューから指定します。

図 8-9 Web サービス設定 (ユーザー認証を利用する)

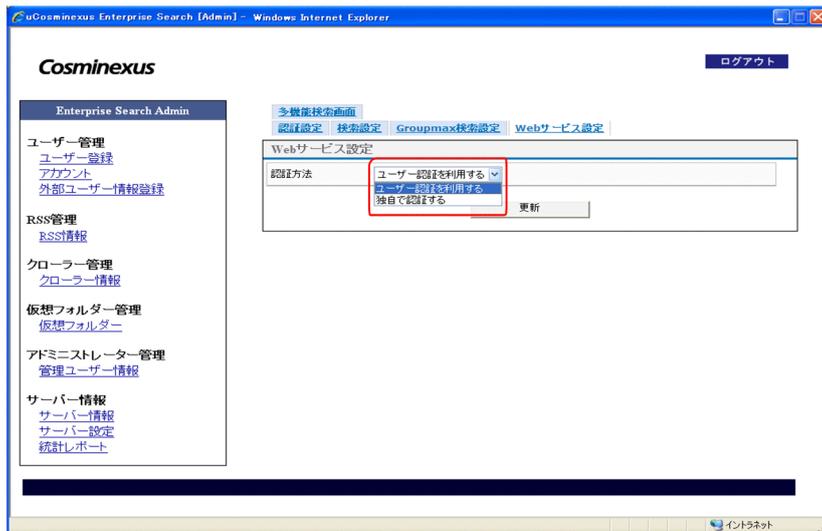


表 8-10 Web サービス設定 (認証方法)

項目	説明	デフォルト値
認証方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー認証を利用する 認証設定で設定したユーザー認証を利用します。</li> <li>独自で認証する ユーザー ID とパスワードを利用して認証します。</li> </ul>	ユーザー認証を利用する

認証設定で設定したユーザー認証を利用する場合は、[ユーザー認証を利用する] を選択します。[更新] ボタンをクリックして、Web サービス設定を終了します。

### 注意事項

Groupmax 統合検索ポータルレットを使用する場合は、[独自で認証する] を選択します。また、ここで設定したユーザー ID とパスワードと同じ値を uCosminexus Portalframework の Portal Manager のプロパティ値、uces.groupmaxsearch.userid と uces.groupmaxsearch.password に設定する必要があります。詳細についてはマニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。

[独自で認証する] を選択すると、次の画面が表示されます。

## 図 8-10 Web サービス設定 (独自で認証する)



設定する項目を次の表に示します。

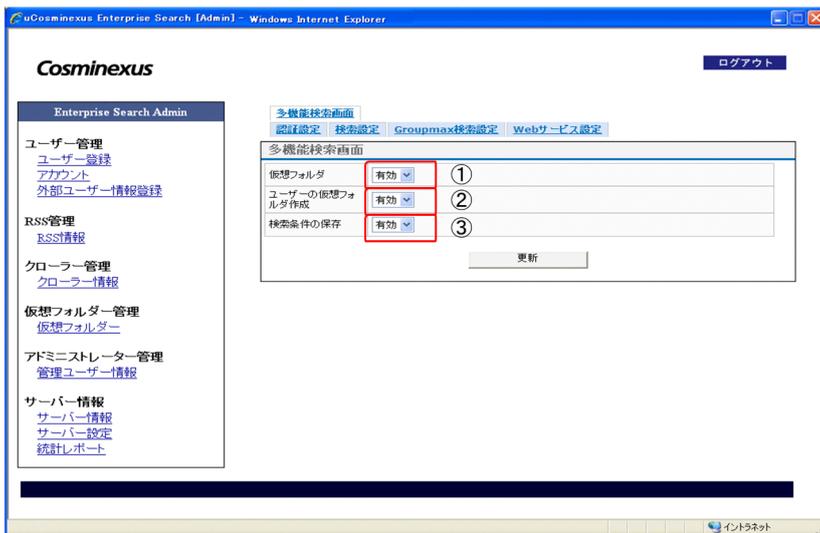
表 8-11 Web サービス設定の設定項目

#	項目	説明	入力できる文字数
①	ユーザー ID	独自認証で使用するユーザーのユーザー ID を指定します。	半角英数字 256 文字
②	パスワードの更新	パスワードを更新する場合に、チェックボックスを選択します。選択していない場合、[更新] ボタンをクリックしても入力したパスワードは更新されません。	—
③	パスワード/ パスワード (確認)	独自認証で使用するユーザーのパスワードを更新する場合に、新しいパスワードを入力します。	半角英数字 256 文字

## 8.2.5 多機能検索画面設定

多機能検索画面設定では、多機能検索画面に関する項目を設定できます。[多機能検索画面設定] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

## 図 8-11 多機能検索画面設定



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-12 多機能検索画面設定の設定項目

#	項目	説明	デフォルト値
①	仮想フォルダ	仮想フォルダ機能を使用するかどうかをプルダウンメニューから指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効 仮想フォルダ機能を使用します。</li> <li>無効 仮想フォルダ機能を使用しません。</li> </ul>	有効
②	ユーザーの仮想フォルダ作成*	仮想フォルダ機能を使用する場合に、ユーザーが仮想フォルダを作成できるかどうかをプルダウンメニューから指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効 ユーザーが仮想フォルダを作成できます。</li> <li>無効 ユーザーは仮想フォルダを作成できません。</li> </ul>	有効
③	検索条件の保存	検索条件保存機能を使用するかどうかをプルダウンメニューから指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>有効 検索条件保存機能を使用します。</li> <li>無効 検索条件保存機能を使用しません。</li> </ul>	有効

注※

「仮想フォルダ」の設定項目で「有効」が指定されているときだけ表示されます。

## 8.3 統計情報

統計情報とは、Enterprise Search の運用中の各種統計情報データを集計し、表やグラフで表示する機能です。次のデータを統計情報として画面に表示します。

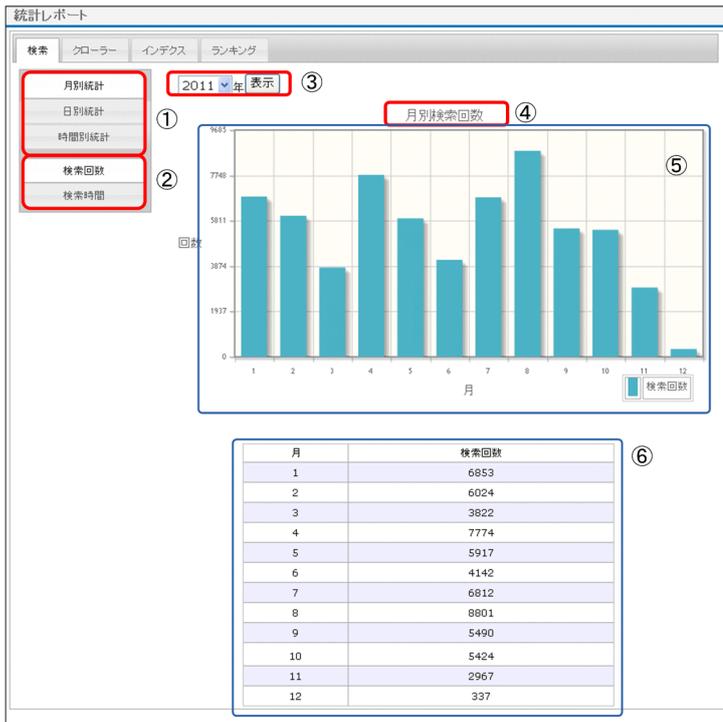
表 8-13 表示する統計情報

#	統計種別	説明	参照先
1	検索	次の検索情報をグラフと表で表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>検索回数 月別/日別/時間別（1 時間単位）の検索回数を表示します。</li><li>検索実行時間 月別/日別/時間別（1 時間単位）の検索リクエストの平均実行時間を表示します。</li></ul>	8.3.1
2	クロールデータ件数	月別/日別/時間別（1 時間単位）のクロールしたデータ件数の推移をクローラーごと、クローラー種別ごと、またはすべてのクローラー種別の合計で、グラフと表に表示します。	8.3.2
3	検索インデクス作成状況	月別/日別/時間別（1 時間単位）の検索インデクス作成状況として、次の内容をグラフと表に表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>クロールデータ件数</li><li>登録データ件数</li><li>インデクス作成状況</li></ul>	8.3.3
4	ランキング	次の統計情報のランキングを表で表示します。 <ul style="list-style-type: none"><li>0 件 HIT のキーワード一覧 検索結果が 0 件だったキーワードを、検索回数が多い順にランキングで表示します。</li><li>よく検索されるキーワード よく検索されているキーワードのランキングの上位 100 件を表示します。</li><li>よく参照されるコンテンツ よく参照されているコンテンツのランキングの上位 100 件を表示します。</li></ul>	8.3.4

### 8.3.1 検索統計画面

検索統計では、検索回数と検索時間の統計情報を確認できます。[検索] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 8-12 検索統計



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-14 検索統計の設定項目

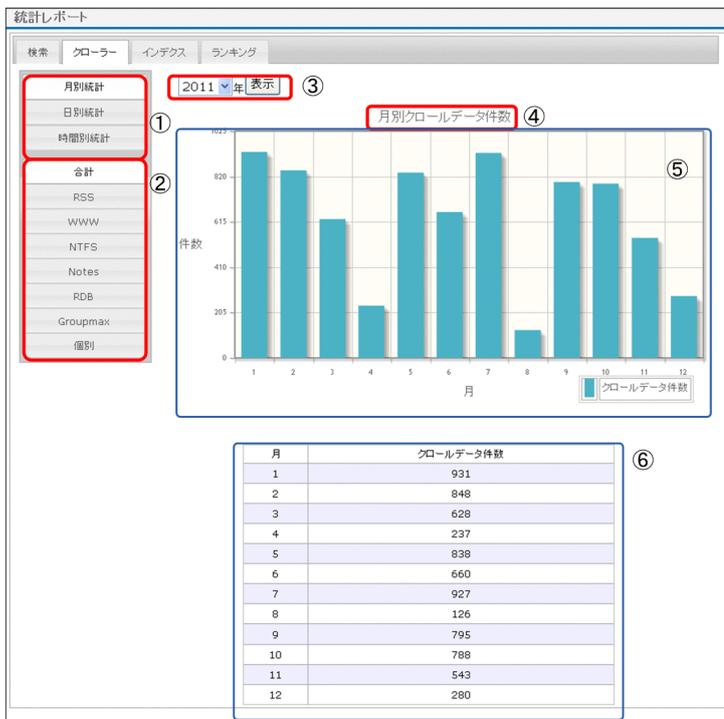
#	項目	説明	デフォルト
①	統計情報区分	画面に表示する統計情報の区分を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>月別統計：③で指定した年の1～12月の統計を表示します。</li> <li>日別統計：③で指定した年月の1日～月末日までの統計を表示します。</li> <li>時間別統計：③で指定した年月日の0時～23時の統計を表示します。</li> </ul>	月別統計
②	統計情報の対象	画面に表示する統計情報の対象を選択します。対象を選択すると、指定された統計情報をグラフと表に表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>検索回数：検索が実行された回数を、①で指定した区分ごとに表示します。</li> <li>検索時間：検索実行時間の平均値を、①で指定した区分ごとに表示します。</li> </ul>	検索回数
③	対象日時の選択	画面に表示する統計情報の対象年月日を、プルダウンメニューで選択します。[表示] ボタンをクリックすると、選択した年月日で画面を更新します。①で選択した統計情報区分に応じて、選択できる日時情報の範囲は異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①で月別統計を選択した場合：年表示時の年から過去10年を選択できます。</li> <li>①で日別統計を選択した場合：年/月月には1～12を選択できます。</li> </ul>	サーバーの年月日データを取得して表示します。

#	項目	説明	デフォルト
③	対象日時の選択	<ul style="list-style-type: none"> <li>①で時間別統計を選択した場合：年/月/日 月と年に応じた日付を選択できます。</li> </ul> 年月日の指定結果が存在しない日付となった場合は、正しい日付に修正して表示されます。例えば、4月31日と指定した場合は、4月30日に修正します。	サーバーの年月日データを取得して表示します。
④	グラフタイトル	①と②の指定の組み合わせにより、次のタイトルが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①/月別統計, ②/検索回数を指定：月別検索回数</li> <li>①/月別統計, ②/検索時間を指定：月別平均検索時間</li> <li>①/日別統計, ②/検索回数を指定：日別検索回数</li> <li>①/日別統計, ②/検索時間を指定：日別平均検索時間</li> <li>①/時間別統計, ②/検索回数を指定：時間別検索回数</li> <li>①/時間別統計, ②/検索時間を指定：時間別平均検索時間</li> </ul>	—
⑤	グラフ	指定した区分と対象に応じたグラフを表示します。	—
⑥	表	指定した区分と対象に応じた表を表示します。	—

## 8.3.2 クローラー統計画面

クローラー統計では、クローリングしたデータの統計情報を確認できます。[クローラー統計] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 8-13 クローラー統計



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-15 クローラー統計の設定項目

#	項目	説明	デフォルト
①	統計情報区分	画面に表示する統計情報の区分を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>月別統計：③で指定した年の1～12月の統計を表示します。</li> <li>日別統計：③で指定した年月の1日～月末日までの統計を表示します。</li> <li>時間別統計：③で指定した年月日の0時～23時の統計を表示します。</li> </ul>	月別統計
②	クローラー種別	統計情報を表示するクローラー種別、またはクローラーをプルダウンメニューで選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>合計：すべてのクローラー種別の合計件数です。</li> <li>RSS：RSS クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>WWW：WWW クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>NTFS：NTFS クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>Notes：Notes クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>RDB：RDB クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>Groupmax：Groupmax クローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>個別※：クローラーのプルダウンメニューで選択したクローラーで集めたデータの合計件数です。</li> <li>クローラーのプルダウンメニュー※：RSS クローラー以外のすべての定義済みクローラーが表示されます。</li> </ul>	—
③	対象日時の選択	画面に表示する統計情報の対象年月日を、プルダウンメニューで選択します。[表示] ボタンをクリックすると、選択した年月日で画面を更新します。①で選択した統計情報区分に応じて、選択できる日時情報の範囲は異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①で月別統計を選択した場合：年 表示時の年から過去10年を選択できます。</li> <li>①で日別統計を選択した場合：年/月 月には1～12を選択できます。</li> <li>①で時間別統計を選択した場合：年/月/日 月と年に応じた日付を選択できます。</li> </ul> <p>年月日の指定結果が存在しない日付となった場合は、正しい日付に修正して表示されます。例えば、4月31日と指定した場合は、4月30日に修正します。</p>	サーバーの年月日データを取得して表示します。
④	グラフタイトル	グラフのタイトルを、次の形式で表示します。 [統計情報区分] 別 [クローラー種別] [クローラーデータ件数] クローラー種別が「合計」の場合は、クローラー種別の表示はされません。	—
⑤	グラフ	指定した区分と対象に応じたグラフを表示します。	—
⑥	表	指定した区分と対象に応じた表を表示します。	—

注※

システム管理者の設定により、表示されない場合があります。

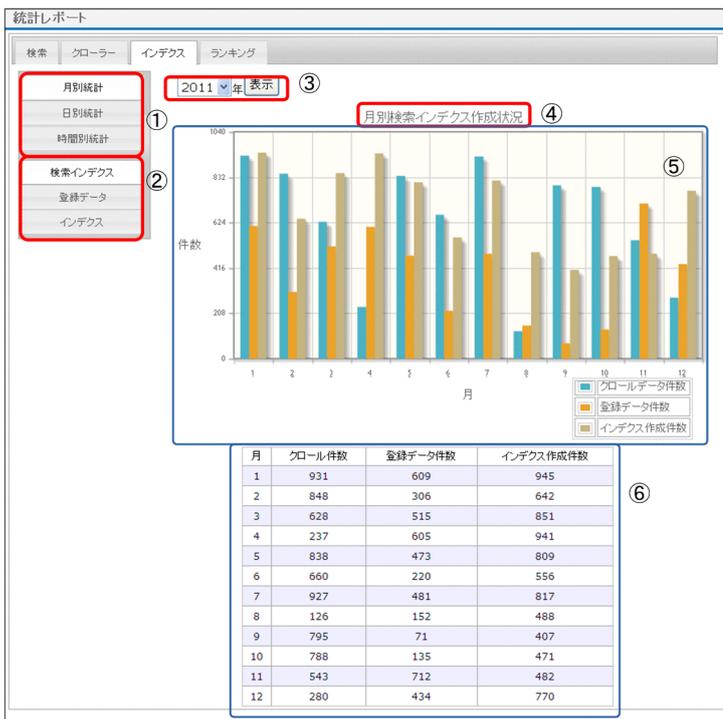
## 注意事項

- クローラー統計情報は1時間ごとにコマンドで取得します。グラフ、および表に表示する月別/日別の統計情報の各月/各日の値は、対象月/対象日の統計データの平均値となります。統計データを取得していない時間がある場合はその時間は無視して、取得済みの統計データの平均値を使用します。  
コマンドの詳細については「9.5.2 クロール統計情報取得コマンド」を参照してください。
- 統計情報を取得していない月、または日のデータは0となります。

### 8.3.3 検索インデクス統計画面

検索インデクス統計では、クローリングしたデータ件数、登録データ件数、検索インデクス作成件数の統計情報を確認できます。[検索インデクス統計] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 8-14 検索インデクス統計



設定できる項目を次の表に示します。

表 8-16 検索インデクス統計の設定項目

#	項目	説明	デフォルト
①	統計情報区分	画面に表示する統計情報の区分を選択します。	月別統計

#	項目	説明	デフォルト
①	統計情報区分	<ul style="list-style-type: none"> <li>月別統計：③で指定した年の1～12月の統計を表示します。</li> <li>日別統計：③で指定した年月の1日～月末日までの統計を表示します。</li> <li>時間別統計：③で指定した年月日の0時～23時の統計を表示します。</li> </ul>	月別統計
②	グラフ種別	<p>グラフに表示する種別を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クロールデータ <ul style="list-style-type: none"> <li>①で指定した区分ごとのクロール件数、登録データ件数、インデクス作成件数のデータを、1グループとして表示します。</li> <li>それぞれのデータは、コマンドでの統計情報取得時に登録済みの件数です。コマンド実行時に未登録のクロール件数、登録データ件数、検索インデクスへの未反映件数は、画面に表示されません。</li> </ul> </li> <li>登録データ <ul style="list-style-type: none"> <li>全文検索データ連携のコマンドで登録済みの件数と、登録予定の件数を表示します。登録予定件数とは、文書収集情報管理でEnterprise Searchが登録予定と判定している件数です。</li> </ul> </li> <li>検索インデクス※ <ul style="list-style-type: none"> <li>検索インデクスの作成件数と未作成件数を表示します。</li> <li>作成件数とは、HiRDB XML Extensionのphjidxlsコマンドの「登録XMLデータ数」です。未作成件数とは、phjidxlsコマンドの「インデクス未登録XMLデータ数」です。</li> <li>どちらの場合も、複数サーバーのときは合計件数を表示します。</li> </ul> </li> </ul>	—
③	対象日時の選択	<p>画面に表示する統計情報の対象年月日を、プルダウンメニューで選択します。[表示] ボタンをクリックすると、選択した年月日で画面を更新します。①で選択した統計情報区分に応じて、選択できる日時情報の範囲は異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①で月別統計を選択した場合：年 表示時の年から過去10年を選択できます。</li> <li>①で日別統計を選択した場合：年/月 月には1～12を選択できます。</li> <li>①で時間別統計を選択した場合：年/月/日 月と年に応じた日付を選択できます。</li> </ul> <p>年月日の指定結果が存在しない日付となった場合は、正しい日付に修正して表示されます。例えば、4月31日と指定した場合は、4月30日に修正します。</p>	サーバーの年月日データを取得して表示します。
④	グラフタイトル	<p>グラフのタイトルを、次の形式で表示します。</p> <p>[統計情報区分] 別 [グラフ種別]</p> <p>グラフ種別の指定により、次のタイトルが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>検索インデクス：検索インデクス作成状況</li> </ul>	—

#	項目	説明	デフォルト
④	グラフタイトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>登録データ：登録データ件数</li> <li>インデクス：インデクス作成件数</li> </ul>	—
⑤	グラフ	指定した区分と対象に応じたグラフを表示します。	—
⑥	表	指定した区分と対象に応じた表を表示します。	—

## 注※

HiRDB XML Extension の検索インデクスのカウント方式により、検索インデクス統計画面を表示した時点でのインデクス作成件数とインデクス未作成件数を足した件数が、同一時間時点での Enterprise Search への登録済み件数と等しくない場合があります。

### 注意事項

- クローラー統計情報は1時間ごとにコマンドで取得します。グラフ、および表に表示する月別/日別の統計情報の各月/各日の値は、対象月/対象日の統計データの平均値となります。統計データを取得していない時間がある場合はその時間は無視して、取得済みの統計データの平均値を使用します。  
コマンドの詳細については「9.5.4 検索インデクス統計情報取得コマンド」を参照してください。
- 統計情報を取得していない月、または日のデータは0となります。

## 8.3.4 ランキング画面

ランキングでは、検索やコンテンツの参照などに関するランキング情報を確認できます。[検索インデクス統計] タブをクリックすると、次の画面が表示されます。

図 8-15 ランキング

順位	キーワード	検索回数	HIT件数
1	日立	500	110
2	パソコン	487	482
3	イベント	421	88
4	PC	365	98
5	夏休み	362	432
6	option	288	37
7	ソフト	273	9
8	ツール	223	19
9	ネットワーク	204	172
10	エレベータ	182	140
11	hitachi	100	100
12	補助	99	33
13	テーブル	82	1
14	天気	82	10
15	検査	32	5
16	hitachi-solutions	30	5
17	システム	23	87
18	立	20	123
19	ランキング	15	1
20	日程	13	100

設定できる項目を次の表に示します。

表 8-17 ランキングの設定項目

#	項目	説明	デフォルト
①	ランキング	画面に表示するランキングを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードランキング よく検索されるキーワードの検索回数 TOP100 を、ランキング形式で表示します。</li> <li>0 件 HIT のキーワード 0 件 HIT のキーワードの検索回数が多い順 TOP100 を、ランキング形式で表示します。</li> <li>コンテンツのランキング よく参照されるデータの参照回数が多い順 TOP100 を、ランキング形式で表示します。</li> </ul>	キーワードランキング
②	表示範囲	表示するランキングの範囲を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>昨日</li> <li>過去 1 週間</li> <li>ユーザー定義 1*</li> <li>ユーザー定義 2*</li> <li>ユーザー定義 3*</li> </ul> 「昨日」、および「過去 1 週間」を選択した場合は、1 日単位のランキング情報を集計して表示します。	昨日
③	タイトル	①で選択したランキングごとに、次のタイトルを表示します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードランキング：よく検索されるキーワードランキング</li> <li>0 件 HIT のキーワード：0 件 HIT のキーワードランキング</li> <li>コンテンツのランキング：よく参照されるコンテンツランキング</li> </ul>	—
④	ページめくり	現在表示しているランキングと、前後のランキングを確認できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li> リンク 最初のページを表示します。</li> <li> リンク 前のページの 20 件を表示します。</li> <li> リンク 次のページの 20 件を表示します。</li> <li> リンク 最終ページを表示します。</li> </ul>	—
⑤	ランキング	指定したランキングを表示します。	—

注※

ユーザー定義 1～ユーザー定義 3 には、ランキング集計コマンドの-u で指定した範囲のユーザー定義ランキングが表示されます。詳細については「9.5.1 ランキング集計コマンド」を参照してください。

## 注意事項

表示するランキングの範囲内の期間で、すべての検索がエラーとなったキーワードの HIT 件数は「-1」と表示されます。

# 9

## Enterprise Search のコマンド

Enterprise Search のコマンドについて説明します。

なお、環境変数 `IWS_COSMINEXUS_PATH` が定義されていない場合、および `%IWS_COSMINEXUS_PATH%\CC\client\bin\cjlstartap.exe` のパスに存在しない場合は、コマンドを実行してもエラーとなります。

## 9.1 ユーザー情報の一括登録

ユーザー情報一括登録コマンドでは、CSV形式の情報登録ファイルを作成して、一度に複数のユーザーを一括で登録できます。登録できるのは Enterprise Search のユーザー情報です。外部ユーザーを登録する場合は、「[9.2 外部ユーザー情報のコマンド](#)」を参照してください。

ユーザーの一括登録は、ユーザー一括登録画面でも実行できます。ユーザー一括登録画面の詳細については「[3.2 ユーザー一括登録](#)」を参照してください。

この節では、コマンドでユーザーを一括登録する操作について説明します。なお、Active Directory ユーザー管理オプションを使用している場合、ユーザー情報一括登録コマンドを実行しても実行結果の利用はできません。

### 9.1.1 ユーザー情報一括登録コマンド

#### (1) 形式

```
IwsAccountImport.bat
-i ユーザー情報CSVファイルパス
```

#### (2) 引数

-i ユーザー情報 CSV ファイルのファイルパス

ユーザー情報 CSV ファイルのファイルパスを、絶対パス形式で指定します。

指定する CSV ファイルの形式については、「[3.2.1 ユーザー一括登録の情報登録ファイルの形式](#)」を参照してください。

#### (3) 入出力コード

なし。

#### (4) 終了コード

0：正常終了

Enterprise Search にユーザー情報を登録した場合に出力されます。

-1：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

20：異常終了

Enterprise Search へのユーザー情報の登録に失敗した場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- コマンド実行ログを ImportLogxx.log 形式で出力します。ログファイルの詳細については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。
- このコマンドは複数を同時に実行できません。複数を同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。
- ユーザー一括登録画面のユーザー登録との同時実行はできません。

## 9.2 外部ユーザー情報のコマンド

外部システムのユーザー情報を Enterprise Search のユーザーとして登録する場合は、コマンド操作が必要となります。

この節では、外部システムごとのコマンド操作について説明します。なお、Active Directory ユーザー管理オプションを使用している場合、外部ユーザー情報のコマンドを実行しても実行結果の利用はできません。

### 9.2.1 Active Directory ユーザーグループの関連情報出力コマンド

引数で指定した Active Directory サーバーに接続し、ユーザーとグループの一覧を CSV 形式で出力します。Active Directory のユーザーとグループを Enterprise Search のユーザーとして登録する場合に、このコマンドを使用します。

#### (1) 形式

```
IwsADUserGroupInfoCSV.bat
[-t 共通クローラー識別子]
-a Active Directoryドメイン名
[-s]
[-p ポート番号]
[-h 接続先Active Directoryホスト名]
-u ユーザー名
[-w パスワード]
-o 出力先ファイルパス
-v ユーザー一覧出力ファイルパス
[-f]
[-m モード番号]
```

#### (2) 引数

##### -t 共通クローラー識別子

Enterprise Search 内で同一の Active Directory ドメインと認識するための共通クローラー識別子を指定します。

指定できる文字数は、半角英数字で 10 文字以内です。

指定を省略した場合は、CSV ファイルに共通クローラー識別子は出力されません。

##### -a Active Directory ドメイン名

接続先の Active Directory のドメイン名を指定します。

例：xxx.yyy.hitachi.co.jp

##### -s

SSL で Active Directory と通信する場合に指定します。

#### -p ポート番号

Active Directory 接続時に、デフォルトのポート番号以外のポートに接続する場合に指定します。デフォルトのポート番号は、ldap の場合 389、ldaps の場合 636 です。指定できる値の範囲は 1～65535 です。

#### -h 接続先 Active Directory ホスト名

-a で指定した Active Directory ドメイン名が DNS で解決できない環境の場合、代わりに接続する接続先のホスト名を指定します。

#### -u ユーザー名

Active Directory に接続する際に使用するユーザー名を指定します。接続先の Active Directory で、ユーザー情報の抽出を行える権限を持つユーザー名を指定してください。

#### -w パスワード

Active Directory に接続する際に使用するパスワードを指定します。

#### -o 出力先ファイルパス

CSV ファイルの出力先パスを、絶対パス形式で指定します。指定できる文字数はアスキー形式で 200 文字以内です。なお、文字数のチェックはされません。

#### -v ユーザー一覧出力ファイルパス

Active Directory のユーザー情報を Enterprise Search のユーザーとして一括登録する場合に作成する CSV ファイルの参考とするために出力します。

出力形式を次に示します。各名称は Active Directory のユーザー情報表示項目に準拠します。ユーザー数分が出力されます。

\*UPDATE,ユーザー ログオン名,,表示名,電子メール,0,0,1,,部署,ログイン ID に対応するユーザー関連

#### -f

-o, または -v で指定した出力先パスにすでにファイルが存在していた場合に、上書きするときに指定します。

-f の指定を省略した場合で、すでにファイルが存在していたときや、同一パスのディレクトリがすでに存在していたときは、エラーとなります。

#### -m モード番号

-o または -v を指定して出力するユーザー情報の形式のモードを指定します。指定できる値は次のとおりです。

1 : LDAP DN 形式

2 : ログイン ID の独自形式

-m の指定を省略した場合は、モード番号 1 が仮定されます。

## (3) 入出力

### 入力

なし。

出力

なし。

## (4) 終了コード

### 0：正常終了

Active Directory ユーザー，およびグループの関連情報が正常に出力された場合に出力されます。

### 10：異常終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

Active Directory ユーザー，およびグループの関連情報は出力できませんでした。

### 20：異常終了

Active Directory ユーザー，およびグループの関連情報の出力に失敗した場合に出力されます。

## 9.2.2 Domino Directory ユーザーグループ関連情報出力コマンド

引数で指定した Domino Directory サーバーに接続し，ユーザーとグループの一覧を CSV 形式で出力します。Domino Directory ユーザー，およびグループを Enterprise Search のユーザーとして登録する場合に，このコマンドを使用します。

### (1) 形式

```
IwsDDUserGroupInfoCSV.bat
-t 共通クローラー識別子
[-h 接続先Domino Directoryホスト名]
-u ユーザーIDファイルパス
[-w パスワード]
-o 出力先ファイルパス
-v ユーザー一覧出力ファイルパス
[-f]
```

### (2) 引数

#### -t 共通クローラー識別子

Enterprise Search 内で同一の Domino Directory ドメインと認識するための，共通クローラー識別子を指定します。指定できる文字数は，半角英数字で 10 文字以内です。指定を省略した場合は，CSV ファイルに共通クローラー識別子は出力されません。

#### -h 接続先 Domino Directory ホスト名

Domino Directory のユーザー情報を管理している Domino サーバーのホスト名を指定します。指定を省略した場合は localhost へ接続します。

#### -u ユーザー ID ファイルパス

Domino サーバーに接続する際に使用するユーザー ID ファイルパスを、絶対パス形式で指定します。指定できる文字数はアスキー形式で 200 文字以内です。

#### -w パスワード

-u で指定したユーザー ID ファイルに対応するパスワードを指定します。

#### -o 出力先ファイルパス

CSV ファイルの出力先パスを、絶対パス形式で指定します。指定できる文字数はアスキー形式で 200 文字以内です。なお、文字数のチェックはされません。

#### -v ユーザー一覧出力ファイルパス

Domino Directory のユーザー情報を Enterprise Search のユーザーとして一括登録する場合に作成する CSV ファイルの参考とするために出力します。

出力形式を次に示します。各名称は Domino Directory のユーザー情報表示項目に準拠します。ユーザー数分が出力されます。

*UPDATE, ユーザー名, , 表示名, ユーザー名, 0, 0, 1, , 所属名, ログインIDに対応するユーザー関連
---

#### -f

-o, または-v で指定した出力先パスにすでにファイルが存在していた場合に、上書きするときに指定します。

-f の指定を省略した場合で、すでにファイルが存在していたときや、同一パスのディレクトリがすでに存在していたときは、エラーとなります。

### (3) 入出力

#### 入力

なし。

#### 出力

なし。

### (4) 終了コード

#### 0：正常終了

Domino Directory ユーザー、およびグループの関連情報が正常に出力された場合に出力されます。

#### 10：異常終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

Domino Directory ユーザー、およびグループの関連情報は出力できませんでした。

#### 20：異常終了

Domino Directory ユーザー、およびグループの関連情報の出力に失敗した場合に出力されます。

## 9.2.3 外部ユーザーグループ情報登録コマンド

指定された CSV 形式の外部ユーザー情報登録ファイルを、Enterprise Search のデータベースに登録します。なお、外部ユーザー情報は画面から登録することもできます。画面からの登録については「[3.4 外部ユーザー情報登録](#)」を参照してください。

### (1) 形式

```
IwsUserGroupInfoImport.bat
-i 外部ユーザー情報登録ファイルパス
```

### (2) 引数

-i 外部ユーザー情報登録ファイルパス

CSV 形式の外部ユーザー情報登録ファイルを指定します。登録する CSV ファイルの形式については「[3.4.1 外部ユーザー情報登録用 CSV ファイルの形式](#)」を参照してください。

### (3) 入出力

入力

なし。

出力

なし。

### (4) 終了コード

0：正常終了

外部ユーザー情報登録ファイルが Enterprise Search のデータベースに登録された場合に出力されます。

10：異常終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

外部ユーザー情報登録ファイルは登録できませんでした。

20：異常終了

外部ユーザー情報登録ファイルの登録に失敗した場合に出力されます。

## 9.2.4 外部ユーザー情報関連付けコマンド

Enterprise Search の登録ユーザーと、外部ユーザーの情報を関連付けるコマンドです。Enterprise Search のログイン ID と、外部ユーザーのキー文字列に存在するユーザー ID とが一致する外部ユーザー情報を関連付けて、CSV 形式のファイルで出力します。

このコマンドを使用する場合は、連携する外部システムのユーザーアカウント ID のすべてが、Enterprise Search のログイン ID と一致している必要があります。

## (1) 形式

```
IwsAssocExtAuthInfo.bat
-a accountFilePath
-e extAuthFilePath
-o outputFilePath
-t {ad | dd}
[-f]
```

## (2) 引数

**-a accountFilePath**

ユーザー情報一括登録コマンドの引数-i で使用するファイルのパスを、絶対パス形式で指定します。

**-e extAuthFilePath**

外部ユーザー情報コマンドの引数-o で出力したファイルのパスを、絶対パス形式で指定します。

**-o outputFilePath**

外部ユーザー情報関連付けファイルの出力先パスを、絶対パス形式で指定します。

**-t {ad | dd}**

関連付ける外部ユーザー情報種別を指定します。

- ad : Active Directory
- dd : Domino Directory

**-f**

-o で指定した出力先パスにすでにファイルが存在していた場合に、上書きするときに指定します。

-f の指定を省略した場合で、すでにファイルが存在していたときや、同一パスのディレクトリがすでに存在していたときは、エラーとなります。

## (3) 入出力

入力

なし。

出力

外部ユーザー情報関連付けファイル

## (4) 終了コード

0 : 正常終了

正常終了した場合に出力されます。

## 10：引数誤り

引数の指定に誤りがある場合に出力されます。

## 20：異常終了

外部ユーザー情報関連付けファイル出力に失敗した場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- コマンド実行ログを ImportLogxx.log 形式で出力します。ログファイルの詳細については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。
- -a で指定したユーザー情報ファイル，または-e で指定した外部ユーザー情報ファイルに 1 件でもエラーが存在する場合は，外部ユーザー情報関連付けファイルは出力されません。
- -e で指定した外部ユーザー情報ファイルに，-t で指定した外部ユーザー情報種別以外の外部情報が存在した場合は，エラーとなります。また，外部ユーザー情報種別のグループ・ロールはスキップ対象となります。
- 外部ユーザー情報ファイルで，キー文字列が空文字の行はスキップ対象になります。
- 外部ユーザー情報ファイルで「外部システムキー」「外部種別」「キー文字列」のすべてが一致する外部ユーザーが重複して存在した場合，先頭に存在する外部ユーザーだけが関連付け対象となり，それ以降の外部ユーザーはスキップ対象となります。

## 9.3 全文検索データ連携のコマンド

この節では、全文検索抽出対象のデータを全文検索システムへ登録して連携するコマンドの操作について説明します。

### 9.3.1 全文検索データ連携のコマンド

#### (1) 形式

```
XmlExtCooperation.bat
-i IWS_DOC
[-n 件数]
[-m {all | diff}]
```

#### (2) 引数

-i IWS\_DOC

全文検索データ連携を行うインデクス名を指定します。IWS\_DOC を指定します。

-n 件数

抽出するデータの件数を 1~2,147,483,647 の範囲で指定します。省略した場合は全件が対象となります。

-m 抽出形式

次のどちらかを指定します。

all

すべての記事情報の抽出を行います。抽出形式を省略した場合は diff を仮定して動作します。

diff

前回抽出した日時以降に投稿、または更新された記事情報の抽出を行います。

#### ■ 注意事項

クローリング、および全文検索データ再収集コマンド (XmlExtRecollection.bat) を同時に実行しないでください。同時に実行した場合、データベースアクセスエラーが発生、またはデータの整合性が取れなくなることがあります。

#### (3) 入出力

入力

なし。

## 出力

- コマンド開始時：KMES00225-I
- コマンド終了時：KMES00226-I
- 引数不正時：KMES00227-I
- データベースアクセスに失敗した場合：KMES10028-E

メッセージの詳細についてはマニュアル「uCosminexus Enterprise Search メッセージ」を参照してください。

## (4) 終了コード

### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。全文検索データ連携に成功しました。

### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

### 20：異常終了

次のどちらかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- 全文検索データ抽出、全文検索系切替バッチのどちらかが異常終了しました。
- 全文検索システムへのデータ登録に失敗しました。

## 9.3.2 全文検索データ再収集のコマンド

### (1) 形式

```
XmlExtRecollection.bat  
-i IWS_DOC  
[-n 件数]
```

### (2) 引数

#### -i IWS\_DOC

全文検索データ再収集を行うインデクス名を指定します。IWS\_DOC を指定します。

#### -n 件数

抽出するデータの件数を 1～2,147,483,647 の範囲で指定します。省略した場合は全件が対象となります。

## 注意事項

クローリング、および全文検索データ連携コマンド (XmlExtCooperation.bat) を同時に実行しないでください。同時に実行した場合、データベースアクセスエラーが発生、またはデータの整合性が取れなくなることがあります。

### (3) 入出力

#### 入力

なし。

#### 出力

- コマンド開始時：KMES00223-I, KMES00225-I
- コマンド終了時：KMES00224-I, KMES00226-I
- 引数不正時：KMES00227-I
- データベースアクセスに失敗した場合：KMES10028-E

メッセージの詳細についてはマニュアル「uCosminexus Enterprise Search メッセージ」を参照してください。

### (4) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

全文検索データ連携に成功しました。

#### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

#### 20：異常終了

次のどちらかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- 全文検索データ抽出、全文検索系切替バッチのどちらかが異常終了しました。
- 全文検索システムへのデータ登録に失敗しました。

## 9.4 キーワード候補ファイルの作成

キーワード候補ファイル作成コマンドは、サジェスト機能で使用するキーワード候補ファイルを、過去の検索時に指定された検索キーワードから作成するコマンドです。なお、コマンドを使用したサジェスト機能の運用方法については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。

### 9.4.1 キーワード候補ファイル作成コマンド

#### (1) 形式

```
IwsMakeSuggestKeyword.bat
-o outputPath
[-h hitCount]
[-f]
[-c {SJIS|EUC-JP|UTF-8}]
[-m {diff|new}]
```

#### (2) 引数

##### -o outputPath (キーワード候補ファイルの出力先パス)

キーワード候補ファイルを出力するパスを、フルパスで指定します。

出力されたファイルは、次に示すどちらかのキーワード候補作成ファイルの読み込み先に移動してください。

- %IWSEARCH\_BASE%\etc 下に suggest\_keyword.txt のファイル名で格納
- keyword.list.folder プロパティで指定したフォルダー内に格納

##### -h hitCount (ヒット件数)

キーワード候補ファイルに出力するキーワードを、一定以上の検索結果がヒットするキーワードだけに絞り込む場合に指定します。

ここで指定したヒット件数以上のキーワードだけを、キーワード候補ファイル作成コマンドで出力します。

- 指定できる範囲：0～100,000
- デフォルト値：1

指定できる値以外を指定した場合は、引数エラーとなります。

##### -f ファイルの上書き指定

-o で指定したファイルパスにすでにファイルが存在する場合で、ファイルを上書きするときに指定します。

なお、-m に diff を指定した場合は、-f の指定は無視されます。

### -c 文字コードの指定

出力するキーワード候補ファイルの文字コードを指定します。

指定できる値は次のとおりです。指定できる値以外を指定した場合は、引数エラーとなります。

#### SJIS

Shift-JIS で出力します。

#### EUC-JP

EUC-JP で出力します。

#### UTF-8

UTF-8 で出力します。デフォルトの値です。

### -m キーワード候補ファイルの出力

-o で指定したパスにキーワード候補ファイルを出力します。ファイルが存在しない場合は、指定されたパスにキーワード候補ファイルを新規作成します。

#### diff

このコマンドを前回実行した時間以降に、ユーザーに指定された検索キーワードから検索キーワードを抽出し、前回のキーワード候補ファイルに追記する形式で出力します。前回と同じキーワードがすでに存在する場合は、上書きして出力します。

コマンドの初回実行時にこのオプションを指定した場合は、検索時に指定されたすべてのキーワードから検索キーワードを出力します。

#### new

検索時に指定されたすべてのキーワードからキーワード候補を抽出して、キーワード候補ファイルに出力します。

## (3) 終了コード

### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

### 20：異常終了

次のどちらかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- キーワード候補ファイルの出力に失敗しました。
- データベースアクセスエラーが発生しました。

## (4) 注意事項

- -m に diff を指定した場合で、-c に前回と異なる文字コードを指定すると、同じキーワード候補ファイルに異なる文字コードの文字が混在します。このような指定はしないでください。

- このコマンドは複数と同時に実行できません。複数と同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。
- このコマンドで作成したキーワード候補ファイルを複数のサーバーで利用する場合は、次のどちらかを実施してください。
  - どれか一つのサーバーでキーワード候補ファイルを作成し、作成したキーワード候補ファイルを他のサーバーへコピーして使用します。
  - -o に共有フォルダーを指定し、指定した共有フォルダー、およびフォルダー内のファイルに対して書き込み以上の権限を持つユーザーで、このコマンドを実行します。アプリケーションサーバーの起動は、keyword.list.folder プロパティで指定した格納先フォルダーに対して参照以上の権限を持つユーザーで実行します。なお、%IWSEARCH\_BASE%etc\*suggest\_keyword.txt の格納先を共有フォルダーとして指定することはできません。
- -c で UTF-8 以外の文字コードを指定した場合で、UTF-8 では存在しない文字コードを含むキーワードが含まれているときは、当該の文字コードを含むキーワードはキーワード候補ファイルへ出力されません。キーワード候補出力ファイルへ出力できる文字コードごとの文字の範囲は、コマンド実行環境の Java に依存します。
- -c の指定は、keyword.list.encoding プロパティの指定値と合わせる必要があります。keyword.list.encoding プロパティの詳細については、マニュアル「uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド」を参照してください。

## 9.5 統計レポートのコマンド

統計レポート機能は、Enterprise Search の各種データを統計して、表やグラフで管理画面に表示する機能です。表示する統計データはコマンドで作成して、データベースへ格納します。この節では、各種統計データのコマンドについて説明します。

### 9.5.1 ランキング集計コマンド

過去の検索時に指定された検索キーワードとアクセスログからキーワード、およびアクセスランキング用のデータを集計しデータベースへ格納するコマンドです。ユーザー定義ランキングの作成もこのコマンドで行います。

#### (1) 形式

```
IwsMakeRanking.bat
  {-m {diff | new} |
  -u {1|2|3} {-t title {[-s start] [-e end] | -r day } |
  -d} }
```

#### (2) 引数

##### -m ランキング用データの集計

###### diff

このコマンドを前回実行した時間以降にユーザーに指定された検索キーワードとアクセスログから、ランキング用のデータを集計してデータベースに格納します。通常運用時はこの引数の指定を推奨します。

###### new

作成済みのランキング用の集計データをすべて破棄して、検索時に指定されたすべてのキーワードとアクセスログからランキング用のデータを集計します。

通常運用時は指定しないでください。データベースのランキング用のデータを削除してしまった場合などに、この引数を指定します。

##### -u ユーザー定義ランキングの作成

ユーザー定義ランキングを作成する場合に指定します。作成したランキングは、統計情報のランキング画面に表示されます。

-u の後ろには、1~3 の範囲でユーザー定義ランキング ID を指定します。指定した ID の昇順で、ランキング画面に表示します。

すでにランキング作成済みの ID を指定した場合は、ランキングを上書きします。

###### 1

-t で指定したユーザー定義ランキングのタイトルを、ランキング画面の一番目に表示します。

2

-t で指定したユーザー定義ランキングのタイトルを、ランキング画面の二番目に表示します。

3

-t で指定したユーザー定義ランキングのタイトルを、ランキング画面の三番目に表示します。

#### -t タイトル

ユーザー定義ランキングのタイトルを、10 文字以内で指定します。空白を含むタイトルの場合は、空白を" (ダブルクォート) で囲んでください。

"を文字として含める場合は、¥¥"¥"と入力します。例えば、「"日立"」をタイトルに指定する場合は、「¥¥"¥"日立¥¥"¥"」と指定します。"で囲んだ場合、"は文字数にはカウントされません。

#### -s start (集計範囲の開始日付)

ユーザー定義ランキングの集計範囲の開始日付を yyyyymmdd の形式で指定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。

指定を省略した場合は、最も古い日付の検索時に指定されたキーワードを仮定します。

#### -e end (集計範囲の終了日付)

ユーザー定義ランキングの集計範囲の終了日付を yyyyymmdd の形式で指定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。

指定を省略した場合は、最も新しい日付の検索時に指定されたキーワードを仮定します。

#### -r day (コマンド実行日からの過去日数)

ユーザー定義ランキングの集計範囲を、コマンドを実行した日からの日数で指定します。指定できる範囲は、1~365 です。

このオプションで指定した数で、コマンド実行日からの過去日数分が集計範囲となります。-r を指定すると日付に関係なく、過去日数分の集計ができます。

指定例を次に示します。

- -r 1 : コマンド実行日
- -r 2 : コマンド実行日と前日

#### -d ユーザー定義ランキングの削除

指定したユーザー定義ランキングを削除する場合に指定します。ランキングを作成していないユーザー定義ランキング ID を指定した場合は、指定を無視します。

## (3) 終了コード

### 0 : 正常終了

正常終了した場合に出力されます。

### 10 : 警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

## 20：異常終了

データベースアクセスエラーが発生により、異常終了した場合に出力されます。

### (4) 注意事項

- -m で集計したデータを元にユーザー定義ランキングを作成するため、正確なランキングを作成するためには、-m の定期的な実行が必要です。また、統計レポート画面の「昨日」と「過去 1 週間」のランキングは、集計データから動的に生成しているため、-m で毎日集計していない場合は不正確なランキングが表示されます。
- -s と-e に同じ値を指定した場合は、その日付だけを集計範囲として集計します。
- -s の日付より-e の日付が古い場合、または-e の日付より-s の日付が新しい場合は、引数エラーとなります。
- コマンドを実行した時点での検索時に指定されたキーワードを使用してユーザー定義ランキングを作成するため、定期的なコマンドの再実行が必要です。
- Enterprise Search を複数のサーバーで運用している場合は、どれか一つのサーバーでこのコマンドを定期的に行ってください。
- このコマンドは複数と同時に実行できません。複数と同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。
- ユーザー定義ランキングのキーワードは、次の規則で正規化されます。正規化した結果、同一となったキーワードは同じキーワードとみなされます。
  - 前後の空白文字（全角および半角の空白、水平タブ）は削除します。
  - 単語と単語の間の空白文字（全角および半角の空白、水平タブ）は、一つの半角空白文字とします。

### (5) 指定例

ランキング集計コマンドの指定例を次に示します。

- ランキングを差分集計する場合：毎日実行します。  
`IwsMakeRanking.bat -m diff`
- 2011 年 8 月のランキングを作成する場合：一度だけ実行します。  
`IwsMakeRanking.bat -u 1 -t "2011年/8月" -s 20110801 -e 20110831`
- 過去 30 日のランキングを毎日更新する場合：毎日実行します。  
`IwsMakeRanking.bat -u 2 -t "過去30日" -r 31`
- ユーザー定義ランキング 3 を削除する場合：一度だけ実行します。  
`IwsMakeRanking.bat -u 3 -d`

## 9.5.2 クロール統計情報取得コマンド

コマンド実行時のクロールデータの統計情報を集計するコマンドです。

### (1) 形式

```
IwsReportCrawlData.bat
```

### (2) 引数

なし。

### (3) 終了コード

0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

20：異常終了

データベースアクセスエラーの発生により、異常終了した場合に出力されます。

### (4) 注意事項

- このコマンドは1時間に1回実行してください。
- 同じ時間（1時間単位：N時0分～N時59分）の間に複数回実行した場合は、登録済みの同じ時間の統計情報を上書きします。
- このコマンドは複数回を同時に実行できません。複数回を同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。

## 9.5.3 登録データ統計情報取得コマンド

コマンド実行時の登録データの統計情報を集計するコマンドです。

### (1) 形式

```
IwsReportRegistData.bat
```

### (2) 引数

なし。

### (3) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

#### 20：異常終了

データベースアクセスエラーの発生により、異常終了した場合に出力されます。

### (4) 注意事項

- このコマンドは 1 時間に 1 回実行してください。
- 同じ時間（1 時間単位：N 時 0 分～N 時 59 分）の間に複数回実行した場合は、登録済みの同じ時間の統計情報を上書きします。
- このコマンドは複数と同時に実行できません。複数と同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。

## 9.5.4 検索インデクス統計情報取得コマンド

検索インデクスの統計情報を取得するコマンドです。

統計情報は HiRDB XML Extension の phjidxls コマンドの出力結果を使用します。phjidxls コマンドの構文については、マニュアル「HiRDB XML 拡張機能 HiRDB XML Extension Version 8」または「HiRDB XML 拡張機能 HiRDB XML Extension Version 9」を参照してください。

### (1) 形式

```
IwsReportIndexData.bat  
[-n id]  
-i idxisResultFilePath
```

### (2) 引数

#### -n id (バックエンドサーバー ID)

検索インデクスを複数のバックエンドサーバーで管理している場合に、各バックエンドサーバーで出力した phjidxls コマンドの出力結果を識別するための、バックエンドサーバーごとの一意な ID を指定します。

同じバックエンドサーバーの出力結果は、同じ ID を指定して登録してください。HiRDB のバックエンドサーバー定義の詳細については、マニュアル「HiRDB Version 8 システム定義」または「HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R)用)」を参照してください。

指定できる値は、1～2,147,483,647 の範囲です。指定を省略した場合は、1 を仮定します。

-i startIdxResultFilePath (phjidxls コマンドの実行結果ファイルパス)

HiRDB XML Extension の phjidxls コマンドの実行結果を出力したファイルの絶対パスを指定します。

### (3) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

#### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

#### 20：異常終了

次のどちらかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- データベースアクセスエラーが発生しました。
- ファイルアクセスエラーが発生しました。

### (4) 注意事項

- phjidxls コマンドを 1 時間に 1 回実行し、実行結果を出力したファイルをこのコマンドへ指定してください。
- 同じ時間帯 (1 時間単位：N 時 0 分～N 時 59 分) の出力結果を複数回指定した場合は、最後に指定した時間の出力結果を検索インデクスの統計情報とします。
- 異なるバックエンドサーバーの同じ時間帯の phjidxls コマンドの出力結果を、同じ ID を指定して登録した場合は、正しい ID で登録し直してください。
- このコマンドは複数と同時に実行できません。複数と同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。
- HiRDB XML Extension の phjidxls コマンドの出力結果のファイルを編集しないでください。編集した場合、正しいデータを入力できないおそれがあります。

## 9.5.5 検索統計情報取得コマンド

コマンド実行時間の約 1 時間前までの検索時に指定されたキーワードを集計して、検索統計情報をデータベースに登録するコマンドです。

### (1) 形式

```
IwsReportSearchData.bat
```

## (2) 引数

なし。

## (3) 終了コード

0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

20：異常終了

データベースアクセスエラーの発生により、異常終了した場合に出力されます。

## (4) 注意事項

- このコマンドは他の統計情報とは異なり、1時間に1回実行する必要はありませんが、定期的に行ってください。コマンドの実行が遅れた場合は、統計レポート画面への統計の反映が遅れます。

## 9.5.6 統計情報削除コマンド

登録済みの統計情報を削除するコマンドです。

このコマンドは通常運用時には使用しないでください。検索インデクス統計情報取得コマンドの-nで指定するIDを間違えた場合、またはデータベースの容量不足などで統計情報を削除する必要が発生した場合に、このコマンドを使用して統計情報を削除してください。

### (1) 形式

```
IwsDeleteReport.bat  
-t {rank|crawl|regist|index [-n id]|search}  
[-y year [-m month [-d day]]]
```

### (2) 引数

-t 削除対象統計情報

削除対象の統計情報を指定します。

rank

ランキング統計情報を削除します。ユーザー定義ランキングは削除できません。

crawl

クローラー統計情報を削除します。

regist

登録データ統計情報を削除します。

## index

検索インデクス統計情報を削除します。-n を指定した場合は、指定した ID のデータだけを削除します。

- -n id

削除対象のバックエンドサーバーごとの一意な ID を指定します。

## search

すべての検索統計情報を削除します。

### -y year (削除対象年)

削除する統計情報の期間を年で指定します。指定を省略した場合は、-t で指定した統計情報のデータをすべて削除します。

### -m month (削除対象月)

-y を指定した場合に、削除する統計情報の期間を月で指定します。

### -d day (削除対象日)

-y と -m を指定した場合に、削除する統計情報の期間を日で指定します。

## (3) 終了コード

### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

### 20：異常終了

データベースアクセスエラーの発生により、異常終了した場合に出力されます。

## (4) 注意事項

- このコマンドで削除対象として指定した統計情報を、統計情報をデータベースに登録するコマンドで登録対象に指定した場合、コマンドを同時に実行するとあとから実行したコマンドはエラーとなります。引数ごとに対応するコマンドを次に示します。
  - rank：ランキング集計コマンド (IwsMakeRanking.bat)
  - crawl：クロール統計情報取得コマンド (IwsReportCrawlData.bat)
  - regist：登録データ統計情報取得コマンド (IwsReportRegistData.bat)
  - index：検索インデクス統計情報取得コマンド (IwsReportIndexData.bat)
  - search：検索統計情報取得コマンド (IwsReportSearchData.bat)
- このコマンドを実行して統計情報を削除した場合、統計レポート画面には統計情報が表示されなくなります。

## 9.6 クローラー定義一括登録コマンド

クローラー定義一括登録コマンドは、クローラーのタイプが NTFS の場合に使用できるコマンドです。定義情報を記述したファイルを入力して、複数のクローラー定義を一括で登録・更新できます。

この節では、クローラー定義一括登録コマンドについて説明します。

### 9.6.1 コマンドの形式

クローラー定義一括登録コマンドの形式について説明します。

#### (1) 形式

```
ImportCrawlInfo.bat  
-i 入力用定義ファイルのファイルパス
```

#### (2) 引数

-i 入力用定義ファイルのファイルパス

入力用定義ファイルのファイルパスを、絶対パス形式で指定します。

#### (3) 入出力

なし。

#### (4) 終了コード

0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

10：警告終了

定義内容が不正の場合に出力されます。コマンドの動作は正常に終了します。

20：異常終了

定義ファイルの解析に失敗した場合、またはコマンドの動作に異常がある場合に出力されます。

30：何もせず終了

追加・更新するクローラー情報がない場合に出力されます。

-1：引数誤り

引数の指定に誤りがある場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- 各クローラー定義の登録・更新処理時にエラーが発生した場合は、エラー内容をログファイルに出力し、対象のクローラー ID の処理は無視します。
- クローラー定義一括登録コマンドを実行する場合は、事前にタスクスケジューラーに登録している「IWSADDCRAWL」タスクの実行を無効にする必要があります。

### 9.6.2 定義ファイルの形式

クローラー定義一括登録コマンドの引数 i に指定する、入力用定義ファイルの形式について説明します。なお、入力用定義ファイルに使用できる文字コードは UTF-8 だけです。

定義ファイルに指定できる要素を次の表に示します。

表 9-1 定義ファイルに指定できる要素

要素名	属性名	説明	クローラータイプ (NTFS)	
			追加	更新
RegistFeed	—	登録定義	○	○
CrawlInfo	CrawlId	クローラー情報	○	○
CommonDefinition	—	共通定義	○	○
RegistType	—	登録種別	○	○
FeedType	—	フィードタイプ	○	×
CommonCrawlId	—	共通クローラー識別子	△	×
Title	—	タイトル	○	△
Description	—	クローラーの説明	△	△
AclCrawl	—	アクセス権	△	△
Schedule	—	スケジュール	△	△
DetailDefinition	—	詳細定義	○	△
FolderPath	—	フォルダーパス	○	△
Basic	—	共有フォルダー認証	△	△
ReferenceProtocol	—	NTFS 参照プロトコル	○	△
IncludeFilter	—	フィルター含む	△	△
ExcludeFilter	—	フィルター除く	△	△

(凡例)

○：必須指定項目です。

△：省略した場合はデフォルト値，またはデータベースの値が仮定されます。詳細については「9.6.3 定義ファイルの記述規則」を参照してください。

×：指定できません。

－：対象外です。

## 注意事項

要素内容に指定した改行（ $\n$ ， $\r$ ）については，改行を取り除いた文字列として扱います。ただし，Description（クローラーの説明）に指定した改行（ $\n$ ， $\r$ ）は取り除かれません。

定義ファイルの例を次の図に示します。

図 9-1 クローラー一括登録コマンドの定義ファイルの例

```
<?xml version = "1.0" encoding = "utf-8"?>
<RegistFeed>
  <CrawlInfo CrawlId = "クローラーID">
    <CommonDefinition>
      <RegistType>登録種別</RegistType>
      <CommonCrawlId>共通クローラー識別子</CommonCrawlId>
      <Title>タイトル</Title>
      <FeedType>クローラータイプ</FeedType>
      <Description>クローラーの説明</Description>
      <AclCrawl>アクセス権クローラの有無</AclCrawl>
      <Schedule>スケジュールの有効/無効</Schedule>
    </CommonDefinition>
    <DetailDefinition>
      <FolderPath>フォルダパス</FolderPath>
      <Basic>共有フォルダ認証ID</Basic>
      <ReferenceProtocol>NTFS参照プロトコル</ReferenceProtocol>
      <IncludeFilter></IncludeFilter>
      <ExcludeFilter>*.bmp</ExcludeFilter>
    </DetailDefinition>
  </CrawlInfo>
  <CrawlInfo CrawlId = "クローラーID">
    <CommonDefinition>
      .
      .
      .
    </CommonDefinition>
    <DetailDefinition>
      .
      .
      .
    </DetailDefinition>
  </CrawlInfo>
</RegistFeed>
```

## 9.6.3 定義ファイルの記述規則

クローラー定義一括登録ファイルの記述規則を次に示します。

## 9.6.4 新規登録（追加）の場合

クローラーを新規に追加する場合の記述規則について、次の表に示します。

表 9-2 記述規則（新規の場合）

#	定義名	要素名/属性名	指定規則	説明
1	登録定義	RegistFeed	必須	クローラー定義の登録を開始するために必要です。
2	クローラー情報	CrawlInfo	必須	追加するクローラー情報を指定します。
3	クローラー ID	CrawlId	必須	追加するクローラー ID を指定します。 入力できる文字数は半角英数字、「_」（半角アンダースコア）で 32 文字以内です。
4	共通定義	CommonDefinition	必須	共通定義の設定を開始するために必要です。
5	登録種別	RegistType	必須	ADD を指定します。 同じクローラー ID が存在する場合は、エラーとなります。
6	共通クローラー識別子	CommonCrawlId	省略可	共通クローラー識別子を入力します。 入力できる文字数は半角英数字で 10 文字以内です。 指定を省略した場合は、デフォルトの値を設定します。
7	タイトル	Title	必須	クローラーのタイトルを 80 文字以内で指定します。
8	フィードタイプ	FeedType	必須	NTFS を指定します。
9	クローラーの説明	Description	省略可	クローラーの説明を 1,024 文字以内で指定します。
10	アクセス権	AclCrawl	省略可	クロール先のシステムで、文書に付与されているアクセス権をクロールするかを、次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1：クロールします。</li><li>• 0：クロールしません。</li></ul> 指定を省略した場合は、「1」を仮定して動作します。指定できる値以外を指定した場合は、エラーとなります。
11	スケジュール	Schedule	省略可	スケジュールを反映するかを次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 1：スケジュールを有効とします。</li><li>• 0：スケジュールを無効とします。</li></ul> 指定を省略した場合は、「1」を仮定して動作します。指定できる値以外を指定した場合は、エラーとなります。

#	定義名	要素名/属性名	指定規則	説明
11	スケジュール	Schedule	省略可	また、「0」を指定した場合は、スケジューラーによるコマンド実行時にはクローリングは実施しません。
12	詳細定義	DetailDefinition	必須	詳細定義の設定を開始するために必要です。
13	フォルダーパス	FolderPath	必須	クローリングするフォルダーパスを入力します。入力できる文字は UNC 形式で 1,024 文字※以内です。何も入力しない場合、UNC 形式と認識できない場合はエラーとなります。
14	共有フォルダー認証	Basic	省略可	共通定義で定義したユーザー認証定義のタイトルを指定します。指定を省略した場合は、使用しない設定となります。 詳細については「5.5.1 ユーザー認証定義」を参照してください。
15	NTFS 参照プロトコル	ReferenceProtocol	必須	フォルダーパスに対応する URL を 1,024 文字以内で入力します。
16	フィルター含む	IncludeFilter	省略可	クローリングしないファイルパスのフィルター式を入力します。入力できる文字数は 1,024 文字以内です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>「フィルター含む」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングするエントリーに含めます。</li> <li>「フィルター除く」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングするエントリーから除きます。指定を省略した場合は、デフォルトとして「*.gif;*.tif;*.tiff;*.jpg;*.jpeg;*.png;*.bmp」が仮定されます。</li> </ul>
17	フィルター除く	ExcludeFilter		

注※

システム定義として設定可能な上限値です。実際の収集では、収集先システムの制限を受けます。Windows ファイルシステムの場合、収集可能なファイル名の長さは 259 バイト以下に制限されます。

## 注意事項

同一のクローラー ID を複数定義した場合は、先頭のクローラー ID だけが登録の対象となります。2 番目以降に定義されたクローラー ID は登録されません。

## 9.6.5 更新の場合

既存のクローラーを更新する場合の記述規則について、次の表に示します。

表 9-3 記述規則 (更新の場合)

#	定義名	要素名/属性名	指定規則	説明
1	登録定義	RegistFeed	必須	クローラー定義の登録を開始するために必要です。
2	クローラー情報	CrawlInfo	必須	更新するクローラー情報を指定します。
3	クローラー ID	CrawlId	必須	更新するクローラー ID を指定します。 入力できる文字数は半角英数字, 「_」(半角アンダースコア) で 32 文字以内です。
4	共通定義	CommonDefinition	必須	共通定義の設定を開始するために必要です。
5	登録種別	RegistType	必須	UPDATE を指定します。 指定したクローラー ID が存在しない場合は、エラーとなります。
6	共通クローラー識別子	CommonCrawlId	指定不可	更新の場合は指定できません。
7	タイトル	Title	省略可	クローラーのタイトルを 80 文字以内で指定します。
8	フィードタイプ	FeedType	指定不可	更新の場合は指定できません。
9	クローラーの説明	Description	省略可	クローラーの説明を 1,024 文字以内で指定します。
10	アクセス権	AclCrawl	省略可	クローリング先のシステムで、文書に付与されているアクセス権をクロールするかを、次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1: クロールします。</li> <li>• 0: クロールしません。</li> </ul>
11	スケジュール	Schedule	省略可	スケジュールを反映するかを次の値で指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1: スケジュールを有効とします。</li> <li>• 0: スケジュールを無効とします。</li> </ul> 「0」を指定した場合は、スケジューラーによるコマンド実行時にはクローリングは実施しません。
12	詳細定義	DetailDefinition	省略可	詳細定義を更新する場合に指定します。
13	フォルダーパス	FolderPath	省略可	クローリングするフォルダーパスを入力します。 入力できる文字は UNC 形式で 1,024 文字*以内です。
14	共有フォルダー認証	Basic	省略可	共通定義で定義したユーザー認証定義のタイトルを指定します。
15	NTFS 参照プロトコル	ReferenceProtocol	省略可	フォルダーパスに対応する URL を 1,024 文字以内で入力します。
16	フィルター含む	IncludeFilter	省略可	クローリングしないファイルパスのフィルター式を入力します。入力できる文字数は 1,024 文字以内です。
17	フィルター除く	ExcludeFilter		

#	定義名	要素名/属性名	指定規則	説明
17	フィルター除く	ExcludeFilter	省略可	<ul style="list-style-type: none"> <li>「フィルター含む」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングするエントリーに含めます。</li> <li>「フィルター除く」のフィルター式にマッチするファイルパスは、クローリングするエントリーから除きます。</li> </ul>

注※

システム定義として設定可能な上限値です。実際の収集では、収集先システムの制限を受けます。Windows ファイルシステムの場合、収集可能なファイル名の長さは 259 バイト以下に制限されます。

## ■ 注意事項

- 省略可の定義を省略した場合は、データベースの値で更新処理が実行されます。
- 同一のクローラー ID を複数定義した場合は、すべてのクローラー ID の定義が更新の対象となります。このため、最後のクローラー ID の定義内容で更新処理が完了します。

## 9.7 クローラーの実行・停止コマンド

この節では、画面で定義したクローラーを実行・停止するコマンドについて説明します。

### 9.7.1 クロール実行コマンド

クローラータイプが WWW, Groupmax の場合で、タスクスケジューラーに指定した時間以外にクローラーを実行するときに、このコマンドを使用します。Groupmax クローラー詳細情報画面では、定義したクローラーの実行はできません。また、WWW クローラー, Groupmax クローラー以外のクローラーの定義は、このコマンドでは実行できません。「9.7.2 IWS クロールコマンド」を参照してください。

#### (1) 形式

```
IWSCrawler.bat
-c crawlId
[-m {new | diff | next | nextnew | nextdiff}]
[-f MaxDocNum]
[-t time]
[-d {yes | no }]
[-n maxCrawlCount]
```

#### (2) 引数

##### -c crawlId (クローラー ID)

クローリングを実行するクローラー ID を指定します。

##### -m 実行するクローリングの種類

実行するクローリングの種類を指定します。デフォルトの設定は nextdiff です。

##### new

新規にクローリングを実行します。

##### diff

前回のクローリングから追加・更新・削除された文書だけのクローリングを実行します。

##### next

分割クローリングを実行します。初回は新規クローリングを行い、2回目以降のクローリングでは、初回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングしていない場合は、前回の終了時点からクローリングを開始します。初回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングした場合は、クローリングは実行されません。

##### nextnew

分割クローリングを実行します。初回は、新規クローリングを行い、2回目以降のクローリングでは、初回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングしていない場合は、前回の終了

時点からクローリングを開始します。初回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングした場合は、先頭から新規クローリングを実行します。

## nextdiff

分割クローリングを実行します。初回は、新規クローリングを行い、2回目以降のクローリングでは、前回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングした場合は、先頭から差分クローリングを実行します。

前回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングしていない場合は、前回のクローリング終了時点から、前回は初回であった場合は新規クローリング、前回は2回目以降の場合は差分クローリングを実行します。

### 参考

分割クローリングとは、前回のクローリングで指定件数や指定時間により途中で中断した位置からクローリングを実行することです。

クローリング件数に100件を指定した場合の、分割クローリングの指定値によるクローリングの差異を次の表に示します。なお、分割クローリングとは、前回のクローリングで指定件数や指定時間により途中で中断した位置からクローリングを実行することです。

表 9-4 分割クローリングの指定値による差異

指定値	1回目	2回目	
		すべてクローリング済み	クローリングが残っている
next	100件までクローリングを実行	実行しない	1回目の終了時点から100件クローリングを実行
nextnew	100件までクローリングを実行	先頭から100件新規クローリングを実行	1回目の終了時点から100件クローリングを実行
nextdiff	100件まで差分クローリングを実行	先頭から100件差分クローリングを実行	1回目の終了時点から100件差分クローリングを実行

### -f MaxDocNum (クローリング文書数)

クローリングする文書数を1~2,147,483,647の範囲で指定します。指定を省略した場合は、全件クローリングを行います。指定できる範囲外の値を指定した場合は、エラーとなります。

### -t time (クローリング実行時間)

クローリングを実行する時間をhhmm形式で指定します。hhは0~23、MMは00~59までが指定できます。

クローリングを開始したあとに指定した時間が経過した場合は、クローリングを終了します。指定を省略した場合は、無制限で動作します。指定できる形式以外の値を指定した場合は、エラーとなります。

#### -d 登録済みデータの削除

クローリングの完了後に、すでに登録済みのデータが今回クローリングしたデータ中に含まれない場合、削除するかどうかを指定します。なお、yes を指定した場合でも、終了コードに 0 が出力されていないときは、削除は実行されていません。

yes

今回のクローリング時に含まれない登録済みのデータを削除します。

no

今回のクローリング時に含まれない登録済みのデータを削除しません。デフォルトの設定です。

#### -n maxCrawlCount (参照コンテンツ数)

参照するコンテンツ数を 1~2,147,483,647 の範囲で指定します。指定を省略した場合は、全件を参照します。指定できる範囲外の値を指定した場合は、エラーとなります。

この引数は WWW クローラーの場合だけ有効になります。WWW クローラー以外に指定した場合は、この引数を無視して動作します。

#### 注意事項

引数が誤りの場合は、次の形式でメッセージが出力されます

```
エラー(Usage: IWSCrawler.bat -c crawlId [-m {new | diff | next | nextnew | nextdiff}] [-f MaxDocNum] [-t time] [-n maxCrawlCount])
```

### (3) 入出力

なし。

### (4) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。全件クローリングを実行しました。

#### 1：正常終了

件数、または時間指定による中断で終了した場合に出力されます。

#### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

クローラータイプが Groupmax の場合、次の終了コードが出力されます。

- 11：登録データが不整合です。クローリングはすべて実行済みです。
- 12：登録データが不整合です。件数、または時間指定により中断しました。

#### 20：異常終了

次のどれかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- データベースの接続に失敗しました。
- 各種定義ファイルの参照に失敗しました。
- コマンド実行時の引数に誤りがあります。

## (5) 注意事項

- このコマンドを実行すると Groupmax クローラー詳細情報画面で設定したフォルダー認証の情報を使用されずに、コマンド実行時のユーザー情報が使用されます。

このため、コマンド実行時のユーザーに Groupmax クローラー詳細情報画面で設定したフォルダーへのアクセス権がない場合は、クローリングエラーとなります。

コマンドを実行する場合は、コマンド実行ユーザーが Groupmax クローラー詳細情報画面で設定したフォルダーへのアクセス権を持つかどうかを確認してください。アクセス権を持たない場合は、アクセス権を付与してからコマンドを実行してください。

- 外部ユーザーグループ情報登録コマンド (IwsUserGroupInfoImport.bat) とは同時に実行できません。
- -f MaxDocNum と -n maxCrawlCount をどちらも指定した場合は、どちらかの指定値に到達した時点までを有効とします。
- WWW クローラーに対してアクセス権をクロールしない設定にしている場合は、このコマンドでは実行できません。「[9.7.2 IWS クロールコマンド](#)」を参照してください。
- エントリー数が大量のクローラー ID を指定したクロール実行コマンドおよび IWS クロールコマンド (IWScrawler.exe) を複数同時に実行するときは、データベースの排他待ち監視時間を、コマンドを単独で実行するときよりも長く設定してください。データベースの排他待ち監視時間の設定は、使用するデータベースのマニュアルを参照してください。
- クロール先で、クロール済みのコンテンツが大量に削除または移動されているときは、-t time で指定したクローリング実行時間を超過することがあります。

## 9.7.2 IWS クロールコマンド

クローラータイプが NTFS, WWW, Notes, RDB の場合で、タスクスケジューラーに指定した時間以外にクローラーを実行するときに、このコマンドを使用します。

### (1) 形式

```
IWScrawler.exe
  -c crawlId
  [-m {new | diff | next }]
  [-f MaxDocNum]
  [-t time]
```

## (2) 引数

### -c crawlId (クローラー ID)

クローリングを実行するクローラー ID を指定します。

### -m 実行するクローリングの種類

実行するクローリングの種類を指定します。デフォルトの設定は next です。

#### new

新規にクローリングを実行します。

クローリング対象としたすべての文書に対してクローリングを実行します。クローリング済みの文書も、クローリング対象となります。

#### diff

差分クローリングを実行します。

前回のクローリングから追加・更新・削除された文書だけのクローリングを実行します。

#### next

分割クローリングを実行します。

初回クローリング時は新規クローリングを行い、2回目以降のクローリングでは、前回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングした場合は、先頭から差分クローリングを実行します。前回のクローリングでクローリング対象をすべてクローリングしていない場合は、前回のクローリング終了時点から、前回は初回であった場合は新規クローリング、前回は2回目以降の場合は差分クローリングを実行します。

### -f MaxDocNum (クローリング文書数)

クローリングする文書数を 1~2,147,483,647 の範囲で指定します。指定を省略した場合は、全件クローリングを行います。指定できる範囲外の値を指定した場合は、エラーとなります。

### -t time (クローリング実行時間)

クローリングを実行する時間を hhmm 形式で指定します。hh は 0~23、MM は 00~59 までが指定できます。

クローリングを開始したあとに指定した時間が経過した場合は、クローリングを終了します。指定を省略した場合は、無制限で動作します。指定できる形式以外の値を指定した場合は、エラーとなります。

## (3) 入出力

なし。

## (4) 終了コード

### 0: 正常終了

正常終了した場合に出力されます。全件クローリングを実行しました。

#### 1：警告付き正常終了

警告付きで正常終了した場合に出力されます。全件クローリングを実行しました。

#### 2：引数不正

引数不正で終了した場合に出力されます。

#### 3：メモリー不足

メモリー不足で終了した場合に出力されます。

#### 4：I/O エラー

I/O エラーで終了した場合に出力されます。

#### 5：パーミッションエラー

パーミッションエラーで終了した場合に出力されます。

#### 6：多重実行

コマンドの多重実行により終了した場合に出力されます。

#### 7：定義不正

定義不正で終了した場合に出力されます。

#### 8：正常終了（件数や時間指定により中断した場合）

件数や時間指定による中断で、正常終了した場合に出力されます。

#### 9：警告付き正常終了（件数や時間指定により中断した場合）

件数や時間指定による中断で、警告付き正常終了した場合に出力されます。

#### -1：上記以外のエラーで異常終了

上記以外のエラーが原因で終了した場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- 本コマンドはコマンドプログラムではなく Windows プログラムとして実装されているため、コマンドプロンプト上にはメッセージは表示されません。メッセージはトレースファイルとイベントログに出力されます。
- このコマンドの格納先は、「<インストール先フォルダー>%Collector%bin」となります。
- コマンドの実行には OLE DB プロバイダーが必要です。使用する RDB ごとに必要な OLE DB プロバイダーを次に示します。
  - Oracle Database：Oracle Provider for OLD DB
  - HiRDB：Hitachi HiRDB OLE DB Provider
  - Microsoft SQL Server：Microsoft OLE DB Provider for SQL Server
- 外部ユーザーグループ情報登録コマンド（IwsUserGroupInfoImport.bat）とは同時に実行できません。
- WWW クローラーに対してアクセス権をクロールする設定にしている場合は、このコマンドでは実行できません。「9.7.1 クロール実行コマンド」を参照してください。

- エントリー数が大量のクローラー ID を指定した IWS クロール実行コマンドおよびクロールコマンド (IWScrawler.bat) を複数同時に実行するときは、データベースの排他待ち監視時間を、コマンドを単独で実行するときよりも長く設定してください。データベースの排他待ち監視時間の設定は、使用するデータベースのマニュアルを参照してください。
- クロール先で、クロール済みのコンテンツが大量に削除または移動されているときは、-t time で指定したクローリング実行時間を超過することがあります。

### 9.7.3 IWS クロール停止コマンド

クローラータイプが NTFS, WWW, Notes, RDB の場合で、クローリング中のクローラーを停止するときに、このコマンドを使用します。

#### (1) 形式

```
IWSstopcrawler.exe  
-c crawlId
```

#### (2) 引数

-c crawlId (クローラー ID)

クローリングを停止するクローラー ID を指定します。

#### (3) 入出力

なし。

#### (4) 終了コード

0 : 正常終了

正常終了した場合に出力されます。クローリングを停止しました。

#### (5) 注意事項

- 本コマンドはコマンドプログラムではなく Windows プログラムとして実装されているため、コマンドプロンプト上にはメッセージは表示されません。メッセージはトレースファイルとイベントログに出力されます。
- このコマンドの格納先は、「<インストール先フォルダー>%Collector%bin」となります。
- コマンドの実行には OLE DB プロバイダーが必要です。使用する RDB ごとに必要な OLE DB プロバイダーを次に示します。
  - Oracle Database の場合 : Oracle Provider for OLD DB

- HiRDB の場合 : Hitachi HiRDB OLE DB Provider
- Microsoft SQL Server の場合 : Microsoft OLE DB Provider for SQL Server

## 9.8 Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド

Groupmax クローラーでファイル共有をクローリング先に指定した場合、登録済みのファイル共有の情報を削除するときは、このコマンドを実行します。なお、コマンドを実行するためには、Groupmax が出力するファイル共有のアクセス履歴ファイルが必要となります。アクセス履歴ファイルの詳細についてはマニュアル「Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド」を参照してください。

### 9.8.1 Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド

#### (1) 形式

```
IwsDeleteGmaxFileShare.bat
-i gmaxFileShareDeleteLogPath
[-t time]
[-s start]
[-e end]
```

#### (2) 引数

**-i gmaxFileShareDeleteLogPath**

ファイル共有のアクセス履歴ファイルを絶対パス形式で指定します。

**-t time**

削除処理を実行する時間を hhmm 形式で指定します。hh は 0~23, MM は 00~59 までが指定できます。

削除処理実行中に指定した時間が経過した場合は、削除処理を終了します。

指定を省略した場合は、無制限で動作します。指定できる形式以外の値を指定した場合は、引数エラーとなります。

**-s start (削除対象ログの開始日付)**

削除対象とするログの開始日付を yyyyymmdd の形式で指定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。

指定を省略した場合は、end に指定された日付までのすべてのログを削除します。end の指定も省略した場合は、指定したファイルのすべてのログを削除します。

**-e end (削除対象ログの終了日付)**

削除対象とするログの終了日付を yyyyymmdd の形式で指定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。

指定を省略した場合は、start に指定された日付以降のすべてのログを削除します。start の指定も省略した場合は、指定したファイルのすべてのログを削除します。

### (3) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

#### 1：正常終了

時間指定により中断した場合に出力されます。

#### 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

#### 11：登録データ不整合

登録データが不整合の場合に出力されます。ログの削除は完了しています。

#### 12：登録データ不整合

時間指定により中断した場合に出力されます。

#### 20：異常終了

次のどれかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- データベースの接続に失敗しました。
- 各種定義ファイルの参照に失敗しました。
- コマンド実行時の引数に誤りがあります。

### (4) 注意事項

- このコマンドは複数を同時に実行できません。複数を同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。
- 引数-t で指定した時間内に処理が終了しなかった場合は、次回のコマンド実行時に対象ファイルの先頭から削除処理を実行します。

## 9.9 単語情報出力コマンド

検索ログテーブル (SN\_LOG\_KEYWORD) より取得した検索ログ情報を解析し、解析した各検索タームを利用数・出力数に従ってファイル出力するコマンドです。出力は引数で指定した利用数以上のタームを対象とし、第一ソートは利用数降順、第二ソートはターム昇順にてタームを出力します(すなわち検索頻度の高いキーワードを優先して出力します)。出力ファイルの文字コードは、BOMなしの UTF-8 にて出力します。

このコマンドの出力ファイルは、HiRDB XML Extension でサポートする文字列指定インクリメンタルコマンドの引数として指定できます。文字列指定インクリメンタルコマンドについては、マニュアル「HiRDB XML Extension Version 9」を参照してください。

### 9.9.1 単語情報出力コマンド

#### (1) 形式

```
IwsWordInfoOutput.bat
-o 出力先ファイルパス
{[-d 情報抽出範囲日数] |
 [-s 情報抽出範囲開始日付] [-e 情報抽出範囲終了日付]}
[-t 出力ターム数]
[-u ターム利用数]
[-f]
```

#### (2) 引数

##### -o 出力先ファイルパス

単語情報を出力するファイルの絶対パスを指定します。

##### -d 情報抽出範囲日数

コマンド実行日を含んだ日数分の範囲を情報抽出範囲とし、情報抽出範囲日数を数値にて指定します。指定範囲は、1 から 366 までです。この引数を省略した場合は 7 を仮定します。

この引数を指定すると、引数-s と引数-e の指定はできません。重複して指定した場合はエラーとなります。

引数-d、引数-s および引数-e のいずれも指定されていない場合は、引数-d は 7 を仮定します。

##### -s 情報抽出範囲開始日付

情報抽出範囲開始日付を yyyyymmdd 形式にて指定します。指定範囲は、19700101 から 99991231 までです。指定を省略した場合は、19700101 を仮定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。また、引数-d とは重複して指定できません。重複して指定するとエラーとなります。

#### -e 情報抽出範囲終了日付

情報抽出範囲終了日付を `yyyymmdd` 形式にて指定します。指定範囲は、19700101 から 99991231 までです。指定を省略した場合は、99991231 を仮定します。指定できる形式以外を指定した場合、および日付として不正な値を指定した場合は、引数エラーとなります。また、引数-d とは重複して指定できません。重複して指定するとエラーとなります。

#### -t 出力ターム数

ファイルに出力するターム数を指定します。指定範囲は、0 から 100000 までです。指定を省略した場合は、100 を仮定します。0 が指定された場合は、出力対象のタームすべてを出力します。

#### -u ターム利用数

検索条件にて利用したタームごとの合計利用数を指定します。この合計利用数以上のタームが出力対象となります。指定範囲は、0 から 100000 までです。

指定を省略した場合は、0 を仮定します。

#### -f

-o で指定した出力先にすでに同ファイルが存在していた場合は上書きします。

-f の指定がなくすでにファイルが存在している場合や、-f の指定はあるが同一パスのディレクトリがすでに存在していた場合はエラーとなります。

### (3) 入出力

#### 入力

なし。

#### 出力

出力ファイルとしてターム利用数の降順に、単語ごとの改行区切りで出力されます。

### (4) 終了コード

#### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。

#### 10：引数誤り

引数誤りの場合に出力されます。コマンド実行時の引数に誤りがあります。

#### 11：警告終了

出力ファイルの最大サイズを超過した場合に出力されます。

#### 20：異常終了

次のどれかが原因で異常終了した場合に出力されます。

- ファイルの出力エラーが発生しました。
- 重複実行エラーが発生しました。
- データベースへのアクセスエラーが発生しました。

## (5) 注意事項

- 出力ファイルの最大サイズは 10M バイトです。これを超過する情報(単語)は出力しません。超過する場合は、警告メッセージを出力して超過しない範囲の情報を出力します。
- このコマンドで解析対象とする検索条件は、一行検索に指定した検索条件、および詳細検索に指定したキーワード検索条件が対象となります。
- 検索条件が複数のタームで構成されている場合、タームごとに分割を行います。また、ターム利用数は、タームごとの分割後に集計した合計利用数となります。
- 検索条件式にフレーズ検索が指定されていた場合、フレーズ内を以下のように正規化した後、半角空白文字を区切り文字としてタームごとの分割を行います。
  - 全角空白文字を半角空白文字に置換
  - 連続する半角空白文字を 1 つに置換
  - 前後に存在する半角空白文字を削除
- 情報抽出範囲日付の日付形式が不正であった場合は、形式不正のメッセージを出力します。
- -s と -e に同じ日付を指定した場合は、指定した日付の情報抽出を実行します。
- -s と -e の日付が逆転している場合は、指定範囲不正のメッセージを出力します。
- コマンドは複数同時に実行できません。複数同時に実行した場合は、あとから実行したコマンドがエラーとなります。

## 9.10 情報削除コマンド

---

この節では、日々の運用で増加する情報を削除するコマンドについて説明します。

### 9.10.1 ログ情報削除コマンド

単調増加していく検索ログおよびアクセスログを削除するコマンドです。

#### (1) 形式

```
IwsDeleteLogInfo.bat
-t {search|access}
[-d day]
```

#### (2) 引数

-t {search|access}

削除するログ情報種別を指定します。

search

検索ログ

access

アクセスログ

-d day

ログ情報を保持する日数を、1～366の範囲の数値で指定します。コマンド実行日を1とした、日数分の日付のログ情報を保持対象とします。

指定を省略した場合は、90が指定されたものとみなします。

(例)

4/10 2:00に「-d 1」を指定した場合、4/10 0:00以降の情報が保持され、以前の日付のログ情報は削除されます。

#### (3) 入出力

なし。

#### (4) 終了コード

0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。ログ情報の削除に成功した場合に出力されます。

## 10：警告終了

引数エラーで終了した場合に出力されます。

## 20：異常終了

ログ情報削除コマンドが異常終了した場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- このコマンドを同じ-t オプションの指定で複数同時に実行すると、後から実行した方のコマンドがエラーとなります。
- このコマンドは、以下のコマンドと同時実行できません。後から実行した方のコマンドがエラーとなります。
  - ランキング集計コマンド (IwsMakeRanking.bat)
  - 統計情報削除コマンドによるランキング統計情報の削除 (IwsDeleteReport.bat -t rank)

## 9.10.2 期限切れエントリー定期削除コマンド

RSS のフィードまたは Web サイト、クローラータイプが NTFS, WWW, Notes, RDB, Groupmax のクローラーで、タスクスケジューラに指定した時間以外に期限切れエントリーの削除を実行するときに、このコマンドを使用します。

### (1) 形式

```
IWSexpired.exe  
[-t time]
```

### (2) 引数

-t time

削除を実行する時間を hhmm 形式で指定します。hh は 00~23, mm は 00~59 までが指定できます。コマンドの実行を開始したあとに指定した時間が経過した場合は、削除処理を終了します。指定を省略した場合または「0000」を指定した場合は、無制限で動作します。指定できる形式以外の値を指定した場合は、エラーとなります。

### (3) 入出力

なし。

## (4) 終了コード

### 0：正常終了

正常終了した場合に出力されます。全件削除を実行しました。

### 2：引数不正

引数不正で終了した場合に出力されます。コマンド実行時の引数に誤りがあります。

### 3：メモリー不足

メモリー不足エラーの発生で終了した場合に出力されます。

### 5：パーミッションエラー

パーミッションエラーで終了した場合に出力されます。

### 8：正常終了（時間指定により中断した場合）

-t 引数で指定した時間が経過したため、削除処理を終了した場合に出力されます。

### -1：上記以外のエラーで異常終了

コマンド実行中にエラーが発生した場合に出力されます。

## (5) 注意事項

- このコマンドはコマンドプログラムではなく Windows プログラムとして実装されているため、コマンドプロンプト上にはメッセージは表示されません。メッセージはトレースファイルとイベントログに出力されます。
- コマンドの実行には OLE DB プロバイダーが必要です。使用する RDB ごとに必要な OLE DB プロバイダーを次に示します。
  - HiRDB：Hitachi HiRDB OLE DB Provider
- 外部ユーザーグループ情報登録コマンド (IwsUserGroupInfoImport.bat) および IWS クロールコマンド (IWScrawler.exe) とは同時に実行できません。

# 付録

## 付録 A このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むにあたっての参考情報を示します。

### 付録 A.1 関連マニュアル

このマニュアルの関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- uCosminexus Enterprise Search 環境設定ガイド (3020-3-H90)  
Enterprise Search の環境設定について知りたい場合に参照してください。
- uCosminexus Enterprise Search ユーザーズガイド (3020-3-H92)  
Enterprise Search のユーザーの操作について知りたい場合に参照してください。
- uCosminexus Enterprise Search メッセージ (3020-3-H93)  
Enterprise Search で出力されるメッセージについて知りたい場合に参照してください。
- uCosminexus Enterprise Search プログラマーズガイド Java インターフェース編 (3020-3-H94)  
Enterprise Search を使用してアプリケーションプログラムの開発を行う場合に参照してください。
- Collaboration - Forum システム管理者ガイド (3020-3-H11)
- Collaboration - File Sharing システム管理者ガイド (3020-3-H13)
- Collaboration - Bulletin board システム管理者ガイド (3020-3-H23)  
Groupmax のエクスポート機能について知りたい場合に参照してください。
- HiRDB XML 拡張機能 HiRDB XML Extension Version 8 (3020-6-376)
- HiRDB XML 拡張機能 HiRDB XML Extension Version 9 (3020-6-480)  
コマンドの定義について知りたい場合に参照してください。
- HiRDB Version 8 システム定義 (Windows(R) 用) (3020-6-353)
- HiRDB Version 9 システム定義 (Windows(R) 用) (3020-6-453)  
HiRDB のバックエンドサーバー定義について知りたい場合に参照してください。

### 付録 A.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルで使用している表記と、対応する製品名を次に示します。

表 A-1 このマニュアルでの表記

製品名称	略称
Groupmax Portal 07-83 以降*	Groupmax
Groupmax Collaboration Web Client - Forum/File Sharing 07-83 以降*	

製品名称	略称
uCosminexus Collaboration Portal 06-83 以降	Groupmax
uCosminexus Collaboration Portal - Forum/File Sharing 06-83 以降	
Lotus Domino	Domino
Lotus Notes	Notes

注※ Groupmax のファイル共有機能を使用する場合は、対象とするバージョンは 07-86 以降となります。

## 付録 A.3 英略語

このマニュアルで使用する主な英略称を次に示します。

表 A-2 英略語

英略称	英字での表記
CSV	Comma Separated Values
DN	Distinguished Name
EUC-JP	Extended UNIX Code Packed Format for Japanese
GUI	Graphical User Interface
HTML	Hyper Text Markup Language
ID	Identifier
NTFS	NT File System
OS	Operating System
RSS	Rich Site Summary
URL	Uniform Resource Locator
WWW	World Wide Web

## 付録 A.4 KB (キロバイト) などの単位表記について

1KB (キロバイト), 1MB (メガバイト), 1GB (ギガバイト), 1TB (テラバイト) はそれぞれ 1,024 バイト, 1,024<sup>2</sup> バイト, 1,024<sup>3</sup> バイト, 1,024<sup>4</sup> バイトです。

## 付録 B 用語解説

---

Enterprise Search のアドミニストレーター画面で使用する用語について説明します。

### (英字)

#### RSS ID

RSS を一意に認識するための番号です。RSS を追加する際に、Enterprise Search が自動的に番号を設定します。

#### RSS フィード

Web サイトで提供される RSS 形式の更新情報です。RSS クローラーに RSS フィードを追加する際に、ユーザーは任意の URL を指定します。指定した RSS の URL、または Web サイトの URL から RSS フィードが導き出されます。

### (ア行)

#### アンテナモード

Web サイトの HTML の新旧を比較して、その内容が更新されているかどうかで Web サイトが更新されているかどうかを確認する機能です。RSS に対応していない Web サイトの場合は、この機能を使用して登録します。

#### エントリー ID

エントリーを一意に認識するための番号です。RSS でフィードを追加する際に、Enterprise Search が自動的に番号を設定します。

### (カ行)

#### 外部ユーザー情報

Enterprise Search が連携できる外部システムのログイン ID などのユーザー情報を、外部ユーザー情報といいます。Active Directory, Domino Directory のユーザー情報を、Enterprise Search のコマンド操作で取り込むことができます。

#### クローラー

ユーザーが登録した RSS フィード、および RSS クローラー以外のクローラーで取得したドキュメントの情報を周期的に取得するための機能です。情報の取得先の指定や、巡回する周期のスケジュール管理などを行います。Enterprise Search はインストール時に RSS クローラーを一つ定義します。デフォルトの RSS クローラー以外のクローラーを定義する場合は、クローラーを追加して定義する必要があります。

## クローリング

クローラーが周期的にフィードの情報を取得することです。

## (サ行)

### サジェスト機能

ユーザーが入力している検索キーワードの候補を、サーバーのキーワード候補ファイルを参照することで表示する機能です。キーワード候補ファイルは、システム管理者が定義します。

### 情報登録ファイル

複数のユーザーを Enterprise Search に一括で登録する場合に使用する CSV 形式のファイルです。形式 1 と形式 2 があり、外部ユーザー情報を Enterprise Search に登録する場合は、形式 2 を使用します。

## (タ行)

### ドキュメント

RSS クローラー以外のクローラーで取得した Web サイト、共有フォルダー内のファイル、Notes 文書などです。

## (ハ行)

### フィード

RSS フィードとドキュメントの総称です。

# 索引

## A

Active Directory ユーザーグループの関連情報出力  
コマンド 129

## C

CSV ファイル作成時の注意事項 24

## D

Domino Directory ユーザーグループ関連情報出力  
コマンド 131

## E

Enterprise Search の概要 12

Enterprise Search の特長 12

## G

Groupmax クローラー詳細情報画面 70

Groupmax 検索設定 112

Groupmax ファイル共有クローラー削除コマンド 165

## I

IWS クロールコマンド 160

IWS クロール停止コマンド 163

## K

KB (キロバイト) などの単位表記について 175

## N

Notes クローラー詳細情報 65

Notes 認証定義の詳細情報 80

Notes 認証定義の設定 80

NTFS クローラー詳細情報 63

## R

RDB クローラー詳細情報 66

RSS クローラー詳細情報 60

RSS 情報一覧 35

RSS 情報詳細 37

RSS 追加 42

## S

SiteMinder 定義 82

SiteMinder 定義の詳細情報 82

## U

URL を指定した RSS フィードの追加 42

## W

Web サービス設定 114

WWW クローラー詳細情報 61

## あ

アカウント 27

アカウント詳細 28

アドミニストレーター画面の構成 17

アンテナモードでの Web サイト追加 44

## え

英略語 175

エントリー情報一覧 39

エントリー数の上限設定 38

## か

外部システムのアクセス権連携 13

外部ユーザーグループ情報登録コマンド 133

外部ユーザー情報関連付けコマンド 133

外部ユーザー情報登録 31

外部ユーザー情報登録の実行 33

外部ユーザー情報登録用 CSV ファイルの形式 31

外部ユーザー情報のコマンド 129

仮想フォルダー画面 87

仮想フォルダー作成画面 90

仮想フォルダー詳細画面 94

仮想フォルダーとは 86

管理ユーザー情報 100

## き

- キーワード候補ファイル作成コマンド 139
- 期限切れエントリ定期削除コマンド 171
- 共通定義の更新 84

## く

- クローラー一覧 51
- クローラー管理とは 49
- クローラー詳細情報の共通設定項目 54
- クローラー詳細情報の設定 54
- クローラー定義一括登録コマンド 150
- クローラー統計画面 119
- クローラーの仮想フォルダー 97
- クローラーの共通定義 75
- クローラーの追加 53
- クローリングエラー RSS 47
- クローリング停止 RSS 46
- クロール実行コマンド 157
- クロール統計情報取得コマンド 145

## け

- 検索インデクス統計画面 121
- 検索インデクス統計情報取得コマンド 146
- 検索設定 112
- 検索統計画面 117
- 検索統計情報取得コマンド 147

## こ

- このマニュアルでの表記 174
- コマンドの形式 150

## さ

- サーバー情報 103
- サーバー設定 104

## し

- 情報削除コマンド 170

## せ

- 全文検索データ再収集のコマンド 137
- 全文検索データ連携のコマンド 136

## た

- 多機能検索画面設定 115
- 単語情報出力コマンド 167

## て

- 定義ファイルの記述規則 152
- 定義ファイルの形式 151

## と

- 統計情報 117
- 統計情報削除コマンド 148
- 統計レポートのコマンド 142
- 登録データ統計情報取得コマンド 145

## に

- 認証設定 104

## ふ

- プロキシ定義の詳細情報 78
- プロキシ定義の設定 78

## ゆ

- ユーザー一括登録 22
- ユーザー一括登録の情報登録ファイルの形式 22
- ユーザー一括登録の手順 24
- ユーザー情報一括登録コマンド 127
- ユーザー登録 20
- ユーザー認証定義 75
- ユーザー認証定義の詳細情報 76

## よ

- 用語解説 176

## ら

- ランキング画面 123

ランキング集計コマンド 142

## ろ

ログイン 16

ログ情報削除コマンド 170